

KM0032/KM0532/KM0932

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、KM0032/KM0532/KM0932 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2014 年 2 月 5 日

ファームウェア Ver. 2.0.191 版

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではありません。

キーボード、マウス、モニター、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付带的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

【補足】

- ・本規定は ATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。が、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではありません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予想できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
FCC	8
RoHS	8
SJ/T 11364-2006	8
安全にお使い頂くために	9
全般	9
ラックマウント	11
同梱品	12
本マニュアルについて	13
概要	13
マニュアル表記について	15
第1章 はじめに	16
概要	16
特長	18
システム要件	21
コンソール	21
コンピューター	21
ケーブル	22
OS	24
製品各部名称	25
KM0532/KM0932 フロントパネル	25
KM0032 フロントパネル	27
KM0532/KM0932 リアパネル	29
KM0032 リアパネル	31
第2章 ハードウェアのセットアップ	33
概要	33
セットアップの前に	34
デバイスの卓上設置とラックマウント	34
卓上設置	34

ラックマウント	35
デバイスの接地	39
単体構成でのセットアップ	40
複数構成でのセットアップ	43
概要	43
カスケード接続	43
デ이지チェーン接続	48
ネットワーク管理	49
接続に関する注意事項	50
コンピューターモジュール ID 機能	50
第 3 章 スーパーアドミニストレーターによる 初期設定	51
概要	51
初回使用時に必要なセットアップ	51
ネットワーク設定	53
スーパーアドミニストレーターのログイン情報の変更	54
操作を続けるには	55
第 4 章 ログイン	56
概要	56
コンソールからのログイン	56
ブラウザからのログイン	58
OSD ログインモードの無効	59
第 5 章 ユーザーインターフェース	60
概要	60
コンソールのユーザーインターフェース	60
コンソール UI 画面における項目	61
コンソール UI におけるキーボード操作	62
ブラウザのユーザーインターフェース	63
ブラウザ UI 画面における項目	64
第 6 章 デバイス管理	65
概要	65
デバイス	65
デュアルルート	68
デュアルルートでのカスケード接続	70
KA7178 デュアル出力ドングル	73
ネットワーク	74
IP Installer	76

ANMS	78
SMTP 設定	80
RADIUS 設定	81
LDAP/LDAPS 設定	82
TACACS 設定	83
関連付け	84
電源管理	84
サマリー	90
マルチビュー	91
マルチビューグループ	92
セキュリティ	95
Date/Time	99
日付	99
Time	99
タイムゾーン	100
システム	102
第 7 章 ユーザー管理	103
概要	103
アカウント	103
ユーザーの追加	105
ユーザーアカウントの変更	108
ユーザーアカウントの削除	108
グループ	109
グループの作成	109
グループの変更	111
グループの削除	111
ユーザーとグループ	112
ユーザーメニューを使ってユーザーをグループに登録する方法	112
ユーザーメニューを使ってユーザーをグループから削除する方法	113
グループメニューを使ってユーザーをグループに登録する方法	115
グループメニューを使ってグループからユーザーを削除する方法	116
デバイスの割り当て	118
ユーザーメニューを使ってデバイス操作権限を割り当てる方法	118
グループメニューを使ってデバイス操作権限を割り当てる方法	120
第 8 章 ポートアクセス	121
概要	121

画面構成	123
ポート選択サイドバー	123
ポート選択ツリー	123
開く.....	125
接続.....	126
デバイスレベル	126
ポートレベル.....	128
コンソールセレクトター.....	130
お気に入り	132
ブラウザ UI.....	132
お気に入りの登録	133
お気に入りの削除	133
履歴.....	134
参照.....	136
ユーザー設定の変更.....	138
マルチキャストオーディオ	142
デフォルト値のリストア	142
セッション	143
セッションの強制終了.....	144
スキャン	144
ブロードキャスト.....	145
アクセス	146
プロパティ.....	148
ポートプロパティの設定	148
KA7140 プロパティ.....	153
デフォルト値のリストア	155
PON.....	156
第 9 章 コンソールからのポート操作	157
概要.....	157
ポートツールバー	158
ポートアクセス画面の再呼出	158
ツールバーの終了.....	158
ツールバーのアイコン	159
ツールバーホットキーによるポート切替.....	160
キーボードホットキーによるポート切替	162
ポート ID の割り当て	162

ホットキーによる画像のプッシュ型配信	163
操作モード	163
ホットキー一覧表	164
第 10 章 ログ	165
概要	165
コンソール UI	166
ログのフィルタリング	166
ブラウザ UI	168
ログのフィルタリング	168
エクスポート	168
第 11 章 ログサーバー	169
インストール	169
起動	170
メニューバー	171
Configure (設定)	171
Events (イベント)	172
Options (オプション)	174
Help (ヘルプ)	174
ログサーバーメイン画面	175
概要	175
リストパネル	176
イベントパネル	176
第 12 章 メンテナンス	177
概要	177
ブラウザ UI	177
バックアップ/リストア	177
バックアップ	178
リストア	179
ファームウェアアップグレード	180
ファームウェアアップグレードのリカバリー	182
モジュールファームウェアアップグレードのリカバリー	183
証明書	184
コンソール UI	186
EDID 情報/アップデート	186
第 13 章 RS-232 経由でのポート操作	188
概要	188

事前準備	188
接続方法	189
制限事項	190
コマンド一覧表	191
AS	193
ST	194
SP	194
TK	195
TS	196
LP	196
LI	197
SN	197
LU	198
応答メッセージ	199
第 14 章 LDAP サーバー設定	200
はじめに	200
Windows 2003 サポートツールのインストール	200
Active Directory スキーマスナップインのインストール	201
スタートメニューのショートカット作成	201
Active Directory スキーマの拡張・更新	202
新規属性の作成	202
新規属性によるオブジェクトクラスの拡張	204
Active Directory ユーザーの編集	206
OpenLDAP	209
OpenLDAP サーバーのインストール	209
Open LDAP サーバーの設定	210
OpenLDAP サーバーの起動	211
OpenLDAP スキーマのカスタマイズ	212
LDAP DTI の構造および LDIF ファイル	213
新しいスキーマの使用	215
付録	216
信頼された証明書	216
概要	216
自己署名 (プライベート) 証明書	217
例	217
ファイルのインポート	217

IP アドレスの設定	218
ローカルコンソールを使った方法	218
IP インストーラーを使った方法	218
ブラウザ	220
トラブルシューティング	221
概要	221
全般	221
Sun	224
対応 KVM スイッチ	226
その他の接続図	228
コンソールモジュール	228
コンピューターモジュール	229
KM0532/KM0932 製品仕様	231
KM0032 製品仕様	234
工場出荷時におけるデフォルト設定	237
工場出荷時におけるデフォルト設定のリスト	239
KA7140 ピンアサイン	241
SPHD コネクタについて	241

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC (米国連邦通信委員会) 規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は 15 アンペアを超えないようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と書かれた RJ-11 コネクタを公衆通信網に接続しないようにしてください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

KM0032/KM0532/KM0932 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ KM0032、KM0532、または KM0932 ×1
- ◆ 電源ケーブル ×2
- ◆ デイジーチェーンケーブル(KM0032 のみ) ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ フットパッドセット(4 個入) ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KM0032/KM0532/KM0932 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

概要

- 第1章 はじめに:** KM0032/KM0532/KM0932 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明します。
- 第2章 ハードウェアのセットアップ:** 製品のセットアップ方法や基本操作手順について説明します。
- 第3章 スーパーアドミニストレーターによる初期設定:** 製品のネットワーク環境の設定、デフォルトユーザーのアカウント/パスワードの変更等、スーパーアドミニストレーターが製品を最初に利用する際に必要となるセットアップ方法について説明します。
- 第4章 ログイン:** ローカルコンソールやインターネットブラウザから KM0032/KM0532/KM0932 にログインする方法について説明します。
- 第5章 ユーザーインターフェース:** 製品の GUI メニューの各項目について説明します。
- 第6章 デバイス管理:** スーパーアドミニストレーターによる、KM0032/KM0532/KM0932 の設定・操作方法について説明します。
- 第7章 ユーザー管理:** スーパーアドミニストレーターやアドミニストレーターによる、ユーザーやグループの作成・編集・削除、また、ユーザーやグループに対する属性の設定に関する各方法について説明します。
- 第8章 ポートアクセス:** 「ポートアクセス」タブの特長と機能、およびこれらが提供するオプションの設定方法について説明します。
- 第9章 コンソールからのポート操作:** KM0032/KM0532/KM0932 のポートに接続されたデバイスへのアクセス・操作に関する各方法について説明します。

第10章 ログ:マトリックス KVM スイッチの内部で発生したイベントを確認する方法について説明します。

第11章 ログサーバー:KM0032/KM0532/KM0932 のログサーバーに関する情報について説明します。

第12章 メンテナンス:システム設定のバックアップ・リストア、ファームウェアアップグレードの実行に関する各方法について説明します。

第13章 RS-232 ポートの操作:KM0032/KM0532/KM0932 にシリアルターミナル経由で接続されたデバイスへのアクセス・操作の各方法について説明します。

第14章 LDAP サーバーの設定:LDAP 接続用のサーバーのセットアップや設定方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]は**エンター**キーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→ 矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

第1章 はじめに

概要

KM0032/KM0532/KM0932 は、大企業の IT システム管理者が、複数台のサーバーを高度にアクセス・管理できる機能を提供するマトリックス KVM スイッチです。最大 5 箇所(KM0532)/9 箇所(KM0932)の KVM コンソール(キーボード、モニター、マウス)で操作するユーザーは、本製品によって最大 32 台のコンピューターを同時に個別アクセスすることができます。また、本製品はデジタイゼーション接続とカスケード接続を組み合わせることでポートを拡張することで、最大 9 コンソールから 8000 台以上のコンピューターを 1 段階目の KM0932 からアクセス・操作することが可能です。

本製品は下表のモデルからラインナップされています。

モデル	コンソール	電源
KM0032	0*	デュアル
KM0532	5	デュアル
KM0932	9	デュアル

* KM0032 は、KM0532/KM0932 のポート拡張専用 KVM スイッチのため、これ自体には、コンソールポートがありません。このユニットに接続された機器は、マスターとなる KM0532/KM0932 のコンソールからアクセスされます。

セットアップは、接続に必要なケーブルをポートに接続するだけです。簡単で時間もかかりません。製品本体とコンソールデバイス(キーボード、モニター、マウス)の接続にはコンソールモジュールを、また、本体とコンピューターの接続にはコンピューターモジュールをそれぞれ使用し、これらのモジュールで自動的にコンソール変換を行いますので、コンソールで PS/2 と USB インターフェースが混在していたり、PS/2、USB、Sun のコンピューターが混在したりしている環境でもお使いいただけます。

RJ-45 ポートコネクタは自動信号補正(ASC)と併用されることで、ケーブルによる延長に伴うビデオ信号の劣化を自動補正し、サーバーに対して非ブロック式のフルアクセスを提供して、セキュアでリアルタイムな広帯域のビデオ出力を最大 300m 先まで転送します。

本製品は UTP ケーブルを介して操作しますので、商用ビルに敷設されているカテゴリ 5e/6 ケーブルの配線を利用できるといったメリットがあります。

サーバーへのアクセスや操作には、直感的で便利な GUI を使うことができます。さらに、ローカルコンソールレベルにおいて、ひとたび内部ネットワークのセットアップが完了すると、システムアドミニストレーターは、各種 Web ブラウザからインターネット経由で KM0532/KM0932 の管理画面にリモートアクセスすることができます。

特長

- ◆ 製品に直結された最大 32 台のサーバーを 9 箇所(KM0932)/5 箇所(KM0532)のコンソールから独立して同時に操作することが可能
- ◆ 標準化された GUI - 全 ALTUSEN 製品の共通インターフェースを採用。トレーニングに費やされる時間やコストを削減し、作業効率を向上
- ◆ システム設定や管理が簡単な Web インターフェースを提供
- ◆ 冗長電源対応
- ◆ バーチャルメディア対応 - 操作 PC に接続されたストレージメディアを、バーチャルメディア対応モジュールを使用して製品に接続されたサーバーでマウントが可能
- ◆ 電源関連付け機能 - KVMポートをPN0108 電源アウトレットに関連付け、製品インターフェースからサーバーのリモート電源管理を実現
- ◆ デュアルルート機能 -コンソールを最大 18 まで増設することが可能
- ◆ RS-232 ポートログイン機能 - KVMポートへのアクセスは製品に接続された全コンソールから管理可能。KVM ポートにはどのコンソールからでもシングルインターフェースでアクセス可能
- ◆ コンソール選択機能を使用して、サーバーを簡単にモニタリングしたり操作したりできるコンソールのセットアップが可能
- ◆ ビデオホットキーを使用して、ユーザーがコンソールのポート接続を他のポートへ切り替えてモニタリングしたり操作したりすることが可能
- ◆ 複数のコンソールが同じ KVM ポートにアクセスすることができるマルチキャストオーディオ機能 - ポートからオーディオを一斉送信し、複数のコンソールからオーディオを聞くことが可能
- ◆ EDID モニター情報を取得し保存することで、最適な解像度を得られるようにコンピューターモジュールをアップデートすることが可能
- ◆ ツールバー無効機能 - ツールバーホットキーの使用時に画面にツールバーが表示されるのを無効にし、代わりにユーザーがすぐに GUI 画面に戻れるようにすることが可能
- ◆ ログインモード無効機能でアクセス権限無しでログインすることが可能
- ◆ リモート認証 - RADUIS、LDAP、TACACS、LDAPS、MS Active Director 対応
- ◆ ATEN ログサーバー及びシステムログサーバー対応
- ◆ 設定時間を節約可能 - マスターステーションを変更した際に、ユーザー/グループアカウント、ステーションネーム、ポートアクセス権、ユーザープロファイルなどのユーザーアカウント情報のバックアップやポートノート、サーバーネーム、ステーションネーム、アクセス権やグループ/ユーザーネーム及びパーソナルプロファイルのリストアップが可能
- ◆ 最大 1,024 ユーザー、255 グループのアカウント作成が可能

- ◆ マルチメディア用オーディオ対応 - オーディオ対応コンピューターモジュールを使用してオーディオ対応が可能
- ◆ 3 段階のユーザー権限 - スーパーアドミニストレーター/アドミニストレーター/ユーザーの3 種類のユーザーレベルを提供
- ◆ ポートレベルのアクセスコントロール - 機器構成にかかわらず、サーバーにアクセスできるのは権限が与えられたユーザーのみ
- ◆ 高い拡張性 - デイジーチェーン接続は拡張専用 KVM スイッチ KM0032 を最大 7 台追加可能。
- ◆ 3 段階のカスケード接続に対応 - 8000 台以上のサーバー管理が可能
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Linux、Mac、Sun、シリアルデバイス
- ◆ セッション管理機能 - セッション強制終了機能によって管理者はユーザーログアウトの強制執行が可能
- ◆ デュアルインターフェース対応 - サーバー、コンソールともに PS/2 または USB のキーボード/マウスを組み合わせでの使用が可能
- ◆ フロントパネルにも搭載されたユーザーポート(1 箇所)は、システムメンテナンスに有効
- ◆ ホットキーまたは GUI を使用して簡単にサーバーの選択が可能
- ◆ ステーション追加時には OSD ポート一覧のツリーが自動展開 - ステーション/サーバーの位置変更時にはポートネームを自動更新
- ◆ リモートサーバー側での解像度の変更を検出し、ユーザー側のディスプレイで自動的に表示調整
- ◆ 選択したコンピューターのみを対象にモニタリングするオートスキャン機能搭載
- ◆ 解像度 - 1,280×1,024@60Hz (最大 300m)
- ◆ 自動信号補正機能(ASC) - サーバー/コンソール間の距離は最大 300m まで延長可能。延長距離の変更時にも DIP スイッチ等の設定不要
- ◆ コンパクトなデザイン - システムラック 1U サイズでのマウントが可能
- ◆ パス自動割当機能 - デイジーチェーン接続やカスケード接続の構成において使用パスがビジー状態の際に、他にも利用可能なパスが存在する場合は、ユーザーをその利用可能なパスにリダイレクト
- ◆ 複数サーバーの同時利用に対応 - サーバー1 から出力された音楽を再生すると同時に、サーバー2 でバーチャルメディアを利用することが可能
- ◆ ファームウェアアップグレードは、デイジーチェーン接続やカスケード接続された KVM スイッチとコンピューターモジュールすべてを対象に実行

- ◆ 多彩なポート操作モードで柔軟なサーバー管理を実現 - スキャン/排他/占有/共有/強制の各操作モードを提供
 - スキャン - ユーザーが選択したコンピューターを対象に、自動モニタリングを実行
 - 排他 - 最初にポートにアクセスしたユーザーが、そのポートに対する排他参照権限を持ち、時間の制約を受けることなく操作することが可能
 - 占有 - 最初にポートにアクセスしたユーザーが、そのポートに対する参照・アクセス権限を持つが、他のユーザーは参照のみ可能
 - 共有 - 複数のユーザーで同時にポートのアクセス・操作が可能
- ◆ ブロードキャスト機能 - コマンドを製品配下にあるサーバーに一斉送信
- ◆ 多言語対応 - 日本語、英語、ドイツ語、韓国語、中国語(繁体字/簡体字)、ロシア語
- ◆ 自動スキュー補正対応(KA7240) - より優れたビデオ画質を提供するコンピューターモジュール(KA7120、KA7130、KA7170、KA7176、KA7177、KA7178)に対応
- ◆ 本製品と併用された、電源管理デバイス Power Over the NET™やシリアル管理デバイス Serial over the NET™の各製品を同一 UI に統合 - コンピューターやシリアルデバイスのアクセス・操作・電源管理がシングルインターフェースから可能
- ◆ カ ス ケ ー ド 接 続 対 応 機 種 -
KH1508A/KH1516A/KN2116A/KN2124v/KN2132/KN2140v/
KN4116/KN4124v/KN4132/KN4140v
- ◆ KA7xxx モジュールを使用して、KA7230/KA7240 コンソールモジュールから直接コンピューターを接続することが可能
- ◆ マルチビュー機能 - コンピューターモジュールとコンソールモジュールをそれぞれグループリングすることでマルチヘッド出力のコンピューターをサポート

システム要件

コンソール

KVM コンソールには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ 製品に接続して使用するコンピューターの解像度に適した、VGA・SVGA・マルチスキャンモニター
- ◆ キーボード・マウス (PS/2 または USB)

KM0532/KM0932 に KVM コンソールを接続するには、コンソールモジュールが必要です。このコンソールモジュールを使用することで、KVMコンソール側でPS/2とUSBのインターフェースが混在していても、柔軟にお使い頂くことができます。本製品に対応しているコンソールモジュールは、下表のとおりです。詳細については代理店にお問い合わせいただくか、お使いのコンソールモジュールに同梱されているドキュメントをご参照ください。

製品画像	説明	型番
	デュアル RJ-45 & RS-232 搭載 PS/2 - USB コンソールモジュール	KA7230
	バーチャルメディア & オーディオ対応 PS/2 - USB コンソールモジュール(スキュー調整機能搭載)	KA7240

コンピューター

製品に接続して使用するコンピューターには、下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ D-sub15 ピンのモニターポート、またはレガシーSun の場合は Sun 13W3 ビデオポートのついたビデオグラフィックカードをそれぞれ搭載している、VGA・SVGA・マルチスキャンモニター
- ◆ PS/2 マウス・キーボードポート(ミニ DIN6 ピン)、または 1 ポート以上の USB ポート。レガシーSun の場合は Sun キーボードポート(ミニ DIN8 ピン)

ケーブル

コンピューターモジュール

コンピューターモジュールは、マルチプラットフォームのコンピューター(PS/2、USB、Mac、Sun、シリアル)やカスケード接続対応 KVM スイッチを KM0032/KM0532/KM0932 に接続する際に使用するデバイスです。本製品に対応しているコンピューターモジュールは、下表のとおりです。詳細については、代理店までお問い合わせください。

製品画像	機能	型番	コネクター仕様
	PS/2タイプコンソールポートを持つコンピューターとの接続	KA7120	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニター用 D-sub15 ピン オス
	Sun レガシーコンピューターとの接続	KA7130	キーボード&マウス用ミニ DIN8 ピン オス モニター用 13W3 オス
	シリアル対応	KA7140	RS-232 DB-9 ピン メス
	USB コンソールポートを持つコンピューター (Sun・Mac 含む) との接続	KA7170	キーボード&マウス用 USB タイプ A オス モニター用 D-sub15 ピン オス
	USB2.0 タイプコンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(バーチャルメディア&オーディオ対応)	KA7176	キーボード&マウス用 USB タイプ A オス モニター用 D-sub15 ピン オス オーディオプラグ×2

(表は次ページに続きます。)

製品画像	機能	型番	コネクタ仕様
	USB2.0 タイプCコンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応)	KA7177	キーボード&マウス用 USB タイプ A オス モニター用 D-sub15 ピン オス オーディオプラグ×2 スマートカード/CAC 用 USB タイプ A オス
	USB タイプCコンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(2 バス、バーチャルメディア、オーディオ対応)	KA7178	キーボード&マウス用 USB タイプ A オス モニター用 D-sub15 ピン オス オーディオプラグ×2

接続ケーブル

その他、KM0032/KM0532/KM0932 のセットアップには下表のケーブルが使用されます。

機能	種類
コンソールモジュールまたはコンピューターモジュールを製品に接続	カテゴリ 5e またはカテゴリ 6 対応のイーサネットケーブル
製品をデ이지チェーン接続	LIN5-68H1-H11G (35cm)

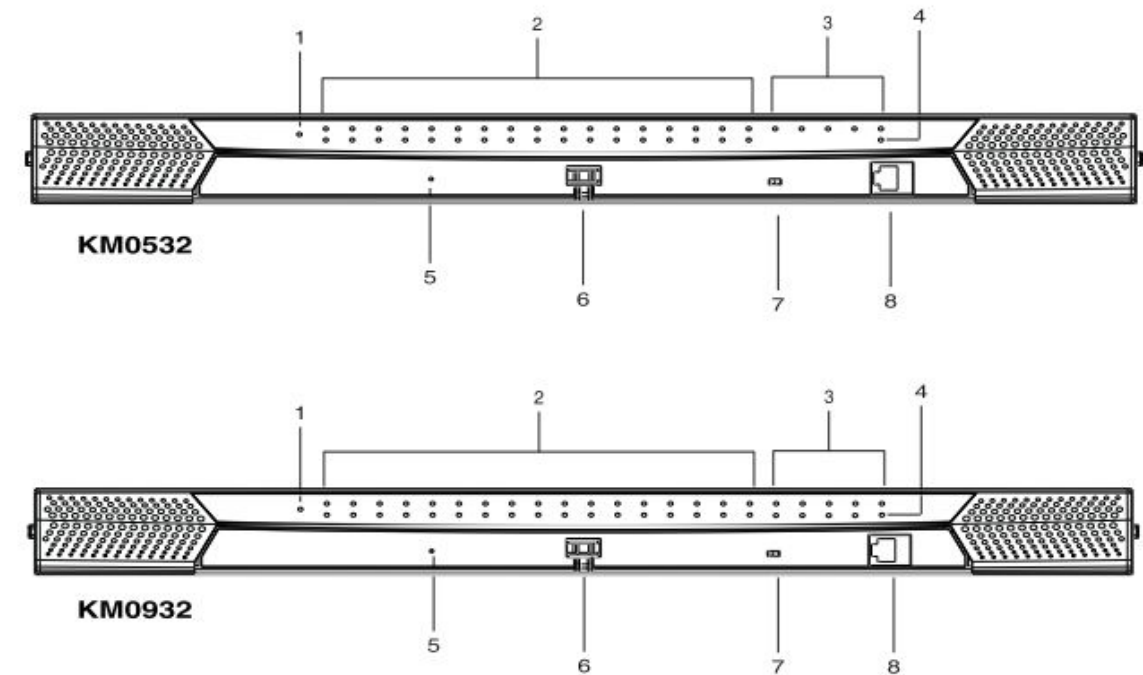
OS

本製品の対応 OS は下表のとおりです。

OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux	Red Hat	7.1 以降
	Fedora	Core 2 以降
	SuSE	9.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
UNIX	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	4.2 以降
	Sun	Solaris 8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		OS 9 以降

製品各部名称

KM0532/KM0932 フロントパネル

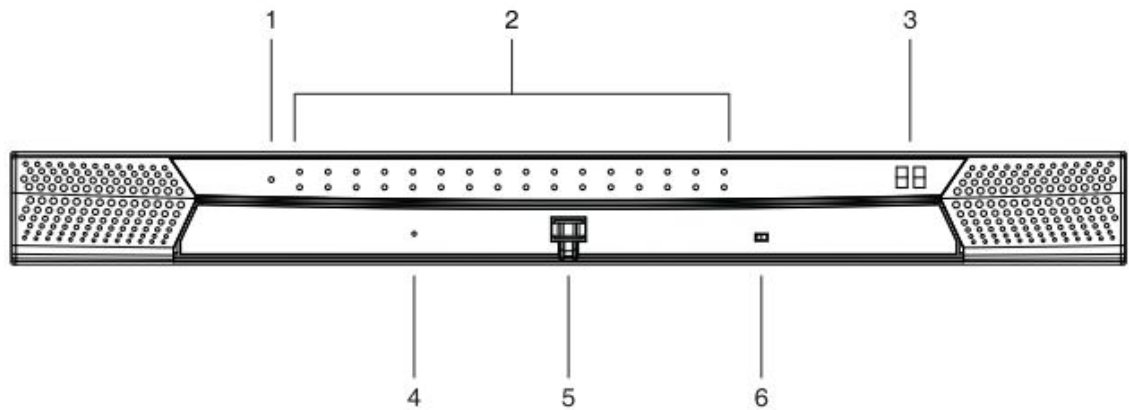


No.	名称	説明
1	電源 LED	ユニットに給電されている時には、この LED がブルーに点灯します。
2	KVM ポート LED	この LED は、対応 KVM ポートのステータスを表します。詳細は下記の通りです。 ◆ グリーンに点灯：対応ポートに接続されたコンピューターがオンライン状態です。 ◆ グリーンに点滅：対応ポートには KVM スイッチがカスケード接続されています。 ◆ レッドに点灯：対応ポートが選択されている(KVM 操作が可能である)ことを表します。 ◆ 対応ポートに接続されているデバイスがオンライン状態でない場合には、この LED は点灯しません。

(表は次ページに続きます。)

No.	名称	説明
3	コンソール(ユーザー) ポート LED	対応ユーザーポートに接続されたコンソールモジュールがオンライン状態である時に、この LED がグリーンに点灯します。
4	LAN LED	◆ データ転送速度が 10Mbps である場合、この LED はオレンジに点灯します。 ◆ データ転送速度が 100Mbps である場合、この LED はグリーンに点灯します。 ◆ データの戦争中には、この LED は点滅します。
5	リセットスイッチ	このスイッチを押すとシステムリセットを実行します。リセットされると、本体からビープ音が出力され、リセットが完了するまで LED は連続して点滅します。リセットが完了すると、再びログインできるようになります。 注意:このボタンはピンホール型になっておりますので、クリップの先など細くて尖っているもので押してください。
6	カバーラッチ	
7	ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ	通常操作時で、ファームウェアアップグレードを実行している間は、このスイッチを「NORMAL」の位置に合わせる必要があります。ファームウェアアップグレードがうまくいかなかった場合には、このスイッチを使ってファームウェアアップグレードのリカバリーを行います(p.182 「ファームウェアアップグレードのリカバリー」参照)。
8	コンソール(ユーザー) ポート	サーバー管理の際に便利のように、フロントパネルにもコンソールポートが提供されています。

KM0032 フロントパネル

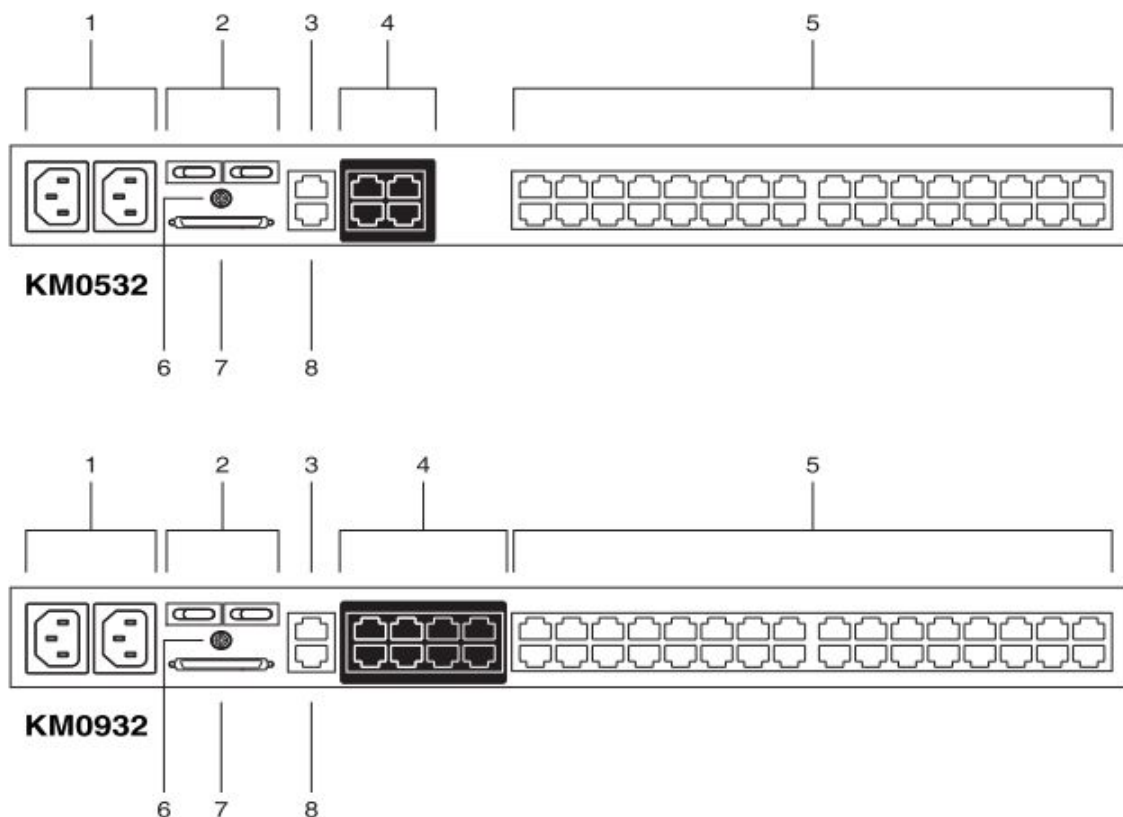


No.	名称	説明
1	電源 LED	ユニットに給電されている時には、この LED がブルーに点灯します。
2	KVM ポート LED	この LED は、対応 KVM ポートのステータスを表します。詳細は下記の通りです。 ◆ グリーンに点灯: 対応ポートに接続されたコンピューターがオンライン状態です。 ◆ グリーンに点滅: 対応ポートには KVM スイッチがカスケード接続されています。 ◆ レッドに点灯: 対応ポートが選択されている(KVM 操作が可能である)ことを表します。 ◆ 対応ポートに接続されているデバイスがオンライン状態でない場合には、この LED は点灯しません。
3	ステーション ID LED	KM0032 のステーション ID がここに表示されます。ここでは、デイジーチェーン接続の構成における KM0032 の位置を表示します。この構成における 1 台目のステーションには、ステーション ID として 01 が、2 台目のステーションには 02 が、といった要領で付番されます。

(表は次ページに続きます。)

No.	名称	説明
4	リセットスイッチ	このスイッチを押すとシステムリセットを実行します。リセットされると、本体からビープ音が出力され、リセットが完了するまでLEDは連続して点滅します。リセットが完了すると、再びログインできるようになります。 注意:このボタンはピンホール型になっておりますので、クリップの先など細くて尖っているもので押してください。
5	カバーラッチ	
6	ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ	通常操作時で、ファームウェアアップグレードを実行している間は、このスイッチを「NORMAL」の位置に合わせる必要があります。ファームウェアアップグレードがうまくいかなかった場合には、このスイッチを使ってファームウェアアップグレードのリカバリーを行います(p.182「ファームウェアアップグレードのリカバリー」参照)。

KM0532/KM0932 リアパネル

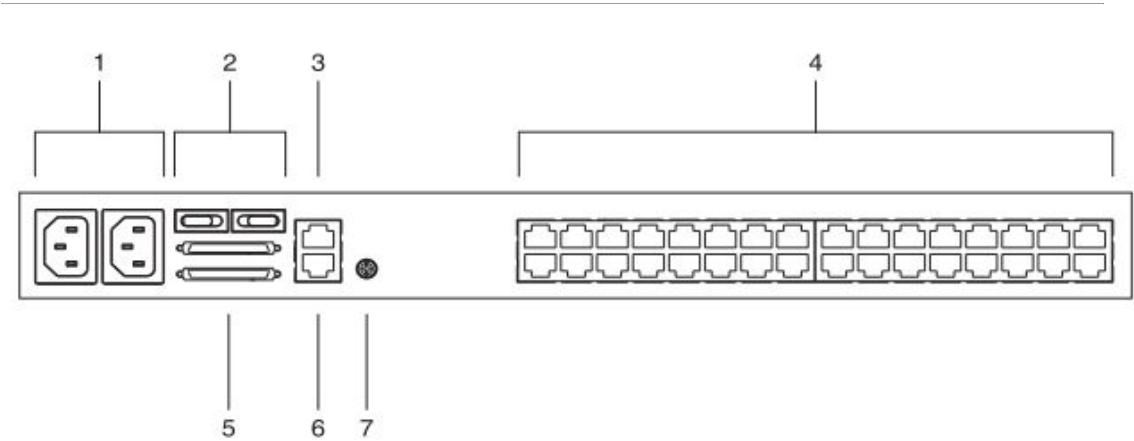


No.	名称	説明
1	電源ソケット	AC 電源に接続するための電源コードをここに接続します。 左側のソケットはソケット 1、右側のソケットはソケット 2 です。
2	電源スイッチ	これらのスイッチを使って、KM0532/KM0932 の電源を ON/OFF にします。左側にある「スイッチ 1」はソケット 1 を、右側にある「スイッチ 2」はソケット 2 をそれぞれ制御します。
3	PON ポート	電源管理デバイス Power Over the NET™を併用する場合は、このコネクタを使って接続します。この Power Over the NET™シリーズは、配下にあるコンピューターの電源管理を遠隔地から行う機能を提供する製品です。詳細については代理店までお問い合わせください。
4	コンソールポート	コンソールモジュールに接続されたカテゴリ 5e/6 ケーブルはこのポートに接続します。

(表は次ページに続きます。)

No.	名称	説明
5	KVM ポート	KM0532/KM0932 とコンピューターモジュールの接続に使用するカテゴリ 5e/6 ケーブルは、このポートに接続します (p.40 参照)。
6	グラウンドターミナル	製品のアースに使用する接地線は、ここに接続します。
7	CHAIN OUT ポート	デイジーチェーン接続された KM0032 の CHAIN IN ポートとこのポートをデイジーチェーンケーブルで接続します (p.49 参照)。
8	LAN ポート	LAN、WAN、イントラネットに接続されているケーブルをここに接続します。

KM0032 リアパネル



No.	名称	説明
1	電源ソケット	AC 電源に接続する電源コードをここに接続します。左側のソケットはソケット 1、右側のソケットはソケット 2 です。
2	電源スイッチ	これらのスイッチを使って、KM0032 の電源を ON/OFF にします。左側にある「スイッチ 1」はソケット 1 を、右側にある「スイッチ 2」はソケット 2 をそれぞれ制御します。
3	PON ポート	電源管理デバイス Power Over the NET™を併用する場合は、このコネクタを使って接続します。この Power Over the NET™シリーズは、配下にあるコンピューターの電源管理を遠隔地から行う機能を提供する製品です。詳細については代理店までお問い合わせください。
4	KVM ポート	KM0032 とコンピューターモジュールの接続に使用するカテゴリ 5e/6 ケーブルは、このポートに接続します (p.40 参照)。
5	デイジーチェーンポート	KM0032 をデイジーチェーン接続する場合 (p.49 参照) は、デイジーチェーンケーブルをここに接続します。上のポートは「CHAIN IN」ポート、下のポートは「CHAIN OUT」ポートです。

(表は次のページに続きます)

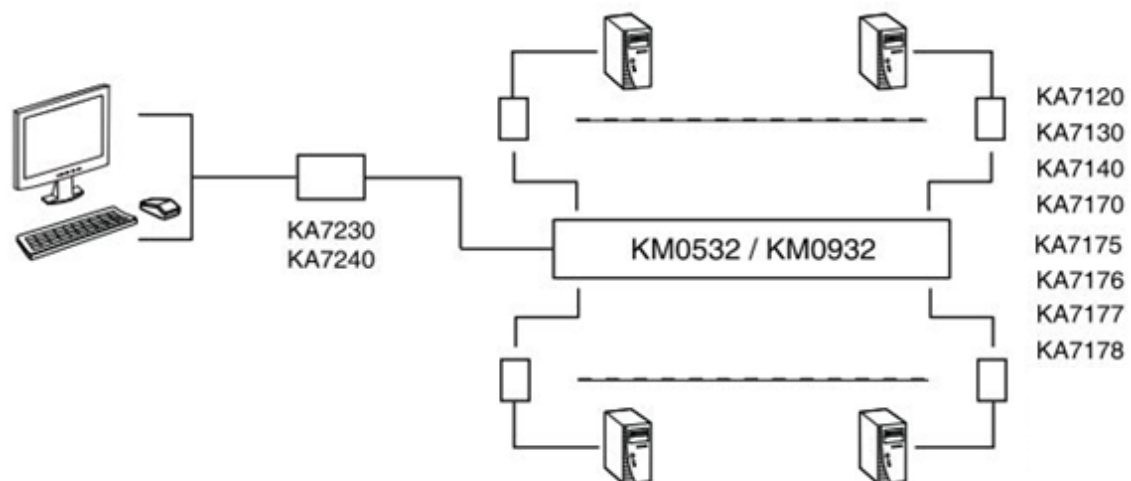
No.	名称	説明
6	ファームウェアアップグレードポート	ファームウェアの更新をリカバリーモードで実行する場合には、アドミニストレーターのコンピュータと、この RJ-45 ポートを LAN で接続します。
7	グラウンドターミナル	製品のアースに使用する接地線は、ここに接続します。

第2章 ハードウェアのセットアップ

概要

PS/2 や USB インターフェースが混在した環境でも便利で柔軟にお使いいただけるように、KM0532/KM0932 は、KVM コンソールと KVM スイッチ間の信号変換媒体として機能するコンソールモジュールといった機器を使用した設計を採用しております。これによって、同じ機器構成において PS/2 と USB インターフェースを混在させることができるようになります。

また、本製品では、KVM スイッチとコンピューター間の媒体として機能するコンピューターモジュールといった機器も使用しており、マルチプラットフォームに対応しています。



コンソールモジュールはKVMコンソールごとに、また、コンピューターモジュールはコンピューターごとにそれぞれご用意ください。本製品に対応しているコンソールモジュールおよびコンピューターモジュールの詳細については p.22 をご参照ください。

コスト削減に貢献する特長として、KM0032 は KM0532 や KM0932 にデジチェーン接続してポートを増設するのに使用できます。KM0032 に接続されたデバイスには、KM0532 や KM0932 のコンソールからアクセスできますので、KM0032 自体にはコンソールデバイスを接続する必要がありません。

セットアップの前に



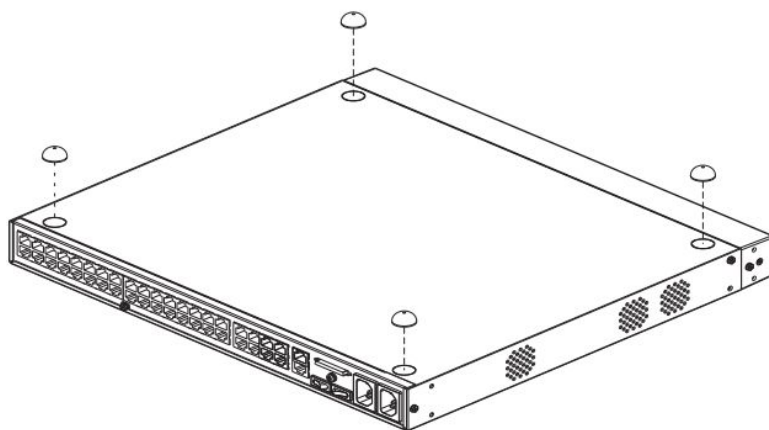
1. 機器の設置に際し重要な情報を p.9 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピューターの電源ケーブルも抜いてください。

デバイスの卓上設置とラックマウント

製品は卓上に置いたり、ラックのフロント側・リア側にマウントしたりして使用することができます。以下のセクションでは製品の卓上設置とラックマウントの方法について説明します。

卓上設置

本体と接続されるケーブルの重量に耐えられる安定した水平な場所であれば、どんな場所にも製品を設置することが可能です。製品本体や、製品にデジチェーン接続されたユニットを置く際には、同梱ゴム製フットパッドの裏面のはくり紙をはがし、下図のように製品底面の四隅に貼り付けてください。



注意： 機器への通気を確保するために、製品の両側面は 5cm 程度以上、また、背面は配線のスペースを考慮して 13cm 以上の空間を設けるようにしてください。

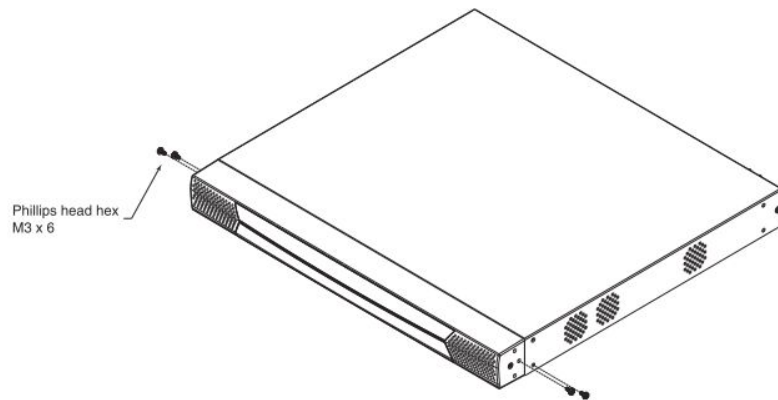
ラックマウント

本製品は EIA 規格 19 インチラックの 1U サイズでマウントできる製品です。マウントブラケット用のネジ穴は機器のフロント側とリア側に設けてありますので、用途に応じて製品本体をラックのフロント側、リア側のどちらにでも設置することが可能です。

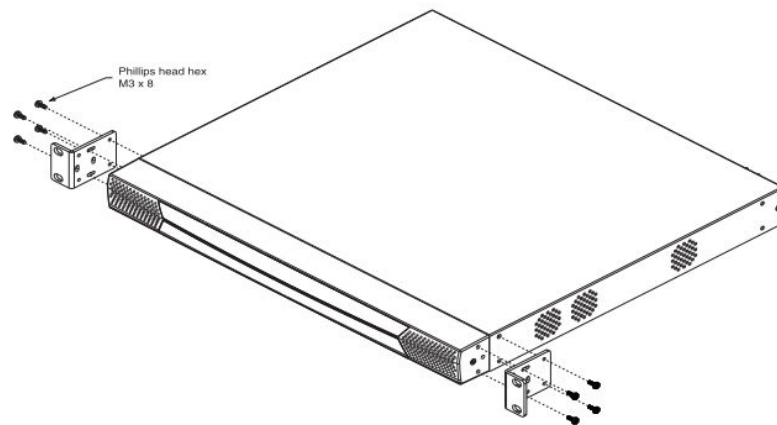
ラックのフロント側にマウントする場合

製品をラックのフロント側にマウントする場合は、以下の手順で作業を行ってください。

1. 下図のように、ブラケットを取り付ける側についているネジをはずします。

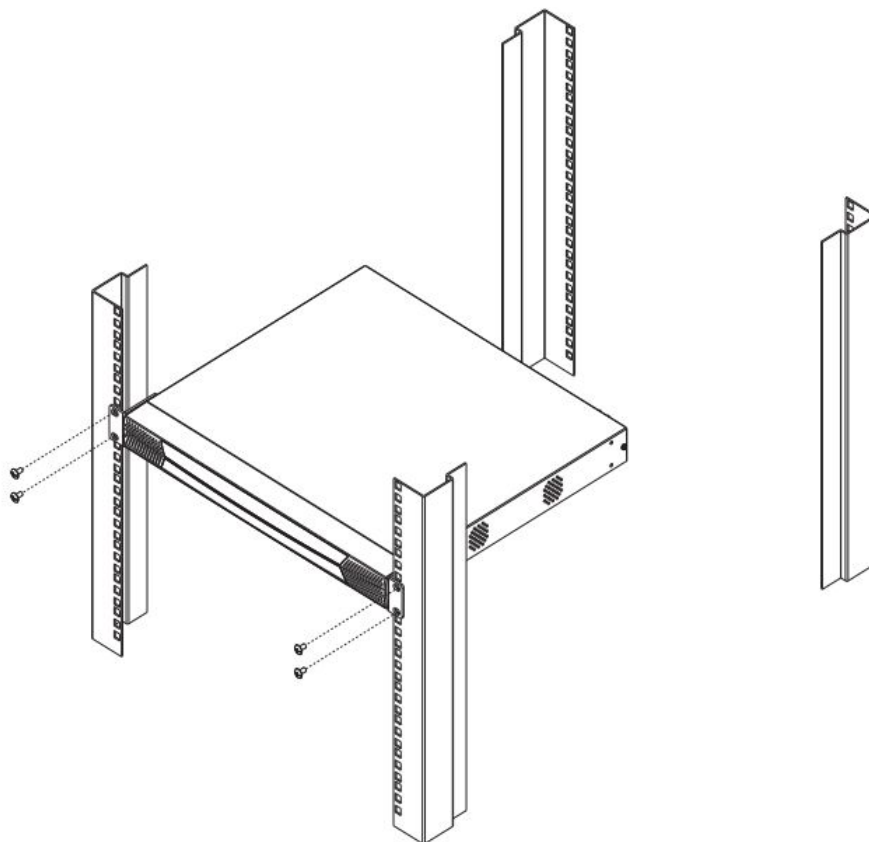


2. ラックマウントキットに同梱されているネジを使用して、マウント用ブラケットを下図のようにフロント側に取り付けます。



3. ブラケットを取り付けた製品を、ラックのフロント側にスライドさせて、ブラケットのねじ穴がラックのねじ穴に合うように位置を調節してください。

4. ブラケットをネジでラックに固定してください。

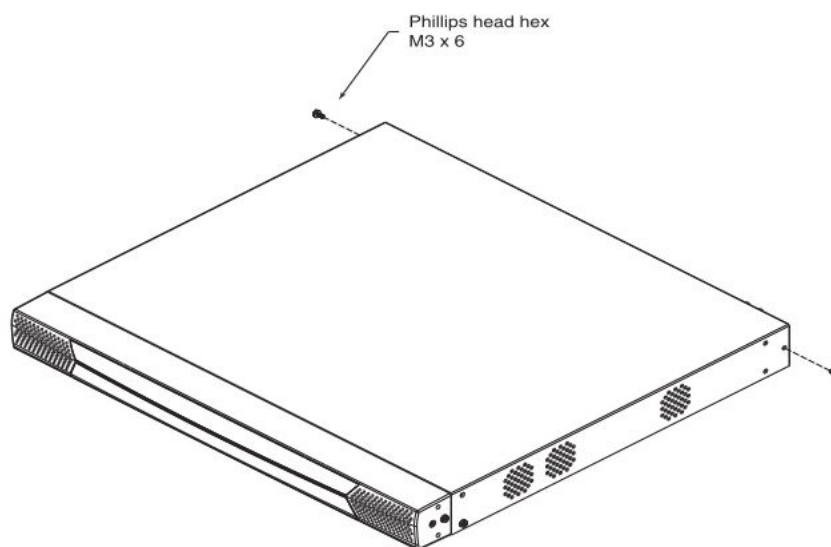


注意: ケージナットは製品には同梱されていないので、お手数ですが別途ご用意ください。

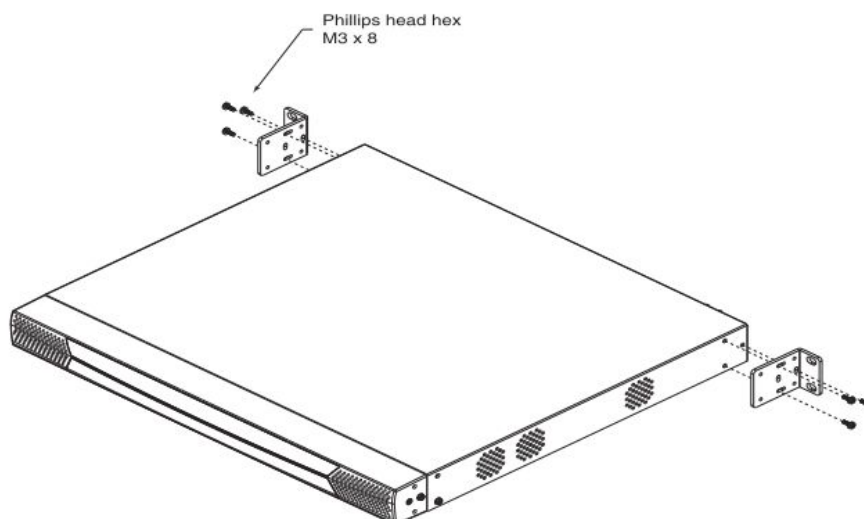
ラックのリア側にマウントする場合

製品をラックのリア側にマウントする場合は、以下の手順で作業を行ってください。

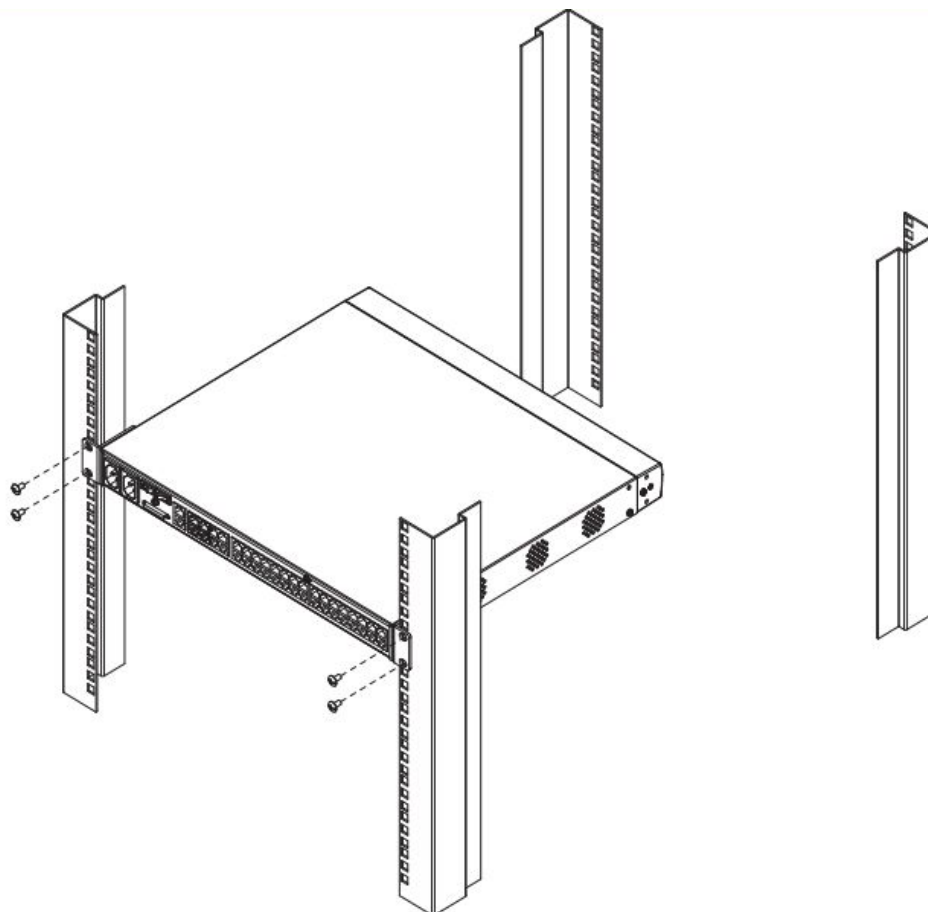
1. 下図のように、ブラケットを取り付ける側についているネジをはずします。



2. ラックマウントキットに同梱されているネジを使用して、マウント用ブラケットを下図のようにフロント側に取り付けます。



3. ブラケットを取り付けた製品を、ラックのフロント側にスライドさせて、ブラケットのねじ穴がラックのねじ穴に合うように位置を調節してください。
4. ブラケットをネジでラックに固定してください。

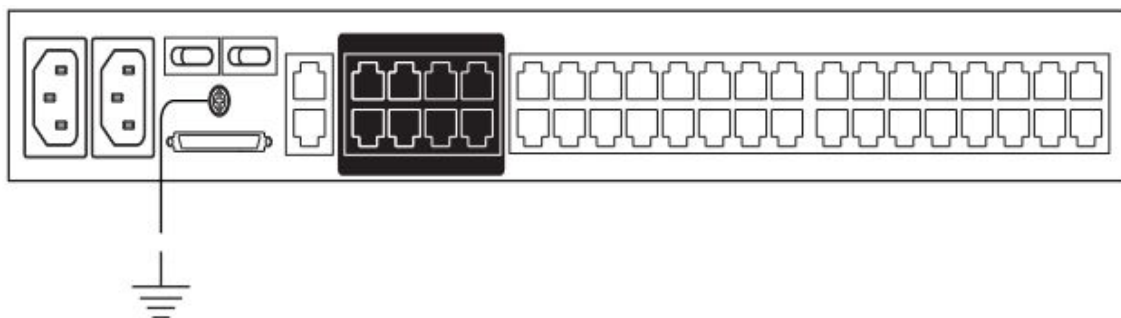


注意: ケージナットは製品には同梱されていませんので、お手数ですが別途ご用意ください。

デバイスの接地

お使いの機器への損傷を防ぐためには、使用するすべてのデバイスを適切に接地する必要があります。

接地線の一端をグラウンドターミナル (p.30 参照) に、もう一端を適切な接地端子にそれぞれ接続して製品本体を接地してください。



単体構成でのセットアップ

製品を単体構成で使用する場合は、他の KVM スイッチをカスケード接続したりデ이지ーチェーン接続したりする必要はありません。単体構成で使用する場合は、p.4242 の接続図 (図内における番号は手順に対応) をご参照の上、以下の手順でセットアップしてください。

1. KVM コンソールを接続してください。

お使いのキーボード、モニター、マウスをそれぞれ、コンソールモジュールの対応ポートに接続してください。ポートには、接続するデバイスがアイコンとカラーリングで識別できるようになっています (p.228 参照)。

2. コンソールモジュールを KM0532/KM0932 に接続してください。

コンソールモジュールの「LINE IN 1」または「LINE IN 2」ポートと、KM0532/KM0932 リアパネルのコンソール(ユーザー)ポートをカテゴリ 5e/6 ケーブルで接続してください。

(接続する KVM コンソールすべてに対して、上記の 1～2 の手順の作業を繰り返してください。この方法で、最大 5 箇所(KM0532)/9 箇所(KM0932)の KVM コンソールを接続することができます。(コンソール(ユーザー)ポートは、フロントパネルに 1 ポート、リアパネルに 4 または 8 ポートあります。))

注意: コンソールモジュールからコンピューターモジュールまでの距離が 300m を超えないようにセットアップしてください。

3. コンピューターモジュールをコンピューターに接続してください。

接続コンピューターに適したコンピューターモジュールを使って、コンピューターモジュールのコネクターをコンピューターの対応ポートにそれぞれ接続してください(p.229 参照)。

4. コンピューターモジュールを KM0532/KM0932 に接続してください。

カテゴリ 5e/6 ケーブルを使って、コンピューターモジュールを KM0532/KM0932 の KVM ポートに接続してください。

(接続するコンピューターすべてに対して、上記の 3～4 の手順の作業を繰り返してください。この方法で、最大 32 台のコンピューターを接続することができます。)

5. LAN または WAN に接続されているケーブルを、KM0532/KM0932 の LAN ポートに接続してください。

6. PON ユニットを接続してください。(オプション)

カテゴリ 5e/6 ケーブルを使って、KM0532/KM0932 の PON ポートと SA0142 アダプターを接続し、このアダプターを電源管理デバイス PN0108 の PON IN ポートに接続してください(p.230 参照)。

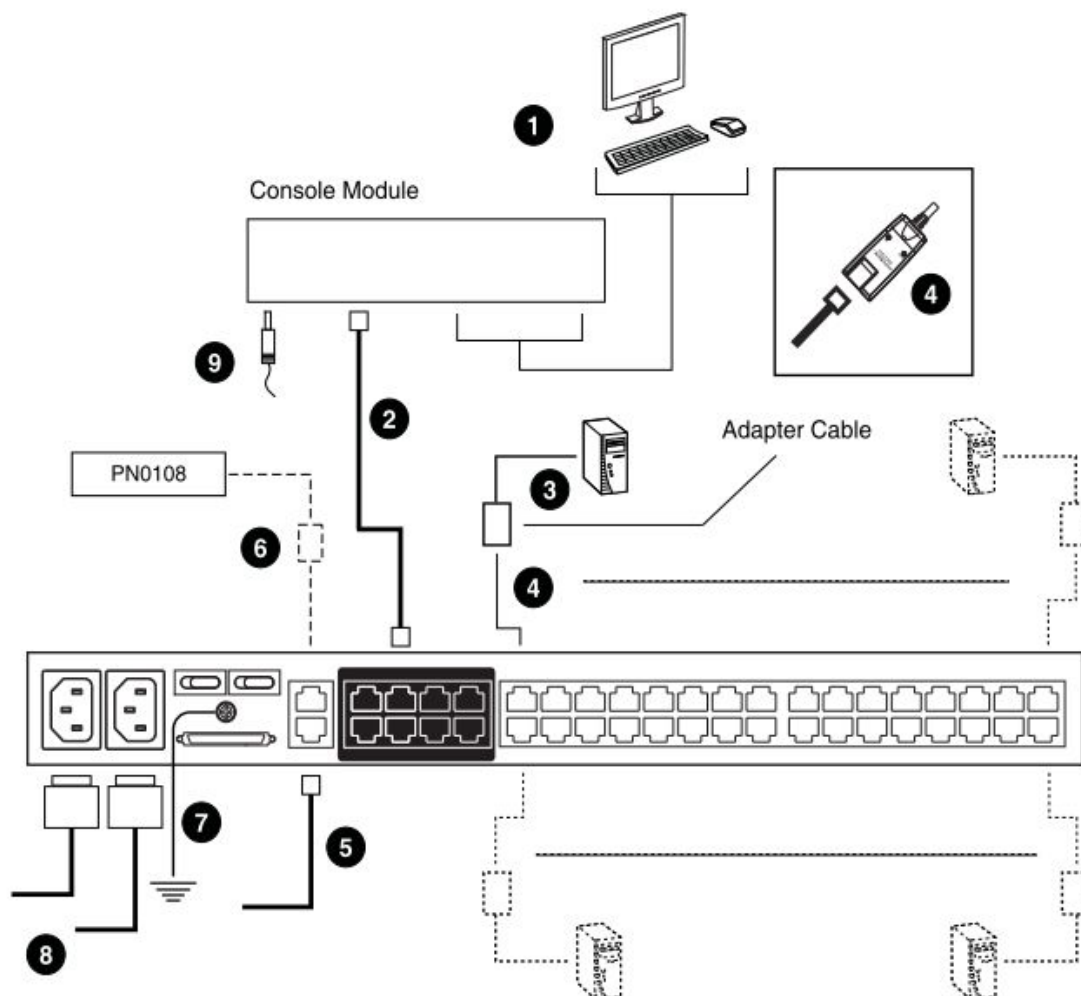
7. 製品本体を接地してください。

接地線を使用して、本体のグランドターミナルをアース端子に接続してください。

注意: この手順は省略しないでください。適切に接地を行うことで、サージや静電気によるダメージからお使いの機器を守ることができます。

8. 製品の電源ソケットに電源ケーブルを接続し、その電源ケーブルを AC 電源に接続してください。電源ケーブルを接続したら、KM0532/KM0932 に電源を入れてください。
9. コンソールモジュールの電源アダプターをコンソールモジュール本体に接続したら、これを AC 電源に接続してください。
10. コンピューターの電源を入れてください。

単体構成 接続図



複数構成でのセットアップ

本製品は複数台のユニットでポートを拡張することで、接続できるコンピューターの台数を増やすことができます。KM0532/KM0932 は、下記の 2 種類の方法でポートの拡張が可能です。

- ◆ カスケード接続
- ◆ デイジーチェーン接続

概要

カスケード接続は、親機として使用する KVM スイッチ(配下に接続されたコンピューターがある KVM スイッチ)の KVM ポートと、子機として使用する KVM スイッチのコンソールポートを接続してポートを拡張する方法です。

デイジーチェーン接続は、専用のデイジーチェーンポート(p.49 の接続図参照)を使って KVM スイッチを増設していく方法です。

KM0532/KM0932 は、このカスケード接続とデイジーチェーン接続のどちらの方法でも拡張できますので、大規模なサーバーシステムにも対応が可能です。後のセクションでは、カスケード接続、デイジーチェーン接続に関する詳細や手順について説明します。

カスケード接続

KM0532/KM0932 は、同一モデル(KM0532/KM0932)を使用する場合は 3 段階のカスケード接続に対応しております。また、その他の対応 KVM スイッチ(p.226 参照)を使用する場合は、1 段階のカスケード接続が可能です。言い換えれば、スレーブとなる KVM スイッチは KM0532/KM0932 以外の KVM スイッチからはカスケード接続することができないということになります。

GUI 互換のあるカスケード接続された KVM スイッチのユーザーインターフェースは、KM0532/KM0932 の GUI に統合され、1 段階目のコンソールがユーザーインターフェースを呼び出したときに、カスケード接続されたすべての KVM スイッチに接続された全コンピューターを一覧表示するポートディレクトリがサイドバーツリー(p.60 参照)に表示されるようになります。

-
- 注意:**
1. カスケード接続された KVM スイッチで GUI 互換のないものは、サイドバーツリーに KVM スイッチだけが表示されます。ここにアクセスすると、各 KVM スイッチ固有の GUI が表示され、ここからポート切替ができます。
 2. 対応 KVM スイッチ、およびこれらの GUI の互換性に関する情報は、p.226 の付録に記載されていますので、そちらをご参照ください。
-

カスケード接続の構成では、親機～子機間のバス接続数によって、子機の KVM ポートに同時アクセスできるユーザー数が決まります。親機の KVM ポートと子機のコンソールポートを接続することによって、バス接続が確立します。KM0532/KM0932 は、カスケード接続された各 KM0532/KM0932 に対しては最大 5(KM0532)または 9(KM0932)バス接続を、その他の KVM スイッチに対しては 1 バスをそれぞれサポートします。

1 段階目の KM0532/KM0932 にあるすべての KVM コンソールが、ここからカスケード接続された KM0532/KM0932 の KVM ポートに同時にアクセスできるようにするために、1 段階目の親機から子機の間で使用する最大バス接続数を設定する必要があります。これらの 2 台の KVM スイッチが直接接続されていない場合は、その間にある KVM スイッチで親機から子機の間で使用する最大バス接続数を保持する必要があります。

カスケード接続された KVM スイッチの KVM ポートに接続された KVM コンソールは、カスケードレベルの KVM ポートに加え、カスケード接続された子機のポートにもアクセスすることができますが、カスケードレベルよりも上にある KVM スイッチの KVM ポートにはアクセスすることができません。

KM0532/KM0932 のカスケード接続

注意: カスケード接続に使用する KM0532/KM0932 のファームウェアバージョンはすべて、1 段階目の KM0532/KM0932 のファームウェアバージョンと同じでなければなりません。

KM0532/KM0932 をカスケード接続する場合は、p.46 の接続図を参考にしながら、下記の手順に従ってセットアップを行ってください。

1. KVM コンソールをコンソールモジュールに接続してください。

2. コンソールモジュールを KM0532/KM0932 に接続してください。

注意: コンソールモジュールからコンピューターモジュールまでの距離、及び 1 段階目の KVM スイッチから最終段階の KVM スイッチまでの距離が 300m を超えないようにセットアップしてください。

3. カテゴリ 5e/6 ケーブルを使って、親機の KVM ポートと子機のコンソールポートを接続してください。

注意:

- 1 段階目の KVM スイッチに接続されている KVM コンソールがあった場合、これらの KVM コンソールがカスケード接続された KVM スイッチに対して同時アクセスできるコンソール数は、親機～子機間のコンソールポート接続数によって制限されます。
- コンソールモジュールからコンピューターモジュールまでの距離が 300m を超えないようにセットアップしてください。

4. カスケード接続したい 2 段階目の KVM スイッチに対して、手順 3 の作業を行ってください。

5. コンピューターや電源ケーブル等の接続方法については、単体構成のセットアップ手順に従ってください(p.40 参照)。

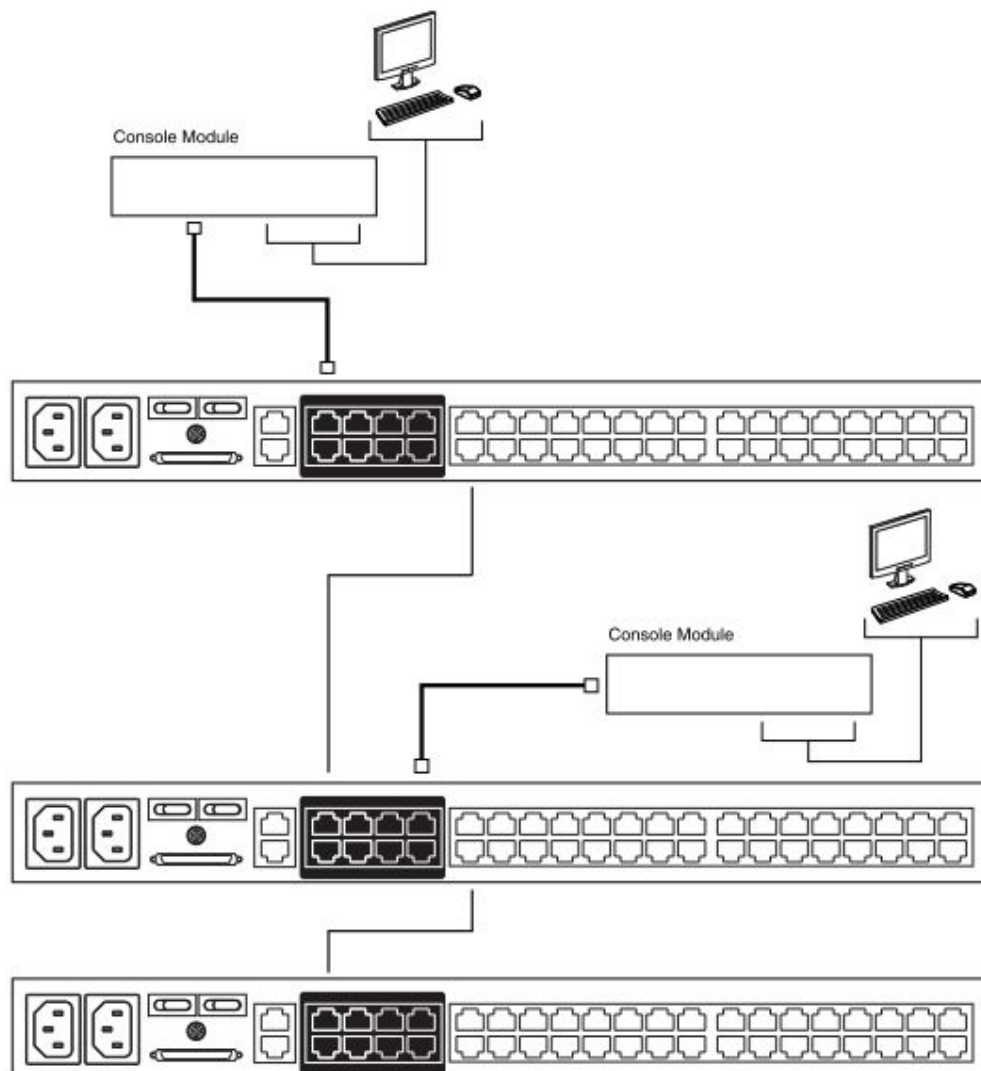
注意: カスケード接続された KVM スイッチへのリモートアクセスは、1 段階目の KVM スイッチを介して行われますので、親機からカスケード接続しているこれらの KVM スイッチをネットワークに接続する必要はありません。

6. 3 段階目の KVM スイッチをカスケード接続する場合は、2 段階目の KVM スイッチからカスケード接続する際の手順 3～5 のセットアップ手順に従ってください。

7. 1 段階目の KM0532/KM0932 に電源を入れてください。

8. 1 分ほど経過したら、2 段階目の KM0532/KM0932 に電源を入れてください。
9. さらに 1 分ほど経過したら、3 段階目の KM0532/KM0932 に電源を入れてください。
10. コンソールモジュールに同梱されている電源アダプターをコンソールモジュールのリアパネルにある電源ジャックに接続し、この電源アダプターを AC 電源に接続してください。
11. すべてのコンピューターに電源を入れてください。

KM0532/KM0932 カスケード接続 接続図



他の KVM スイッチのカスケード接続

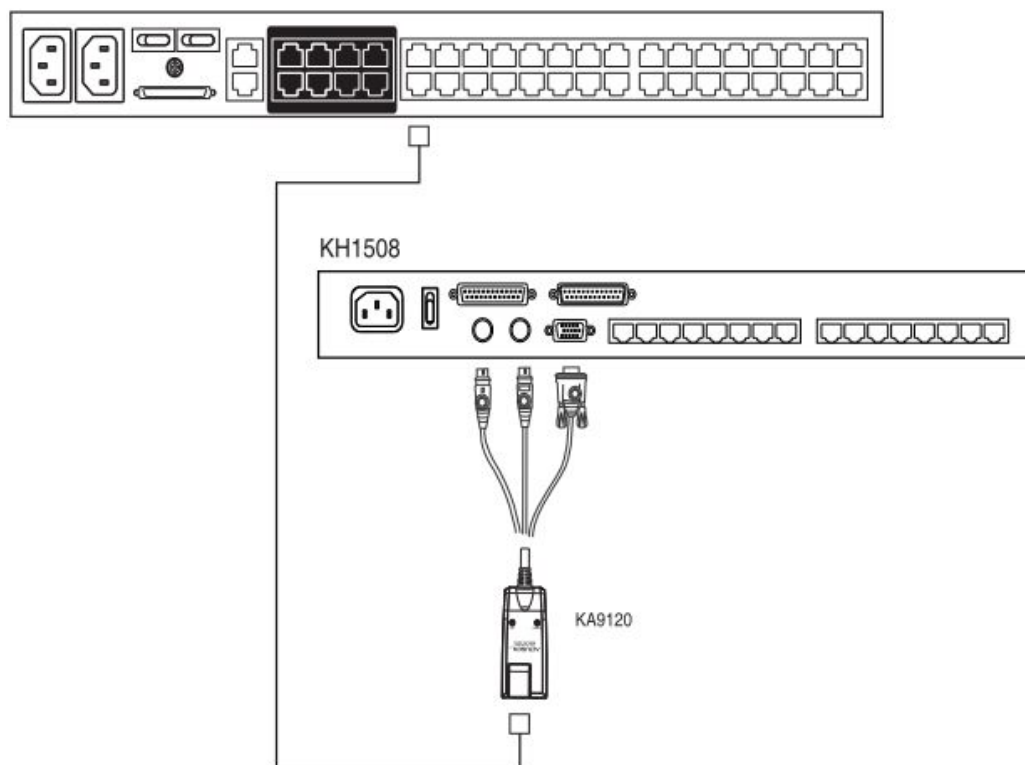
KM0532/KM0932 以外の KVM スイッチをカスケード接続する場合には、コンピューターモジュールが必要となります。このコンピューターモジュールは、KM0532/KM0932 のポート信号を、カスケード接続の対象となる KVM スイッチのコネクターに適した信号に変換します。

注意: KM0532/KM0932 以外の KVM スイッチをカスケード接続した場合、その先に更にカスケード接続をすることはできません。

KM0532/KM0932 以外の KVM スイッチをカスケード接続する場合は、下記の手順に従ってセットアップしてください。

1. カテゴリ 5e/6 ケーブルを使って、KM0532/KM0932 の KVM ポートと、カスケード接続に使用する KVM スイッチに適したコンピューターモジュールを接続してください(コンピューターモジュールと、これらに対応しているプラットフォームについては p.22 参照)。
2. コンピューターモジュールの各コネクターを、KVM スイッチのコンソールポートの対応ポートにそれぞれ接続してください。

他の KVM スイッチのカスケード接続 接続図



デージーチェーン接続

1 段階目の KM0532/KM0932 からは、最大7台の KM0032 をデージーチェーン接続することができます。KM0932は9箇所の独立したKVMコンソールに、また、KM0532は5箇所の独立したKVMコンソールにそれぞれ対応しています。デージーチェーン接続の構成では、KM0532/KM0932 の KVM コンソールから配下にある全コンピューターに対してアクセスや操作が可能です。

注意: デージーチェーン接続された KVM スイッチからは、他の KVM スイッチをカスケード接続することができません。

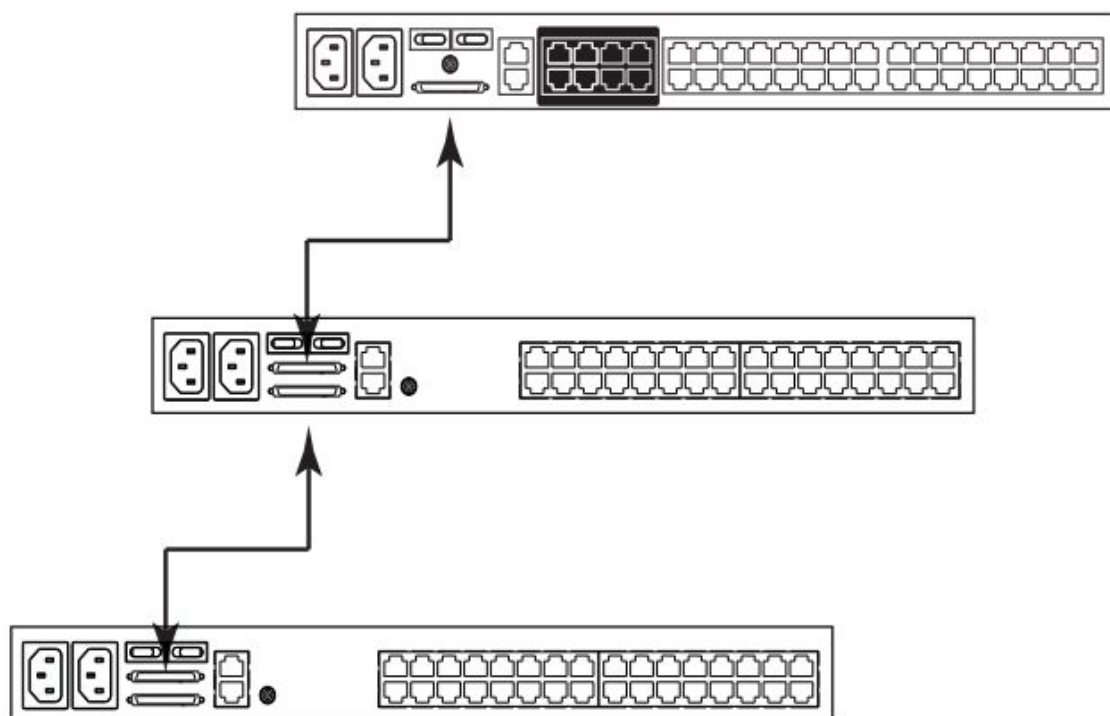
製品をデージーチェーン接続の構成でお使いになる場合は、p.49 の接続図を参考にしながら、下記の手順に従ってセットアップを行ってください。

1. デージーチェーンケーブル(p.22 参照)で、親機となる KM0532/KM0932 の CHAIN OUT ポートと、1 台目の KM0032 の CHAIN IN ポートを接続してください。

注意: KM0532/KM0932 から、デージーチェーン接続の末端にある KM0032 の間の距離が 50m を超えないようにセットアップしてください。

2. 単体構成のセットアップ手順(p.40 参照)に従って、コンピューター、LAN、電源ケーブル等の接続を行ってください。
3. 他にもシステムに追加する KM0032 がある場合は、デージーチェーンケーブル(p.22 参照)を使って、親機となる KVM スイッチの CHAIN OUT ポートと、子機となる KVM スイッチの CHAIN IN ポートを接続してください。
4. 下記の手順に従って、機器に電源を入れてください。
 - a) 1 段階目の KVM スイッチ(KM0532 または KM0932)に電源を入れてください。
 - b) デージーチェーン接続の構成における 2 台目の KVM スイッチから順番に電源を入れていってください。各 KVM スイッチに電源を入れる際には必ず、ステーションが位置を認識し、ステーション ID LED に表示されたことを確認してから、次のステーションに電源を入れるようにしてください。(1 台目の KM0032 には「01」、2 台目の KM0032 には「02」というようにステーション ID が付番されます。)
 - c) すべての KVM スイッチに電源が入ったことが確認できたら、接続されているコンピューターに電源を入れてください。

デジチェーン接続 接続図



ネットワーク管理

KM0032/KM0532/KM0932 のネットワークがローカルコンソールから設定される(p.53 参照)と、管理操作は Web ブラウザを使用してネットワーク経由でリモートから実行できるようになります。

カスケード接続された KVM スイッチは、1 段階目の KVM スイッチからリモート管理できますので、これらの KVM スイッチをネットワークに接続する必要はありません。

接続に関する注意事項

RJ-45 の KVM ポートと自動信号補正機能(ASC)によって、KVM 信号の安定性や質を維持しながら、最大 300m まで延長することができます。このため、カテゴリ 5e/6 ケーブルによって配線された商用ビルのインフラを活用して製品を導入することができます。

データ信号はパケット形式で転送される訳ではありませんので、ネットワークハブやネットワークスイッチを介してデータ転送することはできません。代わりに、パッチパネル、キーストンジャック、パッチケーブル等の受動部品が使用できます。

コンピューターモジュール ID 機能

コンピューターモジュールの情報(モジュールの ID、ポートネーム、キーボード言語、アクセスモードなど)はコンピューターモジュールに保存されます。本製品のコンピューターモジュール ID 機能はこの情報を読み取り、コンピューターモジュールの設定情報(アクセス権など)とともにこれをデータベースに保存します。このため、サーバーをコンピューターモジュールとともに別のポートへ移動した場合でも、コンピューターモジュールの ID 機能が新しい位置を保存するので別途これらの情報を設定する必要はなく、ポート番号が変更されるだけです。

しかし、サーバーとコンピューターモジュールを一緒に別の KVM スイッチに移設すると、モジュールに保存された情報だけがそのまま保持されます。これ以外の設定情報については、再設定を行うか、「バックアップ/リストア」機能(p.177 参照)を使用しなければなりません。

ポート設定はコンピューターモジュールに保存されるので、接続していたモジュールとサーバーを一緒に移設しなかった場合やモジュールに別のサーバーを接続する場合は、新しいサーバーのポート設定を手動で設定する必要があります。ポート設定の詳細については、p.123 「ポート選択サイドバー」を参照してください。

第3章

スーパーアドミニストレーターによる 初期設定

概要

KM0032/KM0532/KM0932 では、下表の 3 種類のユーザータイプに対応しています。

ユーザータイプ	役割
スーパーアドミニストレーター	ポートやデバイスのアクセス・管理、ユーザーやグループの管理、システム設定、個人作業環境の設定を行います。
アドミニストレーター	操作権限が与えられたポートやデバイスのアクセス・管理、ユーザーやグループの管理、個人作業環境の設定を行います。
ユーザー	操作権限が与えられたポートやデバイスのアクセス・管理、個人作業環境の設定を行います。

本章では、スーパーアドミニストレーターによって行われる製品の管理方法について説明します。

初回使用時に必要なセットアップ

KM0032/KM0532/KM0932 のハードウェアのセットアップが完了したら、スーパーアドミニストレーターは、ユーザーが使用できるようにシステムのセットアップを行う必要があります。このセットアップには、ネットワークパラメーターの設定やユーザーの追加といった作業が含まれます。システムに対して初めてこれらの設定を行う際には、コンソールから作業するのが便利です。

注意： ネットワーク設定をリモートから行う場合は、p.217 「IP アドレスの設定」をご参照ください。

コンソールが接続され(p.40 参照)、KM0032/KM0532/KM0932 に電源が入ると、下図のような画面がコンソールモニターに表示されます。

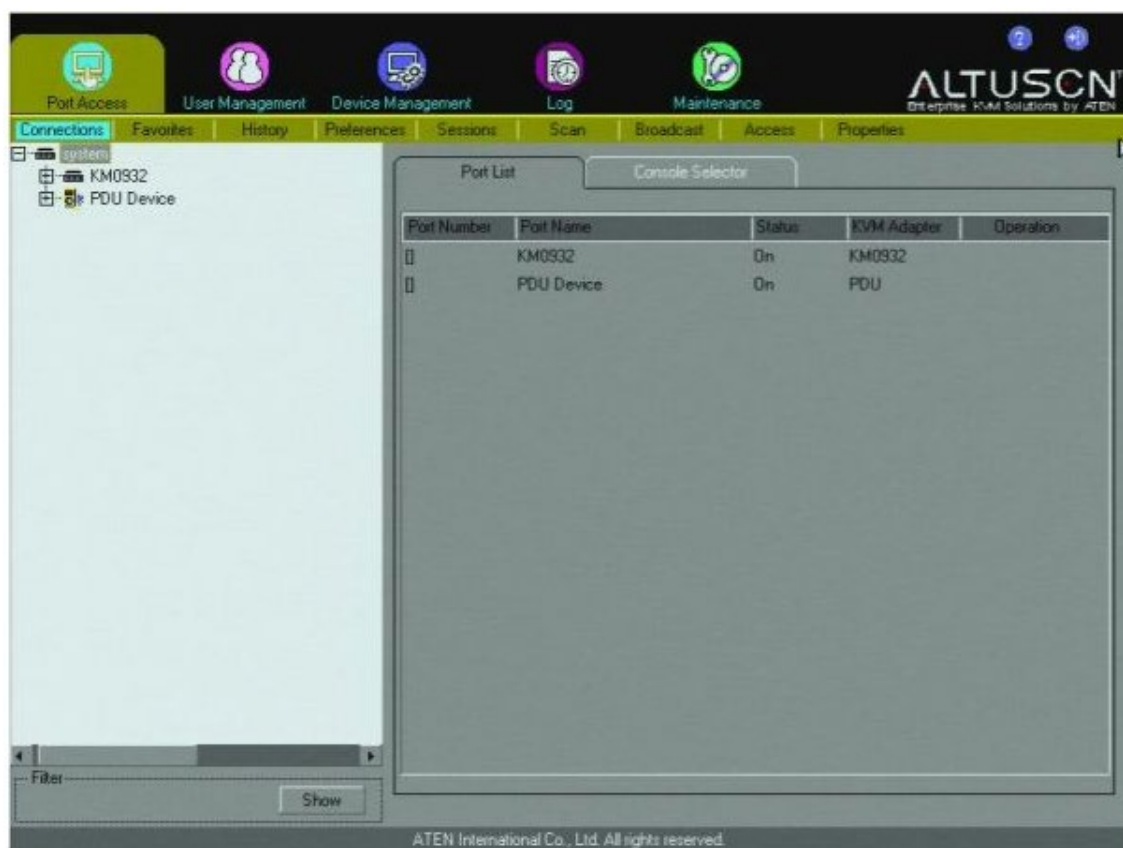


The image shows a login window titled "KM0932 Login". It contains two input fields: "Username:" and "Password:". Below the fields are two buttons: "Login" and "Reset".

初回ログインの際にはデフォルトユーザーのアカウントでログインしてください。ユーザーネームは「ADMINISTRATOR」、パスワードは「password」です。

注意: セキュリティのために、このパスワードは後で変更してください(p.54 「スーパーアドミニストレーターのログイン情報の変更」参照)。

ログインに成功すると、下図のようなコンソールの GUI 画面が表示されます。



ネットワーク設定

ネットワークのセットアップを行う場合は、下記の手順に従って操作してください。

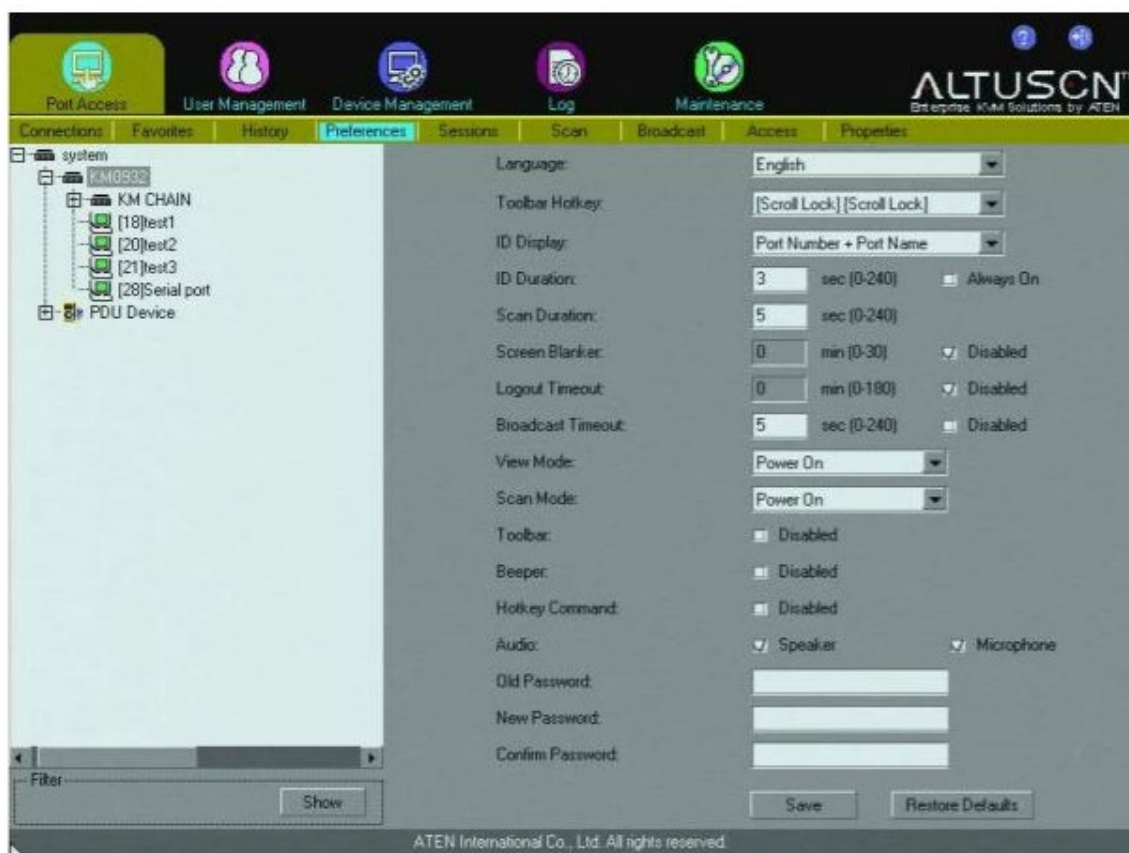
1. 「デバイス管理」タブをクリックしてください。
2. メニューバーの「ネットワーク」を選択してください。このメニューを選択すると下図のような画面が表示されます。

3. p.73 「ネットワーク」に記載されている内容に従って、各欄に値を入力してください。

スーパーアドミニストレーターのログイン情報の変更

デフォルトのスーパーアドミニストレーターのパスワードを変更するには以下の手順に従ってください。

1. 「ポートアクセス」タブをクリックしてください。
2. メニューバーの「参照」を選択してください。



3. 「旧パスワード」欄に現在のパスワードを入力してください。
4. 「新パスワード」欄に新しいパスワードを入力してください。
5. 新しいパスワードの入力に誤りがないことを確認するために、「パスワード確認」欄に新しいパスワードを入力してください。
6. 「保存」ボタンをクリックしてください。

操作を続けるには

ネットワークを設定し、デフォルトのスーパーアドミニストレーターのユーザーネーム・パスワードを変更したら、ユーザー管理、デバイス管理、ファームウェアアップグレードといった、他の管理操作に進むことができます。

これらの操作は、コンソールからでも Web ブラウザを使ったリモートアクセスからでも行うことができます。お使いの環境に適した方法で作業してください。

注意： ファームウェアアップグレードはコンソールからは実行することができません。この操作は、Web ブラウザからログインして実行してください。

第4章 ログイン

概要

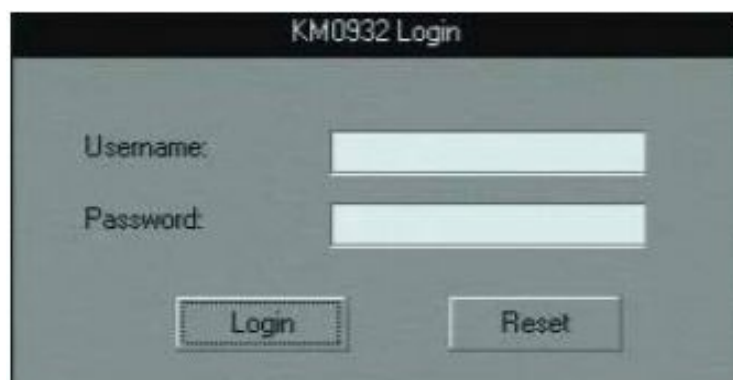
KM0032/KM0532/KM0932 には、ローカルコンソールとインターネットブラウザのどちらからでもアクセスすることができます。リモートからでも管理操作が行えるように、ブラウザアクセス方法が提供されています。ポート切替とポート操作はコンソールからのみ実行可能です。

KM0032/KM0532/KM0932 にどの方法でアクセスしても、KVM スイッチへの認証にはユーザーネームとパスワードが必要になります。ログイン情報が間違っていると、認証ルーチンからユーザーネームとパスワードのエラーメッセージが返ってきます。このメッセージが表示されたら、正しいユーザーネームとパスワードで再ログインしてください。

注意: ログインに連続で失敗した回数が、スーパーアドミニストレーターによって設定されたログイン再試行可能回数を超えた場合、ロックアウトされます。再ログインするには、このロックアウト時間が時間切れになるまで待機しなければなりません。詳細については、p.97 「最大ログイン失敗」をご参照ください。

コンソールからのログイン

電源が入った KM0532/KM0932 にコンソールが接続されており、ユーザーがここからログインしていない場合、モニターには下図のような KM0532/KM0932 のログイン画面が表示されます。



The screenshot shows a terminal window titled "KM0932 Login". It contains two text input fields labeled "Username:" and "Password:". Below these fields are two buttons labeled "Login" and "Reset".

コンソール UI 画面を表示するには、ユーザーネームとパスワードを入力して、「**Login**」ボタンをクリックしてください。

注意: お使いの機種が KM0532 の場合は「KM0532 ログイン」が、KM0932 の場合は「KM0932 ログイン」が、それぞれタイトルバーに表示されます。KVM スイッチが利用できない場合は、「デバイスが接続されていません。」というメッセージが表示されます。

ブラウザからのログイン

KM0532/KM0932 には、どのようなプラットフォームからでもインターネットブラウザ経由で管理画面にアクセスすることができます。

- 注意:**
1. KM0032 は KM0532/KM0932 のデ이지チェーン接続に使用するユニットで、直接操作することはできません。この KM0032 には、デ이지チェーン接続の親機となる KM0532/KM0932 からしかログインすることができません。
 2. ブラウザログインは、リモートからのシステム設定の際に使用できます。ポートアクセスはコンソールログインからのみ操作可能です。

KVM スイッチへのログインは、下記の手順に従って操作してください。

1. Web ブラウザを起動して、アクセス対象となる KVM スイッチの IP アドレスをブラウザのアドレスバーに入力してください。
2. セキュリティの警告ダイアログが表示されることがありますが、この証明書は安全なものですので、受け入れてください(p.216 「信頼された証明書」参照)。他の警告が表示された場合も、同様に受け入れてください。

証明書を受け入れると、ログイン画面が表示されます。



The image shows a web browser window displaying the 'KM0932 Login' page. The page has a black header with the text 'KM0932 Login' in white. Below the header, there are two input fields: 'Username' and 'Password'. At the bottom, there are two buttons: 'Login' and 'Reset'.

3. 管理者によって設定された、ユーザーネームとパスワードを入力して「**Login**」ボタンをクリックし、ブラウザ UI のメイン画面に遷移してください。ブラウザ UI のメイン画面については p.63 をご参照ください。

OSD ログインモードの無効

OSD ログインモードを無効にすると、アクセス認証無しで KM0532/KM0932 にアクセスすることができます (p.97 「ログインモードの無効」参照)。OSD ログインモードを無効にすると、ユーザーログインの際にユーザーネームとパスワードの欄を空白のままにして、アクセス認証の無いアカウントでユーザー管理によって管理されます (p.103 「概要」参照。)

第5章

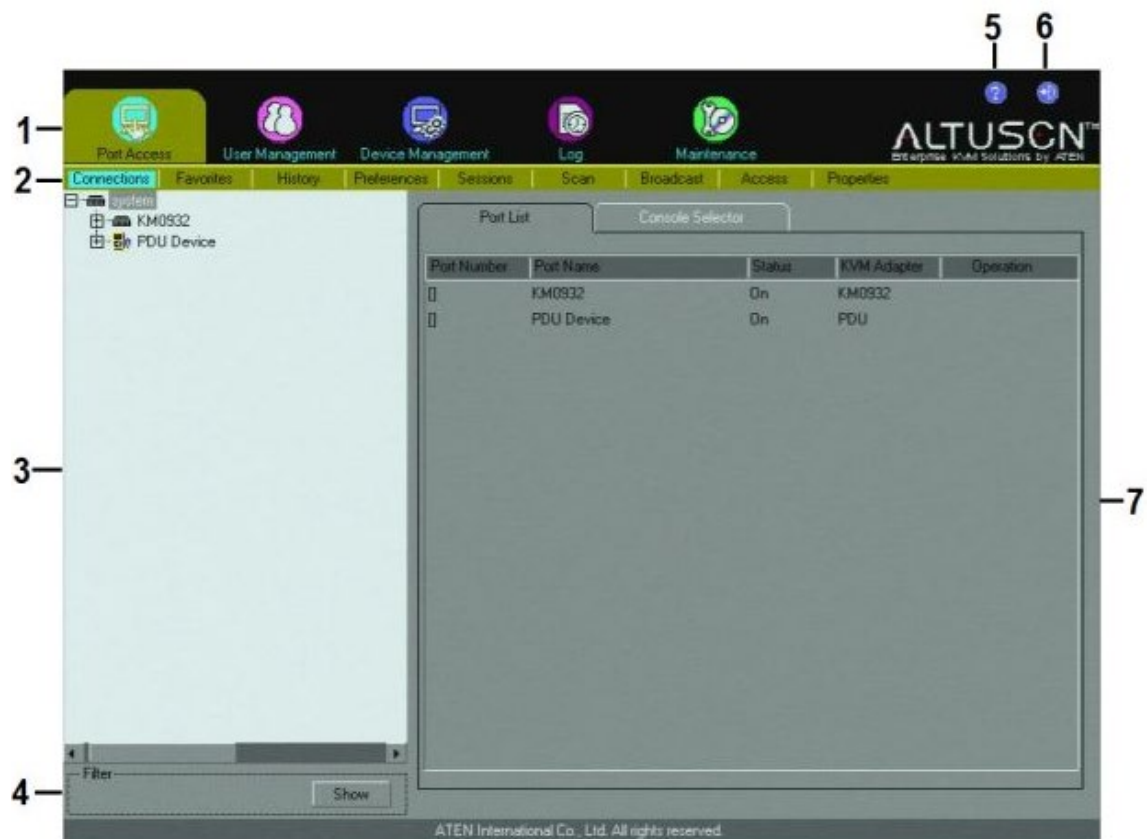
ユーザーインターフェース

概要

KM0532/KM0932 へのログインに成功すると、GUI メイン画面が表示されます。画面の表示内容は、ログイン方法(コンソールまたは Web ブラウザ)によって若干異なります。各インターフェースについては、後のセクションで説明します。

コンソールのユーザーインターフェース

ユーザーがログインし、認証される(p.56 「ログイン」参照)と、下図のようなコンソール UI のメイン画面が表示されます。



コンソール UI 画面における項目

コンソール UI 画面における項目は下表のとおりです。

No.	項目	説明
1	タブバー	タブバーには、KM0032/KM0532/KM0932 のメイン操作カテゴリが含まれています。タブバーに表示される項目は、ユーザーの種類やユーザーが作成された時に選択された権限によって決まります。
2	メニューバー	メニューバーには、タブバーで選択された項目に関連する操作のサブカテゴリが含まれます。メニューバーに表示される項目は、ユーザーの種類や、ユーザーが作成された時に選択された権限によって決まります。
3	サイドバー	サイドバーには、各種タブバーやメニューバーに関連する項目(ポート、ユーザー、グループ)を一覧表示するツリービューが提供されています。サイドバーのノードをクリックすると、それに関連する詳細画面が表示されます。
4	開く	「ポートアクセス」タブが選択された場合に、このボタンをクリックすると、サイドバーツリーに表示するポートの範囲を拡大・縮小するフィルターパネルを開きます。この機能に関する詳細は p.125 で説明します。 注意: このボタンは、「ポートアクセス」タブが選択された時にのみアクティブになります。
5	About	本体で現在使用しているファームウェアのバージョンに関する情報を提供します。
6	ログアウト	このボタンをクリックすると、マトリックス KVM スイッチのセッションを終了します。
7	メインパネル	メインの操作エリアです。表示画面には、選択したタブ、メニュー、サイドバーの内容が反映されます。

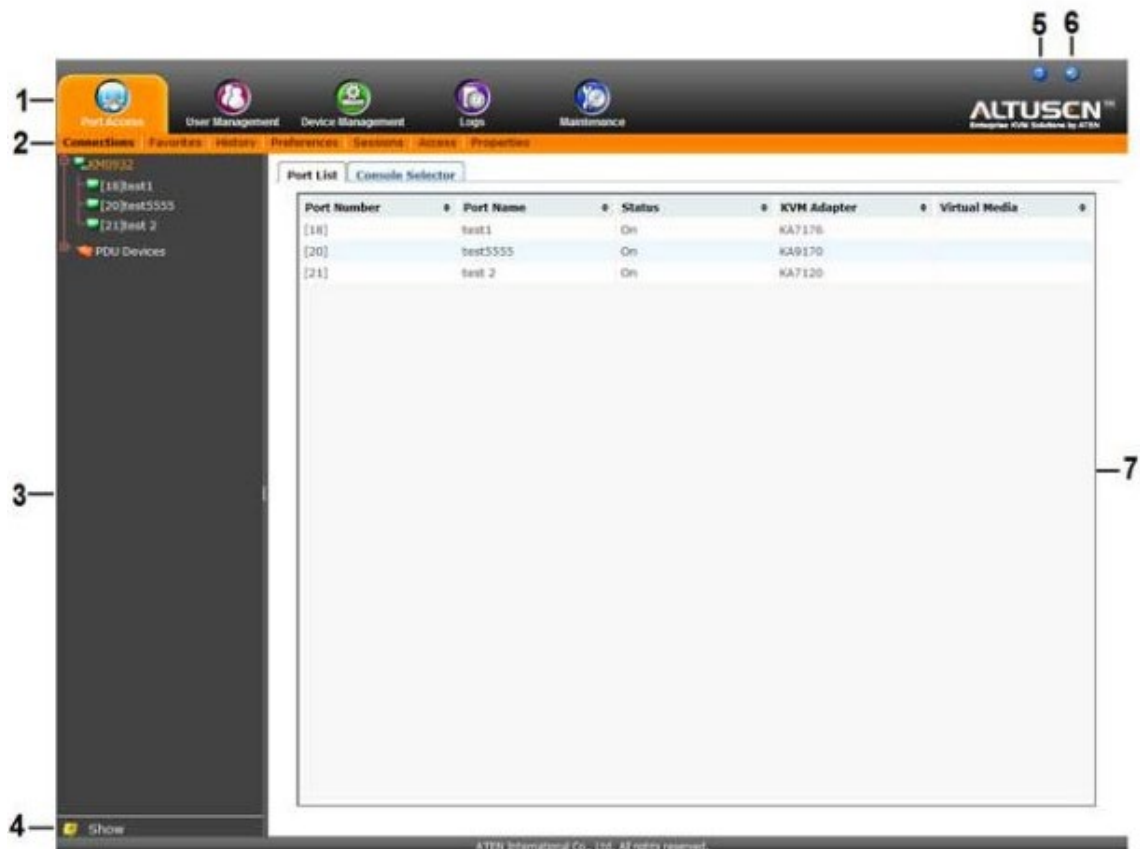
コンソール UI におけるキーボード操作

コンソール UI はキーボードから操作できます。ホットキーとそのアクションは、下表のとおりです。

フォーカス	ホットキー	アクション
その他	F1	「About」画面を起動します。
	F8	セッションからログアウトします。
タブバー	Ctrl P	「ポートアクセス」タブを選択します。
	Ctrl U	「ユーザー管理」タブを選択します。
	Ctrl D	「デバイス管理」タブを選択します。
	Ctrl L	「ログ」タブを選択します。
メニューバー	Tab	タブバーの項目を選択した後で[Tab]キーを押すと、メニューバーの項目を順次切り替えます。
パネル選択	F4	サイドバーツリーを選択します。 注意: これを選択している場合は、タブバーのフォーカスが「ポートアクセス」タブに切り替わります。
	F5	メインパネルを選択します。
サイドバー選択	↑ ↓	フォーカスがサイドバーにある場合、カーソルキーはポートリストの項目を上または下に移動します。 注意: この機能は「ポートアクセス」タブでのみ利用可能です。
	F3 + ↑ ↓	アクセスしたいポートに到達した時に[F3]キーを押すと、セッション選択ボックス(p.123 参照)が立ちあがります。カーソルキーで項目を切り替えて、[Enter]キーを押してください。
メインパネル 選択	Tab	フォーカスがメインパネルにある場合、[Tab]キーを押すと、利用可能なパラメーター内を移動します。ラジオボタンの場合は、[Enter]キーを押すと項目を選択または非選択状態にします。
	↑ ↓	選択項目の一覧のあるパラメーターは、カーソルキーを使ってパラメーターアイテムを切り替えてください。
	すべてのパラメーターを選択したら、[Tab]キーで「保存」ボタンまで移動し、[Enter]キーを押してください。	

ブラウザのユーザーインターフェース

リモートからでも機器の管理ができるように、KM0532/KM0932 は標準的な Web ブラウザからアクセスすることができます。ユーザーがログインし認証される(p.58 参照)と、Web ブラウザのメイン画面に遷移し、「ポートアクセス」タブの内容が表示されます。



- 注意:
1. KM0032 は KM0532/KM0932 のデ이지チェーン接続に使用するユニットで、直接操作することはできません。この KM0032 には、デ이지チェーン接続の親機となる KM0532/KM0932 からしかログインすることができません。
 2. 上図の画面は、スーパーアドミニストレーターの画面を例にとったものです。ユーザーの種類や権限によっては、すべての項目が表示される訳ではありません。
 3. Web の管理画面を使って KM0532/KM0932 配下のサーバーにアクセスすることはできません。これらのサーバーには KM0532/KM0932 に接続されたコンソールモジュールからアクセスしてください。

ブラウザ UI 画面における項目

ブラウザ UI 画面における項目は下表のとおりです。

No.	項目	説明
1	タブバー	タブバーには、KM0032/KM0532/KM0932 のメイン操作カテゴリが含まれています。タブバーに表示される項目は、ユーザーの種類や、ユーザーが作成された時に選択された権限によって決まります。
2	メニューバー	メニューバーには、タブバーで選択された項目に関連する操作のサブカテゴリが含まれます。メニューバーに表示される項目は、ユーザーの種類や、ユーザーが作成された時に選択された権限によって決まります。
3	サイドバー	サイドバーには、各種タブバーやメニューバーに関連する項目を一覧表示するツリービューが提供されています。サイドバーのノードをクリックすると、それに関連する詳細画面が表示されます。
4	開く	サイドバーツリーに表示するポートの範囲を拡大・縮小するフィルターパネルを開きます。この機能に関する詳細は p.125 で説明します。 注意: このボタンは、「ポートアクセス」、「デバイス管理」、「ログ」、「メンテナンス」の各タブが選択された時にのみアクティブになります。
5	About	本体で現在使用しているファームウェアのバージョンに関する情報を提供します。
6	ログアウト	このボタンをクリックすると、マトリックス KVM スイッチのセッションを終了します。
7	メインパネル	メインの操作エリアです。表示画面には、選択したタブ、メニュー、サイドバーの内容が反映されます。

第6章 デバイス管理

概要

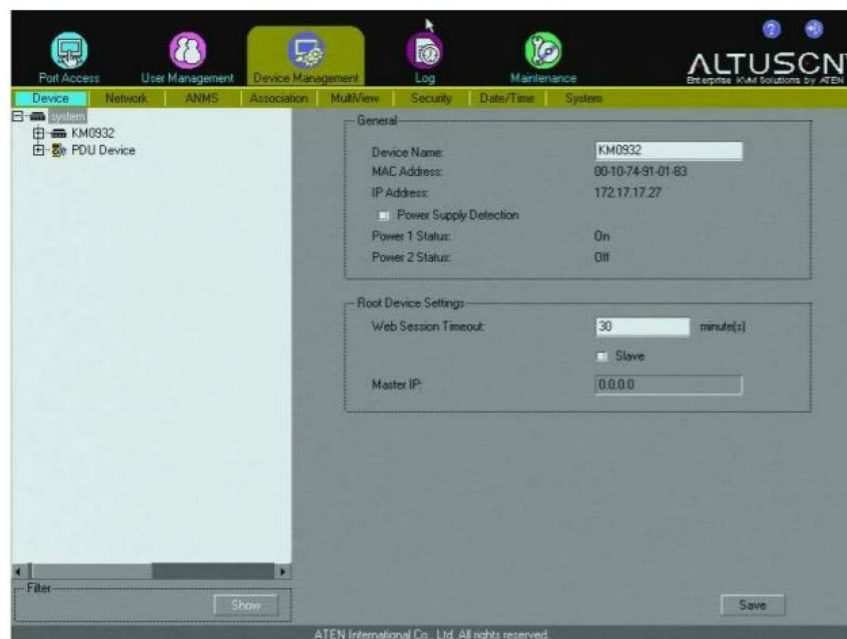
「デバイス管理」タブでは、スーパーアドミニストレーターが KM0032/KM0532/KM0932 の操作に関するパラメーターの設定や管理を行うことができます。

注意: これはスーパーアドミニストレーターに限定された画面です。

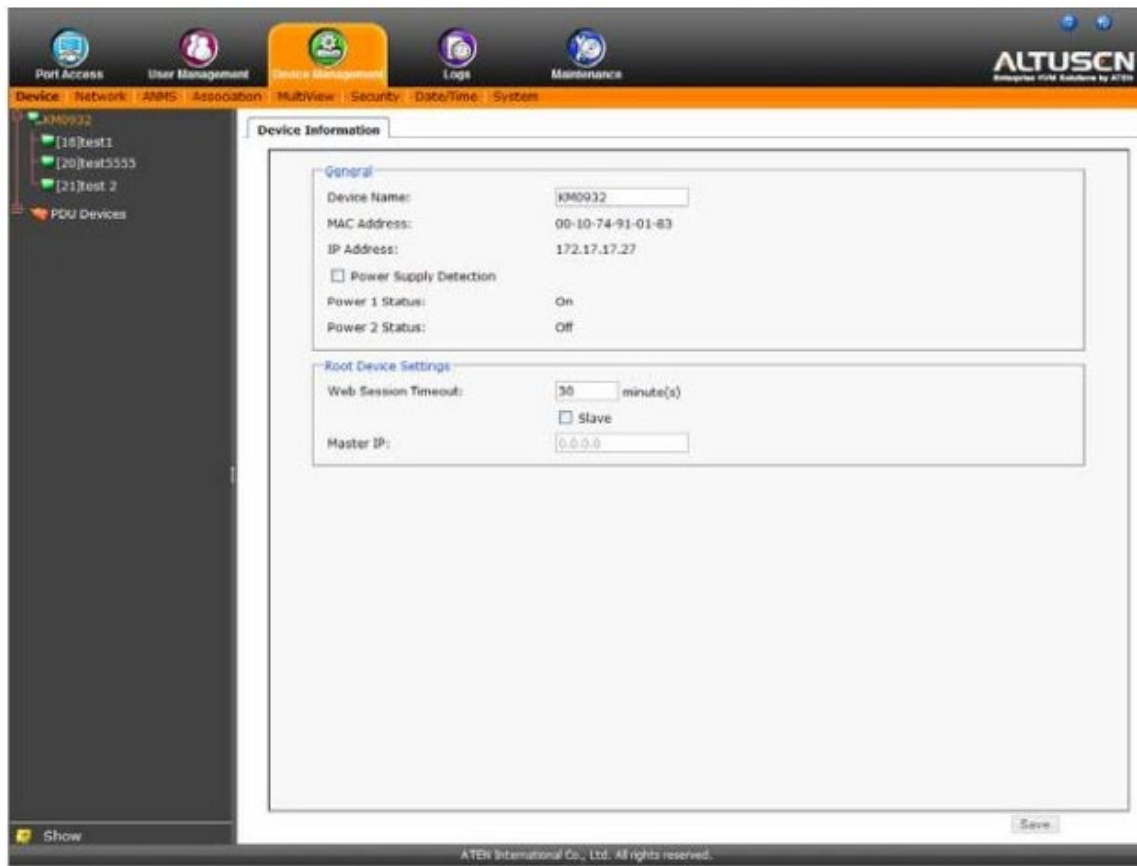
デバイス

「デバイス管理」タブをクリックすると、「デバイス」メニュー画面が表示されます。この画面は、「一般」と「ルートデバイス設定」の2つのセクションから構成されます。

コンソール UI



ブラウザ UI



「デバイス管理」タブの設定項目は下表のとおりです。

項目		説明
一般	デバイスネーム	KVM スイッチにつける名前を設定することができます。 これは、大規模なカスケード接続の構成でユニットを識別できるようにしたものです。項目名の右側にあるテキストボックスに、このユニットに設定する名前を入力してください。
	MAC アドレス	この KVM スイッチの MAC アドレスが表示されます。
	IP アドレス	この KVM スイッチの IP アドレスが表示されます。

(表は次のページに続きます)

項目		説明
一般 (前頁より続く)	電源供給探知	このチェックボックスにチェックを入れると、電源供給が無い場合、自動的に別の利用可能な電源へと切り替わります。
	電源 1 ステータス	電源 1 の状況 (ON/OFF) を表示します。
	電源 2 ステータス	電源 2 の状況 (ON/OFF) を表示します。
ルートデバイス 設定	Web セッション タイムアウト	Web ブラウザからログインしているユーザーが何も入力をしていないまま、ここで設定された時間が経過してしまうと、そのユーザーは自動的にログアウトさせられるため、操作をするには再ログインが必要となります。
	Dual Root Slave	通常、KM0932 は 9 コンソール、32 ポートが利用可能ですが、2 台の KM0932 を同一 LAN セグメントに接続することでリンクさせ、片方をマスターに、もう片方をスレーブにそれぞれ設定させることで、18 コンソールまで利用可能になります。この方法で KVM スイッチをセットアップし、この KVM スイッチをスレーブとして使用する場合は、このチェックボックスにチェックを入れ、Dual Root Master IP アドレスを設定してください (p.68 参照)。
	Dual Root Master IP	「Dual Root Master IP」のテキストボックスにマスターとなる KVM スイッチの IP アドレスを入力してください。Dual Root Master IP を入力する前に Dual Root Slave チェックボックスを選択してください (p.68 参照)。

各項目への入力完了したら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

デュアルルート

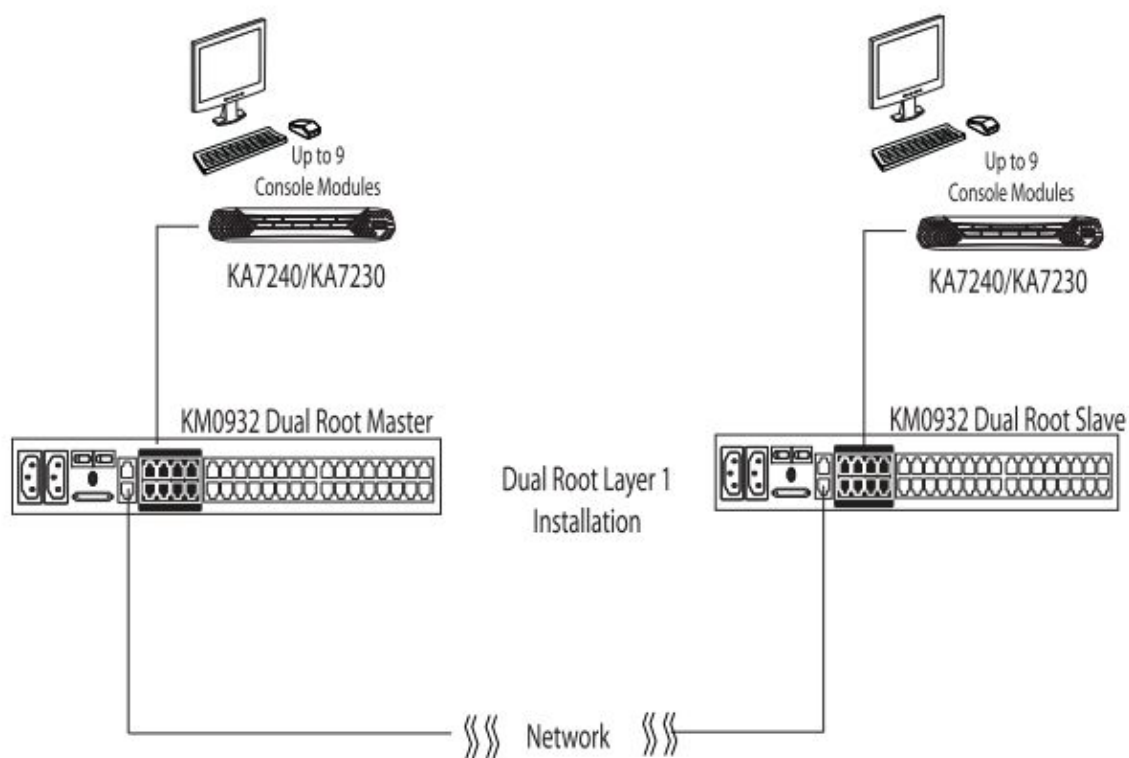
デュアルルート機能を使うと、2 台の KM0532/KM0932 で最大 18 箇所までコンソールモジュールを拡張することができ、これらのユニット間でデータベースを相互参照したり同期を取ったりすることができます。また、この機能を使うと 2 段階および 3 段階のカスケード接続が可能になり、最大 1024 台のサーバーを 2 箇所のコンソールから管理できるようになります。

デュアルルートのセットアップには、LAN に接続した 2 台の KM0532/KM0932 を組み合わせて使用する必要があります。デュアルルートをセットアップするには、次ページの「デュアルルート単体接続図」を参照しながら下記の作業を行ってください。

-
- 注意:**
1. デュアルルート機能は、ファームウェアバージョンが 1.4.136 以降である KM0532/KM0932 が対応しています。
 2. デュアルルートの機器構成で使用する KM0532/KM0932 のファームウェアバージョンは、マスターユニットである KM0532/KM0932 のファームウェアバージョンと同じものでなければなりません。
-

1. 単体構成の KM0532/KM0932 を 2 台分セットアップし、それぞれ LAN に接続してください (p.40 「単体構成でのセットアップ」参照)。
2. KM0532/KM0932 それぞれに有効な IP アドレスを設定し、ご使用のネットワークでアクセスできるようにしてください (p.77 「IP アドレス」参照)。
3. 1 台の KM0532/KM0932 をデュアルルートマスターとし、他の KM0532/KM0932 をデュアルルートスレーブとしてください。
4. デュアルルートスレーブとなるスイッチで設定するために、デュアルルートマスターとなるスイッチの IP アドレスを覚えておいてください。
5. コンソールユーザーインターフェースまたはブラウザユーザーインターフェースを通じて、デュアルルートスレーブスイッチにログインしてください (p.56 「ログイン」参照)。
6. 「デバイス管理」タブから「Root Device Settings」を選択し、「Dual Root Slave」チェックボックスにチェックを入れてください (p.67 「Dual Root Slave」参照)。
7. デュアルルートマスター IP アドレスを入力してください (p.67 「Dual Root Master IP」参照)。
8. 「保存」をクリックしてください。システムがリセットします。

デュアルルート単体接続図



デュアルルートでのカスケード接続

デュアルルートのカスケード接続では、お使いのデュアルルートマスターとスレーブにスイッチを追加し、KVM ポートを増設することができます。

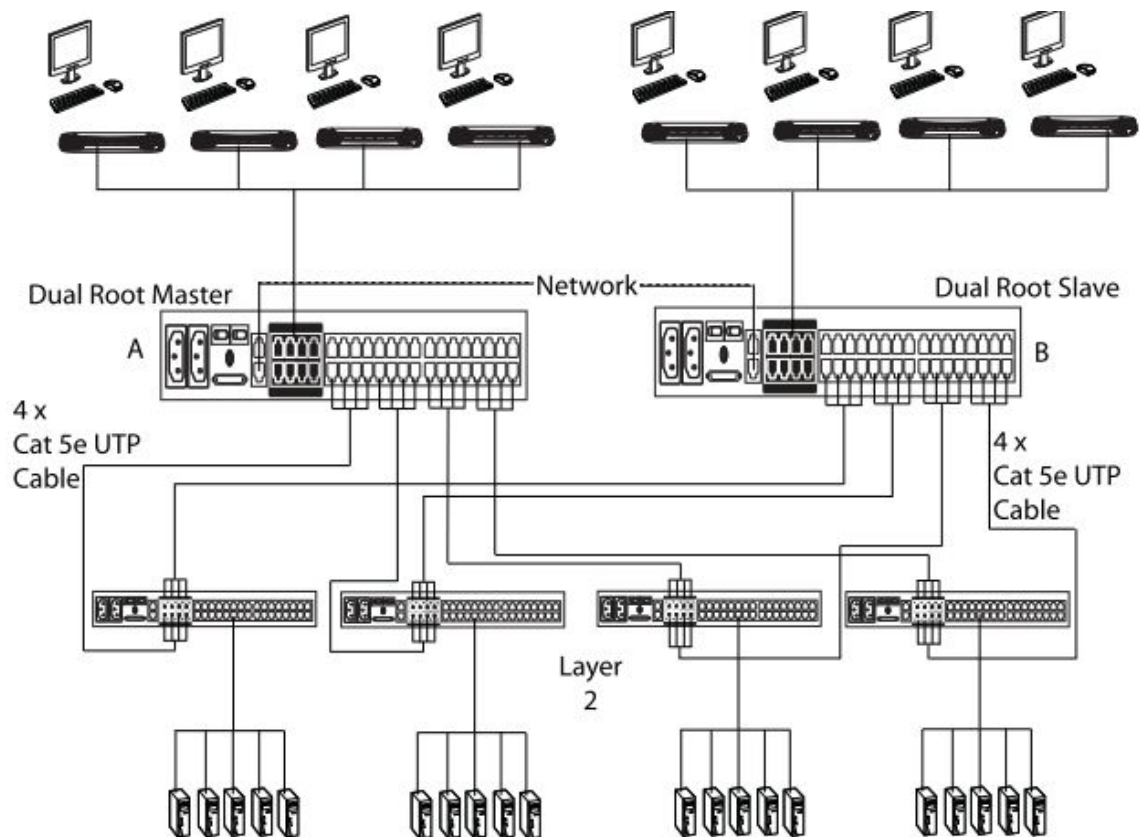
デュアルルートのカスケード接続のセットアップをする前に、まずレイヤー1 となるデュアルルートマスタースイッチとデュアルルートスレーブスイッチをセットアップしなければなりません(詳細は p.68 「デュアルルート」参照)。

デュアルルートセットアップのレイヤー1 からカスケード接続されているスイッチはデュアルルートマスタースイッチ(A)とデュアルルートスレーブスイッチ(B)の両方からそれぞれ 4 接続しなければなりません。

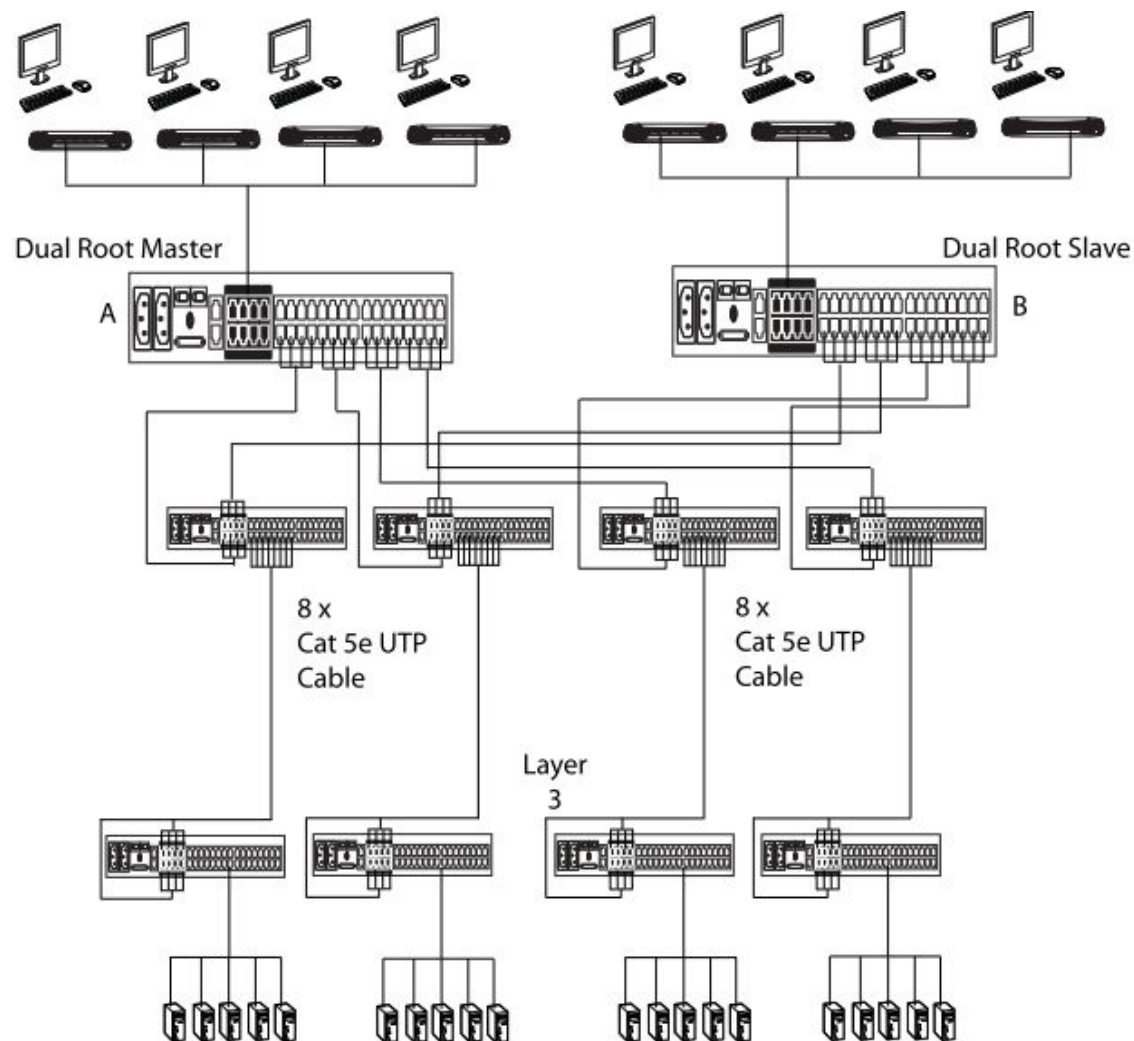
カテゴリ 5e UTP ケーブル接続は A、B ともに、レイヤー1 のユニット上の KVM ポート(4 箇所)と子機のコンソールポート(4 箇所)を個別に接続してください。デュアルルートカスケード接続は、8 台までの KM0532/KM0932 スイッチに対応しています。デュアルルートのカスケード接続でスイッチをセットアップするには次ページの接続図を参照してください。

注意: デイジーチェーン接続はデュアルルート接続に対応していません。

デュアルルートの2段階カスケード接続図



デュアルルートの 3 段階カスケード接続図



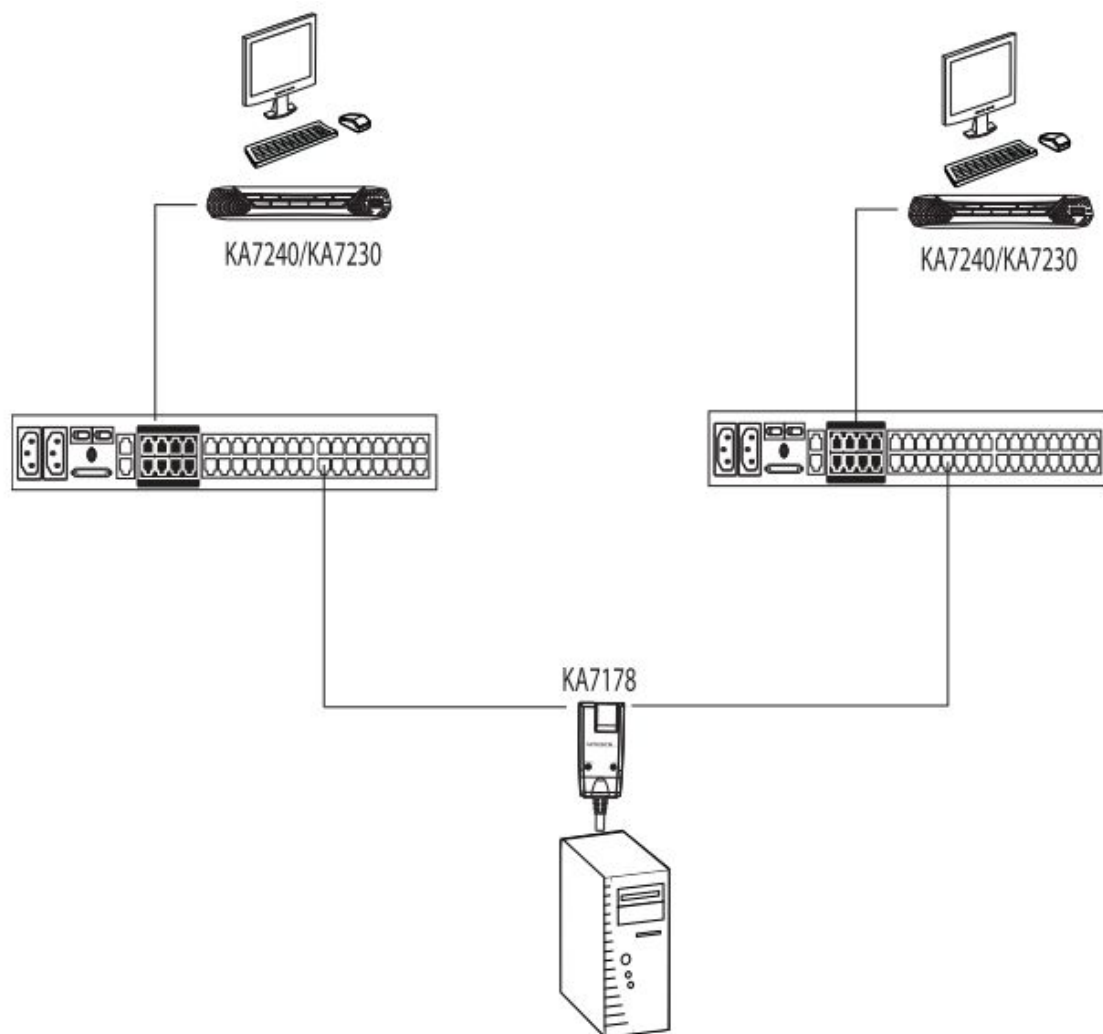
デュアルルートセットアップで 2 段階目のスイッチから更にスイッチをカスケード接続して追加するには、3 段階目の各スイッチに対して KVM ポートは 8 接続、コンソールポートは 8 接続する必要があります(上図参照)。

3 段階目のスイッチに対するカテゴリ 5e UTP ケーブル接続は、各スイッチとも、2 段階目のスイッチの KVM ポート 8 箇所から延びているカテゴリ 5e ケーブルを、3 段階目のスイッチの 8 箇所のコンソールポートに接続する必要があります。

2 段階目にある各スイッチは、3 段階目にあるスイッチ 4 台までに対応することができます。

KA7178 デュアル出力 dongle

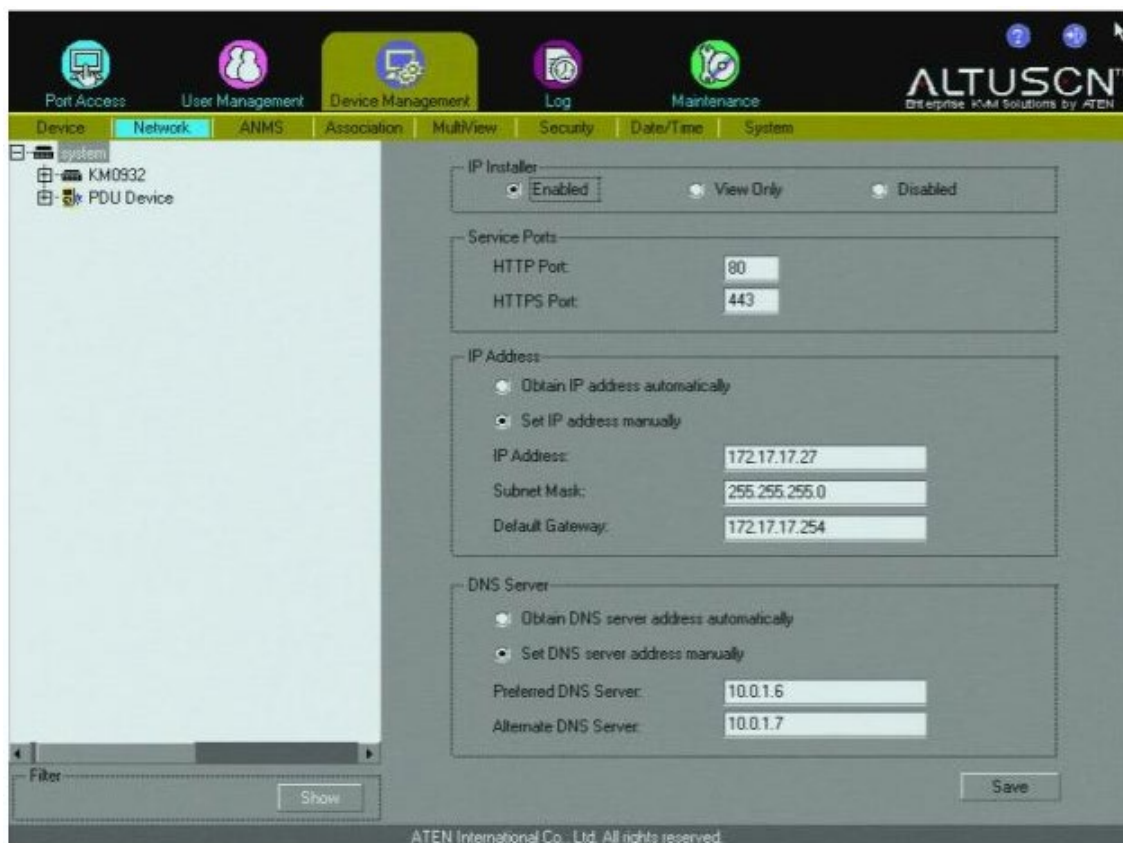
KA7178 コンピューターモジュールはカテゴリ 5e/6 コネクタを 2 つ搭載し、コンピューターを 2 台の KM0032/KM0532/KM0932 に接続することができます。また、下図のように、別のスイッチに接続されたコンソールが同じコンピューターにアクセスすることも可能です。



ネットワーク

「ネットワーク」タブでは、KM0032/KM0532/KM0932 のネットワーク環境の設定を行います。

コンソール UI



ブラウザ UI

The screenshot displays the ALTUSCN web interface for configuring a device. The top navigation bar includes icons for Port Access, User Management, Device Management (active), Logs, and Maintenance. Below this is a secondary menu with tabs: Device, Network, ANRS, Association, Multiview, Security, Date/Time, and System. The left sidebar shows a tree view with 'KM0932' expanded, containing sub-items '[10]test1', '[20]test3333', and '[21]test 2', along with a 'PDU Devices' icon. The main content area is titled 'Network Information' and contains three sections: 'IP Installer' with radio buttons for 'Enabled' (selected), 'View Only', and 'Disabled'; 'Service Ports' with input fields for 'HTTP Port' (60) and 'HTTPS Port' (443); and 'IP Address' with radio buttons for 'Obtain IP address automatically' and 'Set IP address manually' (selected), followed by input fields for 'IP Address' (172.17.17.27), 'Subnet Mask' (255.255.255.0), and 'Default Gateway' (172.17.17.254). A 'DNS Server' section follows with radio buttons for 'Obtain DNS server address automatically' and 'Set DNS server address manually' (selected), and input fields for 'Preferred DNS Server' (10.0.1.6) and 'Alternate DNS Server' (10.0.1.7). A 'Show' button is at the bottom left of the sidebar, and a 'Save' button is at the bottom right of the main content area. The footer text reads 'ALTEN International Co., Ltd. All rights reserved.'

ALTUSCN[®]
Enterprise VMS Solutions by ALTEN

Port Access User Management **Device Management** Logs Maintenance

Device Network ANRS Association Multiview Security Date/Time System

KM0932
[10]test1
[20]test3333
[21]test 2
PDU Devices

Show

Network Information

IP Installer
☒ Enabled ☐ View Only ☐ Disabled

Service Ports
HTTP Port: 60
HTTPS Port: 443

IP Address
☐ Obtain IP address automatically
☒ Set IP address manually
IP Address: 172.17.17.27
Subnet Mask: 255.255.255.0
Default Gateway: 172.17.17.254

DNS Server
☐ Obtain DNS server address automatically
☒ Set DNS server address manually
Preferred DNS Server: 10.0.1.6
Alternate DNS Server: 10.0.1.7

Save

ALTEN International Co., Ltd. All rights reserved.

IP Installer

IP インストーラーは、KM0032/KM0532/KM0932 に IP アドレスを設定できる、Windows ベースの外部プログラムです。詳細については p.218 「IP インストーラーを使った方法」をご参照ください。

IP インストーラーの使用方法について、「有効」、「View Only」、「無効」のいずれかのラジオボタンを選択してください。IP インストーラーの詳細については、p.218 「IP インストーラーを使った方法」をご参照ください。

-
- 注意:**
1. 「View Only」を選択した場合、IP インストーラーのデバイスリストでこの KM0032/KM0532/KM0932 を確認することができますが、本体に設定されている IP アドレスを変更することはできません。
 2. 使用後は、この設定を「View Only」または「無効」に設定することを推奨します。
-

サービスポート

セキュリティ対策としてファイアウォールが使用されていると、スーパーアドミニストレーターはファイアウォールが許可するポート番号を設定する必要があります。この場合、ユーザーは、ログインの際にこのポート番号を指定する必要があります。無効なポート番号を指定したり、ポート番号を指定しなかったりすると、KM0032/KM0532/KM0932 は見つかりません。各項目の説明は下表のとおりです。

項目	説明
HTTP ポート	ブラウザログインのポート番号です。デフォルトでは 80 番です。
HTTPS ポート	SSL 通信によるブラウザログインのポート番号です。デフォルトでは 443 番です。

-
- 注意:**
1. ファイアウォールが設置されている環境では、ネットワーク管理者とご相談の上、設定してください。
 2. 各サービスポートには同じ値を設定することはできません。各ポートに異なる値を設定してください。
-

IP アドレス

KM0032/KM0532/KM0932 には、動的 IP アドレス(DHCP)、固定 IP アドレスのどちらでも設定することができます。

- ◆ 動的 IP アドレスを設定する場合は、「IP アドレスを自動的に取得する」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「IP アドレスを手動で設定する」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークに適した IP アドレスを設定してください。

DNS サーバー

- ◆ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「DNS サーバーアドレスを自動的に取得する」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ DNS サーバーのアドレスを手動で設定する場合は、「DNS サーバーアドレスを手動で設定する」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークで使用しているプライマリ DNS サーバーとセカンダリ DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ設定してください。

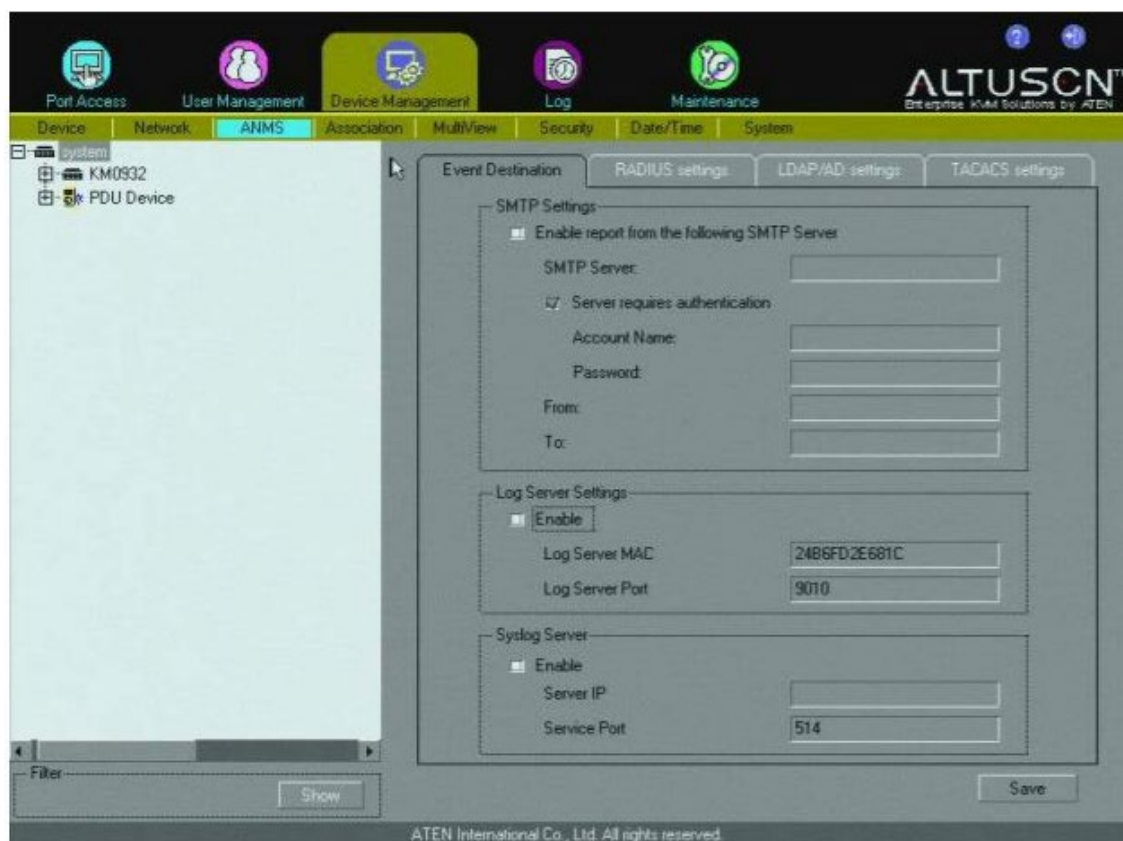
注意: プライマリ DNS サーバーは必ず設定しなければなりませんが、セカンダリ DNS サーバーの設定は任意です。

「ネットワーク」タブでの各項目への入力が完了したら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

ANMS

「ANMS」(Advanced Network Management Settings)タブは、下図のように「Event Destination」、
「RADIUS 設定」、「LDAP/AD 設定」及び「TACACS 設定」の 4 つのタブから構成されています。

コンソール UI



ブラウザ UI

The screenshot shows the ALTUSCN web interface with the 'Authentication & Authorization' tab selected. The left sidebar shows a tree view with 'KM0932' and its sub-items '[10]test1', '[20]test5555', and '[21]test 2'. The main content area is divided into three sections:

- SMTP Settings:**
 - ☐ Enable report from the following SMTP Server
 - SMTP Server:
 - ☒ Server requires authentication
 - Account Name:
 - Password:
 - From:
 - To:
- Log Server Settings:**
 - ☒ Enable
 - MAC Address:
 - Service Port:
- Syslog Server:**
 - ☐ Enable
 - Server IP:
 - Service Port:

At the bottom right of the main content area is a 'Save' button. The footer of the interface reads 'ATEN International Co., Ltd. All rights reserved.'

The screenshot shows the ALTUSCN web interface with the 'Authentication & Authorization' tab selected. The left sidebar is the same as the previous screenshot. The main content area is divided into three sections:

- RADIUS settings:**
 - ☐ Enable
 - Preferred RADIUS Server:
 - Preferred RADIUS Service Port:
 - Alternate RADIUS Server:
 - Alternate RADIUS Service Port:
 - Timeout: sec
 - Retries:
 - Shared Secret(at least 6 Characters):
- LDAP/AD settings:**
 - ☒ Enable
 - ☐ Enable SSL
 - Preferred LDAP Server:
 - Preferred LDAP Service Port:
 - Alternate LDAP Server:
 - Alternate LDAP Service Port:
 - Timeout: sec
 - Admin DN:
 - Admin Name:
 - Password:
 - Search DN:
- TACACS settings:**
 - ☐ Enable
 - Preferred TACACS+ Server:

At the bottom right of the main content area is a 'Save' button. The footer of the interface reads 'ATEN International Co., Ltd. All rights reserved.'

SMTP 設定

KM0032/KM0532/KM0932 は SMTP サーバーを使ってレポートを送信することができます。この機能を利用する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「SMTP サーバーからのレポートを有効にする」のチェックボックスにチェックを入れてください。
2. お使いの SMTP サーバーのドメイン名または IP アドレスを入力してください。
3. サーバーで認証が必要な場合は、「サーバーは認証が必要」のチェックボックスにチェックを入れてください。
4. 「アカウントネーム」、「パスワード」、「From」の各欄にアカウント情報を入力してください。

注意: 「From」欄に入力できるメールアドレスは 1 つだけです。

5. レポートの宛先となるメールアドレス(複数指定可)を「To」欄に入力してください。

注意: 複数のメールアドレスにレポートを送信する場合は、各アドレスをセミコロンで区切ってください。

各項目への入力完了したら、「保存」ボタンをクリックしてください。

◆ ログサーバー

ログイン情報や内部状況に関するメッセージなど、本製品で発生した重要なイベントは自動的にログファイルに出力されます。

- ログサーバーが作動するコンピューターの MAC アドレスを「MAC アドレス」の欄に入力してください。
- ログサーバーが動作するコンピューターで詳細ログをリッスンするポート番号を「ポート」欄に入力してください。有効なポート番号は 1～65535 で、デフォルトポート番号は 9001 です。

◆ SNMP サーバー

SNMP トラップイベントを通知するには、下記の手順に従ってください。

1. 「Enable SNMP Agent」にチェックを入れてください。
2. SNMP トラップイベントが通知されるコンピューターの IPv4 アドレスまたはドメインネームを入力してください。
3. ポート番号を入力してください。有効なポート番号は 1～65535 です。

注意： SNMP トラップイベントが通知されるログは、「ログ」メニューの「通知設定」ページで設定します。詳細は p.165 「ログ」を参照してください。

◆ Syslog サーバー

スイッチに起こったイベント全てを記録し、Syslog サーバーに書き込むには、下記の手順に従ってください。

1. 「有効」にチェックを入れてください。
2. Syslog サーバーの IPv4 アドレスまたはドメインネームを入力してください。
3. ポート番号を入力してください。有効なポート番号は 1～65535 です。

RADIUS 設定

RADIUS サーバーからスイッチを認証し、権限を与えるようにするには、下記の手順に従ってください。

1. 「有効」にチェックを入れてください。
2. プライマリとセカンダリ RADIUS サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。IP の欄には IPv4 アドレスまたはドメインネームを入力することができます。
3. 「タイムアウト」の欄には RADIUS サーバーからの応答を待つ時間(分)を入力してください。
4. 「再試行」の欄には RADIUS サーバーが再試行可能な回数を入力してください。
5. 「共有シークレット」の欄にはスイッチと RADIUS サーバーとの間で認証に使われる文字列を入力してください。最低 6 文字を設定してください。
6. RADIUS サーバーでは、ユーザーエントリを「su/xxxx」と設定して認証されることができません。

LDAP/LDAPS 設定

LDAP/LDAPS を通した認証および権限を設定するには、下表を参照してください。

項目	説明
Enable	LDAP/LDAPS による認証/権限を有効にするには、このチェックボックスにチェックを入れてください。
Enable SSL	SSL 接続を有効にするにはこのチェックボックスにチェックを入れてください。
Preferred LDAP Server and Service Port	プライマリ LDAP または LDAPS サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。 ◆ 「LDAP Server」の欄には IPv4 またはドメインネームを入力してください。 ◆ LDAP のデフォルトポート番号は 389 で、LDAPS のデフォルトポート番号は 636 です。
Alternate LDAP Server and Service Port	セカンダリ LDAP または LDAPS サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。 ◆ 「LDAP Server」の欄には IPv4 またはドメインネームを入力してください。 ◆ LDAP のデフォルトポート番号は 389 で、LDAPS のデフォルトポート番号は 636 です。
Timeout	スイッチが LDAP または LDAPS サーバーからの応答を待つ時間(分)を設定してください。
Admin DN	LDAP/LDAPS 管理者にこの欄に入力する適切なエントリーを確認してください。エントリーは例えば下記のようなものです。 <code>ou=kn4132,dc=aten,dc=com</code>
Admin Name	LDAP 管理者のユーザーネームを入力してください。
Password	LDAP 管理者のパスワードを入力してください。
Search DN	検索ベースの識別されたネームを設定してください。これはユーザーネームの検索を開始するところのドメインネームです。

TACACS 設定

TACACS を通した認証及び権限を設定するには、下表を参照してください。

項目	説明
Enable	TACACS+による認証/権限を有効にするには、このチェックボックスにチェックを入れてください。
Preferred TACACS+ Server and Service Port	プライマリ TACACS+ サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。 ◆ 「TACACS+ Server」の欄には IPv4 またはドメインネームを入力してください。 ◆ プライマリ TACACS+ サーバーのサービスポート番号を入力してください。
Alternate TACACS+ Server and Service Port	セカンダリ TACACS+ サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。 ◆ 「TACACS+ Server」の欄には IPv4 またはドメインネームを入力してください。 ◆ セカンダリ TACACS+ サーバーのサービスポート番号を入力してください。
Shared Secret	TACACS+ の共有シークレット (最低 6 文字) を入力してください。

関連付け

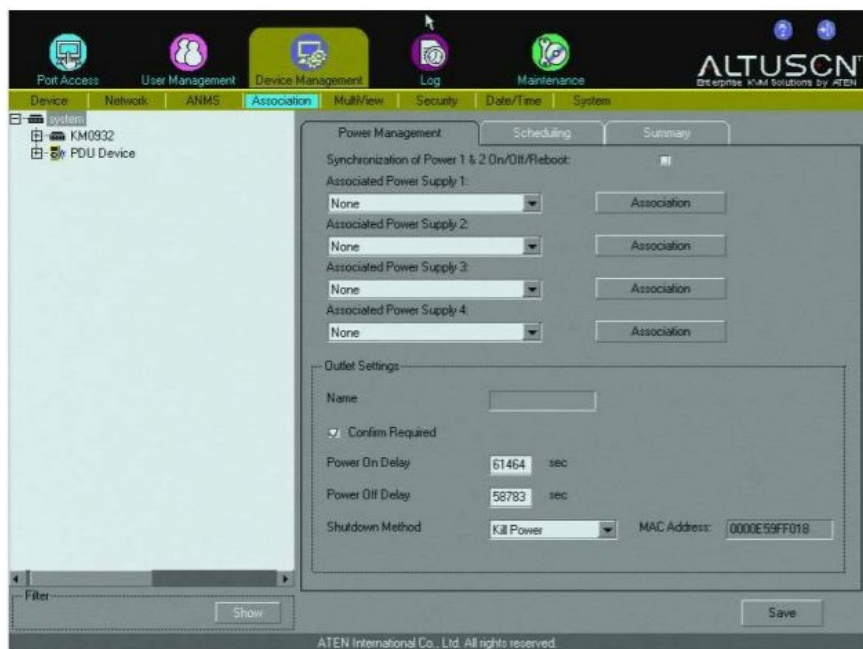
「関連付け」画面は、電源管理デバイス PN0108 のアウトレットをマトリックス KVM スwitch の KVM ポートに関連付けをする際に使用します。ポートへの関連付けが行われると、PN0108 に Web ブラウザから個別にアクセスしなくても、KVM ポートに接続されたデバイスの電源ステータスを KM0032/KM0532/KM0932 の「ポートアクセス」画面から操作できるようになります。

- 注意:**
1. この機能をお使いになるには、PN0108 をセットアップし、p.230 の接続図のようにこの PN0108 を KVM スwitch のポートに接続されたデバイスと接続していることが前提です。
 2. 本製品に対応した電源管理デバイスの最新版のファームウェアや詳細については、弊社 Web サイトでご確認ください。

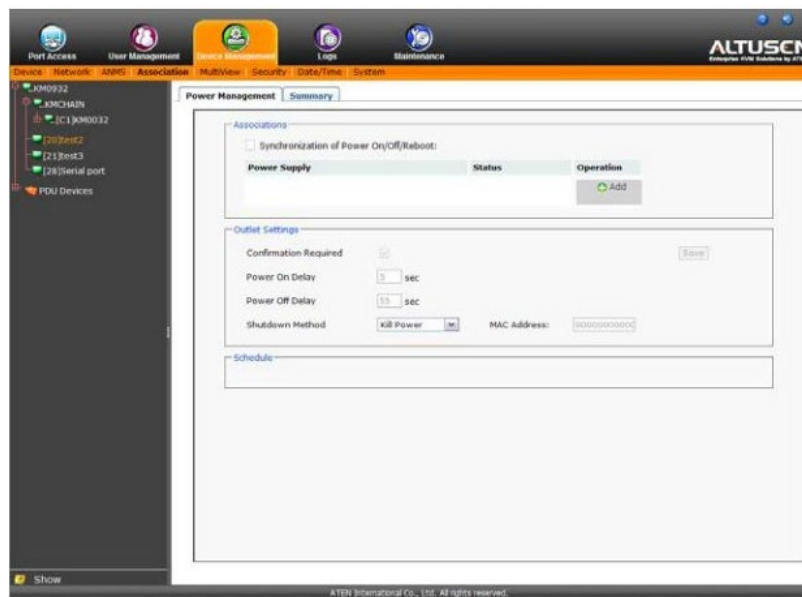
電源管理

メニューバーで「関連付け」を選択すると、「電源管理」画面に遷移します。

コンソール UI



ブラウザ UI

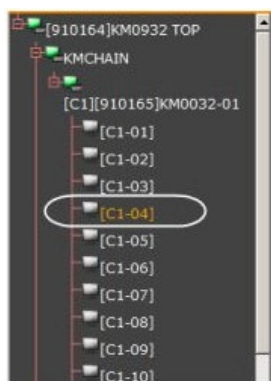


この画面は、下表に示す 3 つのメインセクションから構成されます。

ページセクション	説明
Associations (関連付け)	このセクションでは、PN0108 の電源アウトレットをマトリックス KVM スイッチの KVM ポートに関連付けます。
Outlet Settings (アウトレットの設定)	このセクションでは、各アウトレットに対して電源管理の設定を行います。設定方法の詳細については、PN0108 ユーザーマニュアル内におけるアウトレットの設定に関するセクションをご参照ください。
Schedule (スケジューリング)	このセクションでは、アウトレットに対して電源 ON/OFF のスケジューリングの設定を行います。詳細については、PN0108 ユーザーマニュアル内における、製品の管理方法に関するセクションをご参照ください。

PON アウトレットを KVM スイッチのポートに関連付ける場合は、下記の手順に従って操作してください。

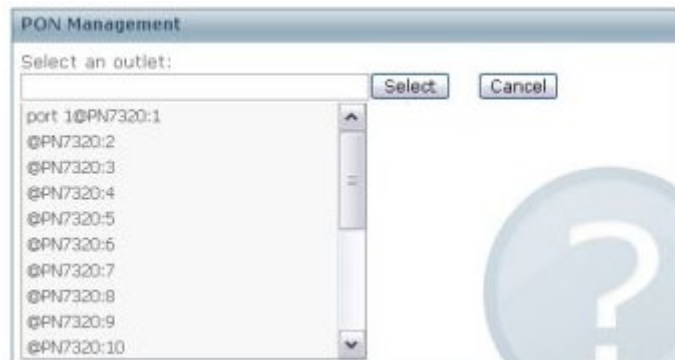
1. サイドバツリから、電源管理デバイスのアウトレットに関連付けを行いたい、KVM スイッチ上のポートを選択してください。



2. ポートに関連付けを行いたいアウトレットを選択して「関連付け」の下にある「追加」ボタンをクリックしてください (ポップアップウィンドウが表示されます。)



電源管理表に、アウトレットの ID と名前が表示されます(ブラウザ UI)。



- または -

「Associated Power Supply 1」リストを展開し、ポートに関連付けを行いたいアウトレットを選択してから、選択ボックスの右隣にある「関連付け」ボタンをクリックしてください。「Associated Power Supply 1、2 等」に、アウトレットの ID と名前が表示されます(コンソール UI)。

A screenshot of a 'Power Management' console UI. It has three tabs: 'Power Management', 'Scheduling', and 'Summary'. The 'Power Management' tab is active. Under the heading 'Synchronization of Power 1 & 2 On/Off/Reboot', there is a checkbox that is checked. Below this, there are four rows, each for an 'Associated Power Supply' (1, 2, 3, and 4). Each row has a dropdown menu currently set to 'None' and an 'Association' button to its right. Below these is a section titled 'Outlet Settings' enclosed in a dashed border. It contains a 'Name' label with an empty text box, a 'Confirm Required' checkbox, 'Power On Delay' and 'Power Off Delay' each with a text box containing '0' and a 'sec' label, a 'Shutdown Method' dropdown set to 'Wake on LAN', and a 'MAC Address' text box containing '000000000000'.

3. (オプション) KVM スイッチのポートに接続されているデバイスで電源を二重化させていて、セカンドのアウトレットポートをセカンドの電源に関連付けたい場合は、手順2を繰り返して、ポートに関連付けを行いたいアウトレットを選択して、「追加」ボタンをクリックしてください。接続したデバイスに最大4つまでのアウトレットを関連付けることができます。

The screenshot displays the KVM management interface with three main sections:

- Associations:** Contains a checkbox for "Synchronization of Power On/Off/Reboot:". Below it is a table with columns "Power Supply", "Status", and "Operation". One entry is visible: "PN7320:2" with a status icon and a "Reboot" checkbox. The "Operation" column has "Delete" and "Add" buttons.
- Outlet Settings:** Includes settings for "Confirmation Required" (checked), "Power On Delay" (5 sec), "Power Off Delay" (1 sec), "Shutdown Method" (Kill Power), and "MAC Address" (000000000000). A "Save" button is present.
- Schedule:** A table with columns: "Routine Type", "Day", "Start Date", "End Date", "Shutdown Time (HH:MM)", "Restart Time (HH:MM)", and "Operation". An "Add" button is at the bottom right.

4. (オプション) 2 箇所の電源アウトレットを関連付けて、これらの電源の ON/OFF/再起動操作を同期させたい場合は、「電源 On/Off/再起動の同期」チェックボックスにチェックを入れてください。
5. PN0108 のユーザーマニュアル内の接続およびスケジュールに関する詳細が記載されているセクションの内容に従って、電源の設定・スケジュールの設定を行ってください。
6. 画面下部にある「保存」ボタンをクリックしてください。

これによって、画面で KVM ポートを選択する(「デバイス管理」→「関連付け」と、デバイスの設定やスケジュールの設定が管理できるようになります。

「Port Access」→「接続」画面からポートを選択した場合に、デバイスの電源管理も行うことができます。

Port Attributes

Status

Port Name: test2
KVM Adapter: KA9170
Operation Mode: Share
Port OS: Win
OS Language: English (US)

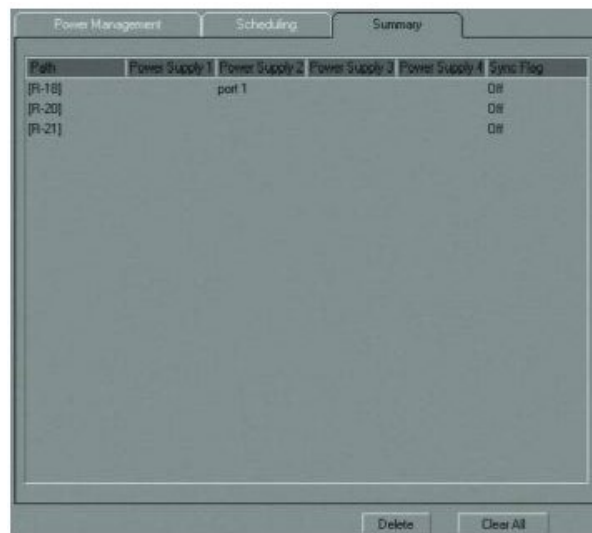
Associated Link

Power Supply Association:	@PN7320:14	 ☐ Reboot
	@PN7320:20	 ☐ Reboot
	@PN7320:17	 ☐ Reboot

サマリー

「サマリー」タブをクリックすると、下図のような画面が表示されます。

コンソール UI



ブラウザ UI



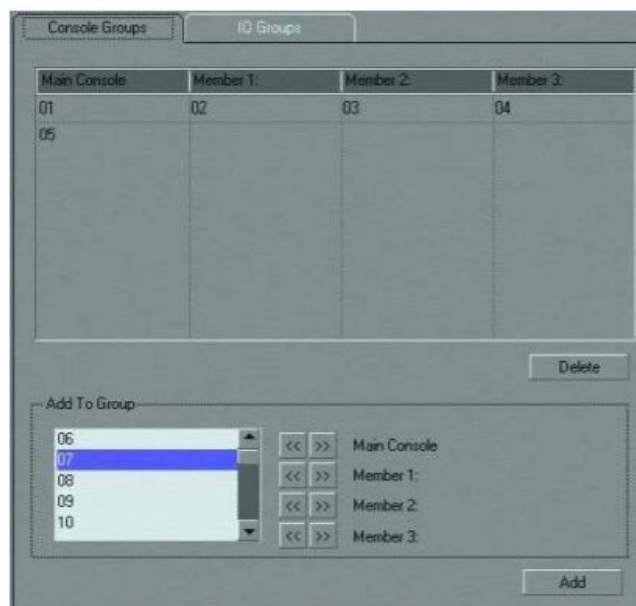
この画面では、「電源管理」画面で設定を行った電源の関連付けの一覧がソートされて表示されます。

- ◆ 列名をクリックすると、その項目順で一覧をソートします。
- ◆ 電源の関連付けを削除する場合は、対象アイテムを選択して「削除」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 電源の関連付けをすべて削除する場合は、「全てクリア」ボタンをクリックしてください。

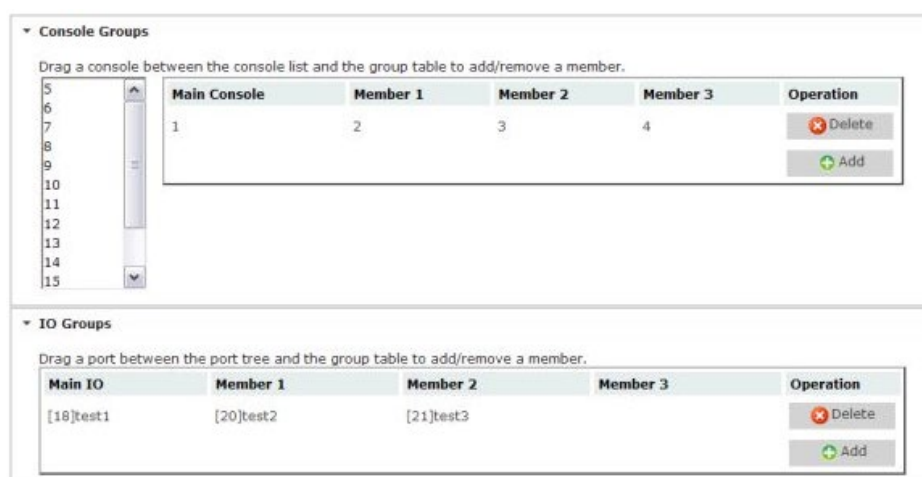
マルチビュー

マルチビューでは、複数のビデオカードを使用することによって、本製品の複数のポートに接続されているコンピュータに対して、マルチコンソールポートアクセスができる機能です。マルチビューの画面は、「コンソールグループ」と「IO グループ」の2つのセクションに分かれています。

コンソール UI



ブラウザ UI



マルチビューグループ

複数のコンソールが複数のビデオカードによって複数の KVM ポートに接続されているコンピューターに同時アクセスするには、コンソールとポートがグループに追加されていなければなりません。コンソールは「コンソールグループ」に、ポートは「IO グループ」にそれぞれ追加しなければなりません。両方のグループが作成されたら、コンソールは対応する IO グループポートである「メイン IO」、「メンバー1」、「メンバー2」または「メンバー3」のいずれかに自動的に接続します。メインコンソールがフル KVM アクセス権を有しているのに対し、他のグループコンソールは参照のみのアクセス権を有しています。マルチビューグループを作成するには、下記の操作方法に従ってください。

IO グループの作成

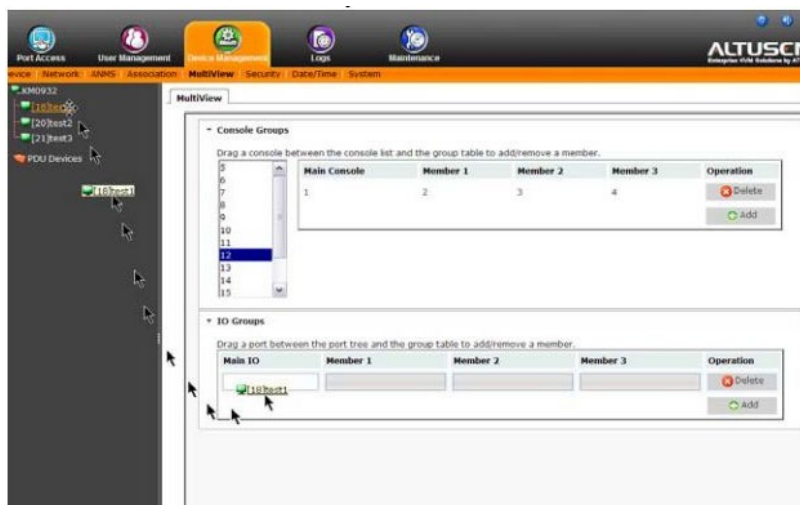
「IO グループ」を作成するには、下記の手順に従ってください。

1. 「IO グループ」セクションから「追加」をクリックして、ポート選択ツリーリストから関連するポートをクリックしたままドラッグして、「IO グループ」の「メイン IO」、「メンバー1」、「メンバー2」または「メンバー3」のいずれかのセクションに移動(ドロップ)させてください(ブラウザ UI)。

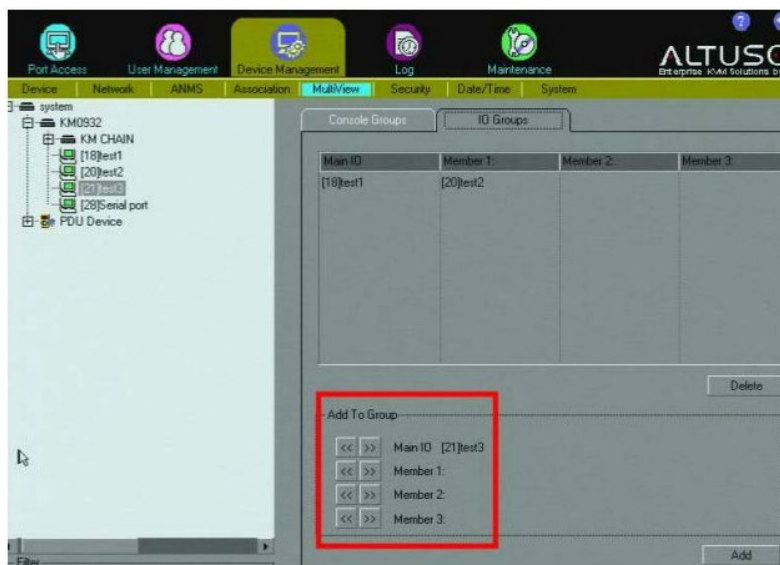
– または –

サイドバーから関連するポートを選択して、「グループに追加する」という項目の下にある矢印キーを使用して、そのポートを「IO グループ」の「メイン IO」、「メンバー1」、「メンバー2」または「メンバー3」のいずれかのセクションに移動させてから「追加」をクリックしてください(コンソール UI)。

ブラウザ UI: IO グループに追加



コンソール UI:IO グループに追加



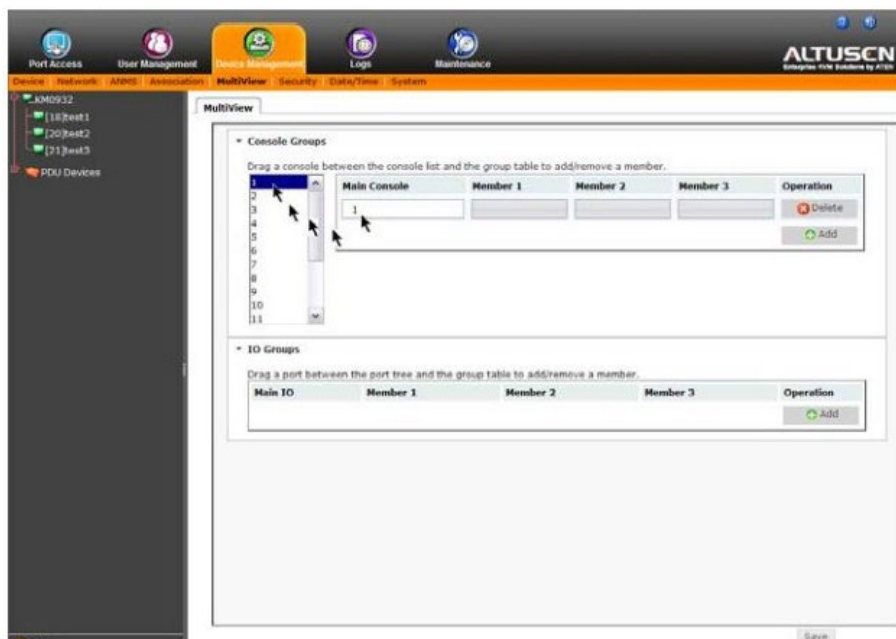
2. 「保存」をクリックしてください。

コンソールグループの作成

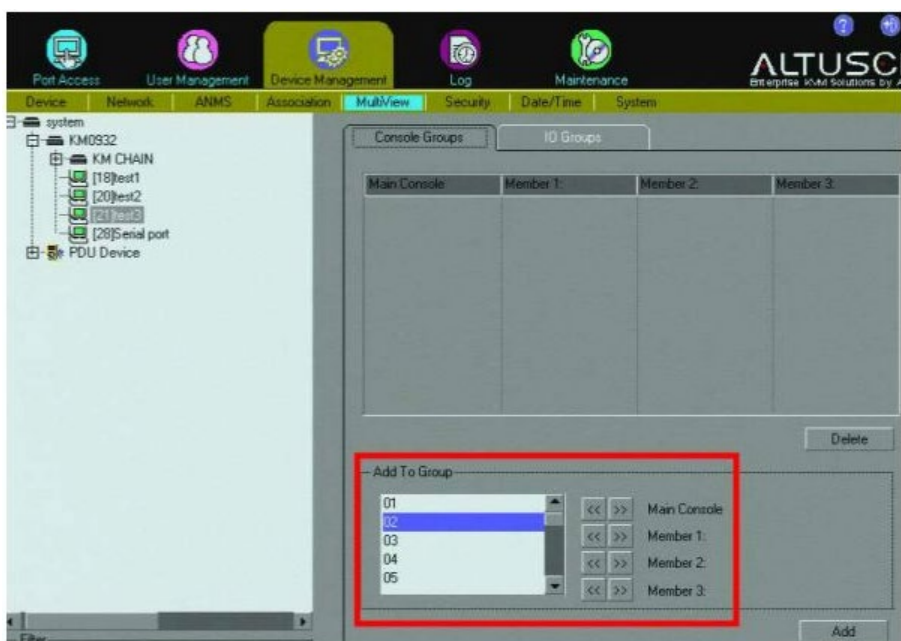
「コンソールグループ」を作成するには、下記の手順に従ってください。

1. 「コンソールグループ」セクションから「追加」をクリックして、コンソールリストから関連するコンソールをクリックしたままドラッグして、「コンソールグループ」の「メインコンソール」、「メンバー1」、「メンバー2」または「メンバー3」のいずれかのセクションに移動(ドロップ)させてください(ブラウザ UI)。
 - または -
- 「グループに追加する」という項目の下にあるコンソールリストから関連するコンソールを選択し、矢印キーを使用して、そのコンソールを「コンソールグループ」の「メインコンソール」、「メンバー1」、「メンバー2」または「メンバー3」のいずれかのセクションに移動させてから「追加」をクリックしてください(コンソール UI)。

ブラウザ UI:コンソールグループに追加



コンソール UI:コンソールグループに追加

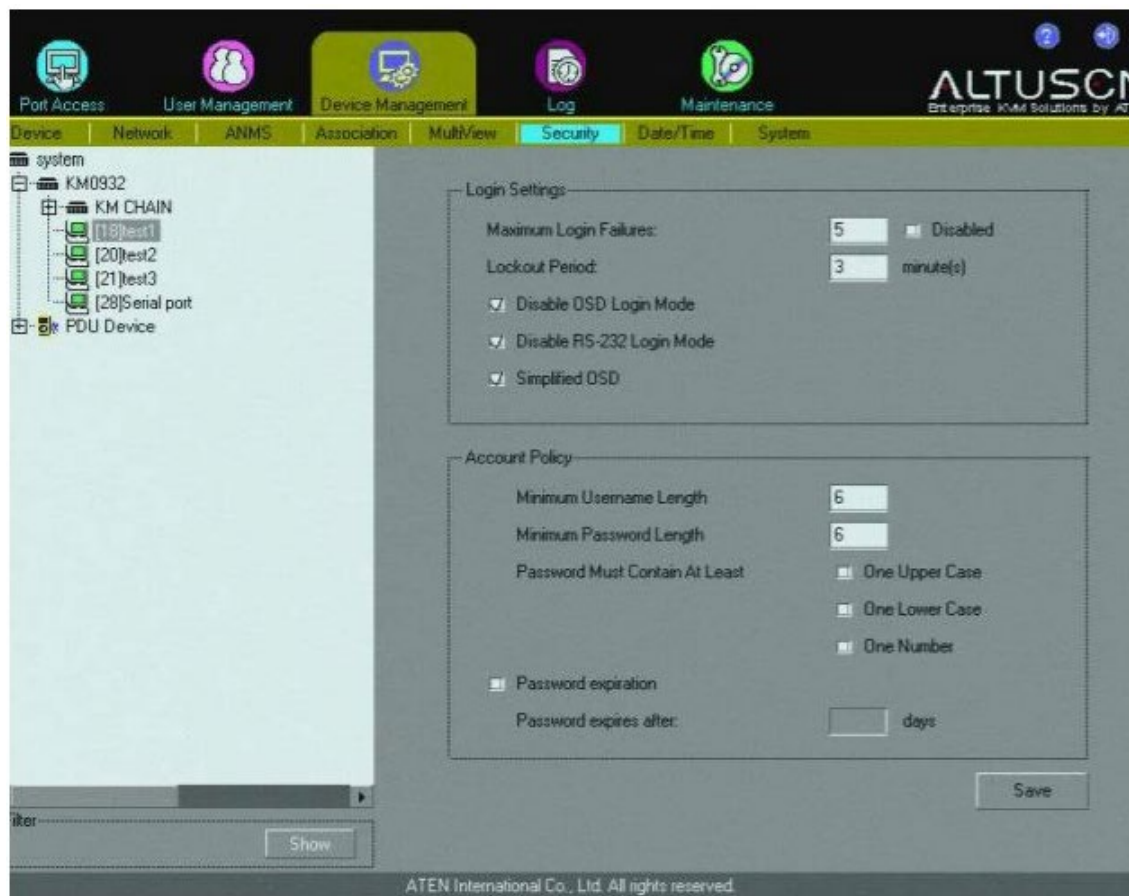


2. 「保存」をクリックしてください。

セキュリティ

「セキュリティ」の画面は下記で説明するように、「ログイン設定」と「アカウントポリシー」という 2 つのメイン画面に分かれています。

コンソール UI



ブラウザ UI

ALTUSCN
Enterprise RADIUS Solution by AT&T

Port Access User Management Device Management Logs Maintenance

Device Network ANMS Association MultiView Security Data/Time System

Security

Login Settings

Maximum Login Failures: 5 ☐ Disabled

Lockout Period: 2 minute(s)

☒ Disable OSD Login Mode

☒ Disable RS-232 Login Mode

☐ Simplified OSD

Account Policy

Minimum Username Length 6

Minimum Password Length 6

Password Must Contain At Least ☐ One Upper Case ☐ One Lower Case ☐ One Number

☐ Password expiration

Password expires after: days

Show Save

© 1994 International Co., Ltd. All rights reserved.

項目		説明
ログイン設定	最大ログイン失敗	ユーザーの連続ログイン試行可能回数を設定します。ユーザーがログインを失敗した回数がこの回数を超えると、そのユーザーはロックされます。
	ロックアウト期間	ユーザーがロックされた場合、再ログインまでに待機しなければならない時間を設定します。
	OSD ログインモードの無効	このボックスにチェックを入れると認証無しでログインでき、ユーザー管理において認証不要のアカウントで管理することができます。認証不要のアカウントでログインする場合、ユーザー名とパスワードの欄を空欄のままにして、[Enter]キーを押すだけでログインすることができます。このアカウントは削除できませんが他のユーザーアカウントとして管理されます (p.103 参照)。このオプションは安全ではないので、これを有効にする前に再度ご使用を検討されることを推奨します。
	RS-232 ログインモードの無効	「RS-232 ログインモードの無効」にチェックが入っている場合、シリアルターミナルログインを通してコンソールモジュールに接続しているアドミニストレーターは本製品にアクセスする際にユーザーネームとパスワードを入力する必要がなくなります。
	OSD の簡素化	このボックスにチェックが入っている場合、「ユーザー」のユーザーレベルに設定されている全てのアカウントはローカルでコンソールにログインした際に、基本的な機能でのログインモードに制限されます。
アカウントポリシー	ユーザーネーム最小文字数	ユーザーネームの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 1～16 です。デフォルトでは 6 に設定されています。
	パスワード最小文字数	パスワードの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 0～16 です。0 を設定した場合は、パスワードの入力が不要になり、ユーザーはユーザーネームだけでログインできるようになります。デフォルトでは 6 に設定されています。

(表は次ページに続きます。)

項目		説明
アカウントポリシー (前頁より続く)	パスワードには 以下が必須です	これらの項目にチェックを入れると、パスワードに含めなければならない文字の条件を追加することができます。 大文字1文字 - 半角英字の大文字を1文字以上入力 小文字1文字 - 半角英字の小文字を1文字以上入力 数字1文字 - 半角数字を1文字以上入力 注意:このポリシーは既存のユーザーアカウントには適用されません。有効後にユーザーを作成したり、パスワードを変更したりした場合にこのポリシーが適用されます。
	パスワード期限切れ	一定の日数が経過した後でユーザーのパスワードを期限切れにしたい場合は、この項目にチェックを入れてください。この項目が有効になっていない場合、ユーザーのパスワードは失効しません。
	パスワード期限切れ(日):	「パスワード期限切れ」の項目を有効にした場合は、パスワードの有効期間の日数をここに入力してください。この日数が経過すると、ユーザーのパスワードは失効し、新しいパスワードを設定しなければならなくなります。

Date/Time

コンソール UI

The screenshot displays a console UI for configuring date and time. It is divided into three main sections: Date, Time, and Time Zone. The Date section features a calendar for May 2012, with the 23rd highlighted. The Time section has a text input field showing '08:11:08'. The Time Zone section includes a dropdown menu set to '(GMT+08:00) Taipei' and a checkbox for 'Daylight Savings Time' which is currently unchecked. A 'Save' button is located at the bottom right of the interface.

下記の内容に従ってパラメーターの設定を行ってください。

日付

- ◆ 前の年に移動する場合は「<<」を、次の年に移動する場合は「>>」をそれぞれクリックしてください。
- ◆ 前の月に移動する場合は「<」を、次の月に移動する場合は「>」をそれぞれクリックしてください。
- ◆ 表示されたカレンダーから適切な日を選択してください。

Time

時刻は、24 時間制で「HH:MM:SS」のフォーマットで入力してください。

タイムゾーン

- ◆ 製品がセットアップされている場所のタイムゾーンを設定する場合は、現在の設置場所から最も近いものをリストボックスの中から選択してください。
- ◆ 製品をお使いの地域でサマータイムが導入されている場合は、「夏時間調整」の項目にチェックを入れてください。

各項目への入力が完了したら、「保存」ボタンをクリックしてください。

ブラウザ UI

The screenshot shows a web interface for configuring system time and time zone. It is divided into three main sections:

- Current System Time:** Displays the current date and time. Date (YYYY-MM-DD): 2012-05-17, Time (HH:MM:SS): 09:48:18.
- New System Time:** Allows setting a new time. It has three radio button options:
 - ☐ Synchronize with computer time: Date (YYYY-MM-DD): 2012-05-17, Time (HH:MM:SS): 09:48:00.
 - ☒ Set manually: Date (YYYY-MM-DD): 2012-05-17, Time (HH:MM:SS): 09:43:38.
 - ☐ Synchronize with NTP server: Includes a checked checkbox for "Using default NTP server" and input fields for "Primary NTP Server" and "Alternate NTP Server".
- KM0932 Time Zone:** A dropdown menu for "Time Zone" is set to "(GMT+08:00) Taipei". Below it is a checkbox for "Daylight Savings Time" which is currently unchecked.

この画面にある各項目の内容は下記の通りです。

現在のシステム時刻

このセクションには、製品本体に現在設定されている日付と時刻が表示されます。これらの情報は読取専用ですので、変更することはできません。

注意: ブラウザ UI では、システム時刻として、マトリックス KVM スイッチのタイムゾーンではなく、Web ブラウザのセッションが開始した場所が属しているタイムゾーンに関連した時刻が表示されます。Web ブラウザセッションが始まった場所が、KVM スイッチとは異なるタイムゾーンに属している場合、表示される時刻は KVM スイッチの時刻とは異なります。

新しいシステム時刻

この欄の項目を使用し、下記の方法に従って、KVM スイッチの日付と時刻の設定を変更してください。

- ◆ KVM スイッチの日付および時刻を、ログインに使用しているコンピューターに一致するように設定したい場合は、「**コンピューターの時間と同期する**」のラジオボタンを選択してください。

注意: お使いのコンピューターの日付や時刻は、項目名の下にある欄に表示されます。これらの項目は読取専用です。

- ◆ 日付および時刻を選択した値に設定したい場合は、「**手動で設定する**」のラジオボタンを選択し、日付は「YYYY-MM-DD」、時刻は「HH:MM:SS」のフォーマットで、それぞれ対応する項目に設定してください。
- ◆ 時刻をネットワークタイムサーバーに自動同期させたい場合は、「**NTP サーバーと同期する**」のラジオボタンを選択してください。
 - お使いのネットワークで使用しているデフォルトのタイムサーバーを使いたい場合は、「デフォルト NTP サーバーを使用する」のチェックボックスにチェックを入れてください。
 - タイムサーバーを指定したい場合は、「デフォルト NTP サーバーを使用する」のチェックボックスにチェックが入っていないことを確認し、このタイムサーバーの IP アドレスを「プライマリ NTP サーバー」の欄に入力してください。セカンダリタイムサーバーも指定したい場合は、このタイムサーバーの IP アドレスを「代替 NTP サーバー」の欄に入力してください。

タイムゾーン

タイムゾーンの設定方法は、p.99 のコンソール UI で説明した内容と同様です。

システム

コンソール UI

Console		Version		
KA7240		V2.0.191		
FPGA		V1.1.020		
Station ID	Port Path	Type	Device	Firmware
910183	[ROOT]	Station	KM0932	V2.0.191
910183	[ROOT-C05]	Console	KA7240	V2.0.191

コンソール UI の「システム」画面には、KM0032/KM0532/KM0932 やこれらに接続されているコンピューターモジュールに関して、ファームウェアバージョンを含むシステム情報が提供されています。

ブラウザ UI

System Information					
Station ID	Port Path	Type	Device	Firmware	
910183	[ROOT]	Station	KM0932	V2.0.191	
910183	[ROOT-C05]	Console	KA7240	V2.0.191	
910183	[ROOT-C06]	Console	KA7230	V2.0.191	
910183	[ROOT-P18]	Port	KA7176	V1.2.111	
910183	[ROOT-P20]	Port	KA9170	V3.3.321	
910183	[ROOT-P21]	Port	KA7120	V2.5.247	

ブラウザ UI の「システム」画面には、マトリックス KVM スイッチに接続されたデバイス(KVM スイッチ、コンソールモジュール、コンピューターモジュール)に関する情報の詳細が提供されます。

注意: 表示されたアイテムの並び順は、並べ替えの対象となる項目の列をクリックすることで変更できます。

第7章

ユーザー管理

概要

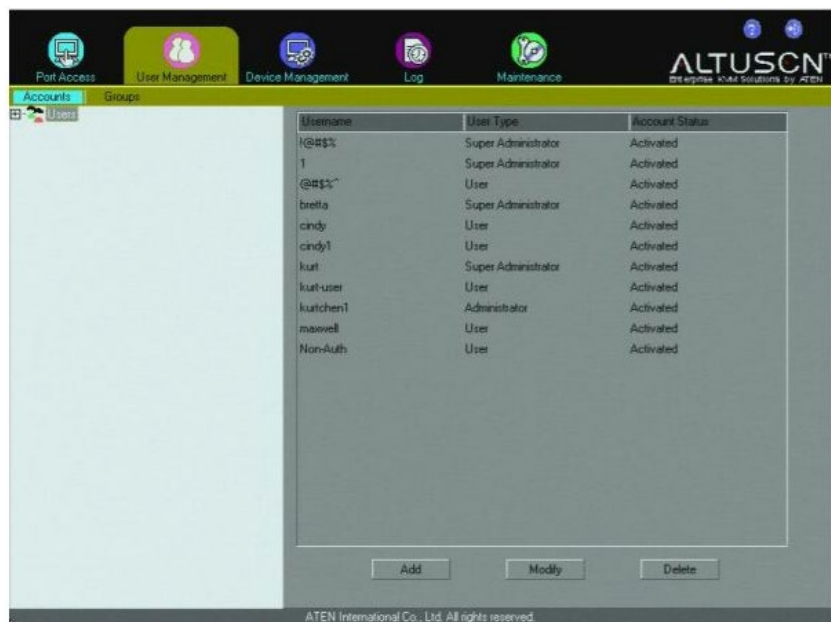
「ユーザー管理」画面では、スーパーアドミニストレーターやアドミニストレーターによって、ユーザーやグループの作成・変更・削除を行ったり、これらのユーザーに対してデバイスの操作権限を設定したりすることができます。本製品では、最大 1024 アカウントと 256 グループの作成に対応しています。

-
- 注意:**
1. この画面はスーパーアドミニストレーターとアドミニストレーターに限定された画面です。
 2. あらかじめ設定されたアカウントが 2 つあります。スーパーアドミニストレーターが初回ログインの際に使用できる、デフォルトのアカウントのユーザーネームは「ADMINISTRATOR」、パスワードは「password」です。セキュリティのために、このパスワードは後で変更してください。
「デバイス管理」の「ログインモードを無効にする」機能を使用している場合、非認証アカウントが使用されます（詳細は p.97 「ログインモードの無効」参照）。このアカウントは削除できませんが、他のアカウントとして管理することができます。セキュリティの面からこの機能は無効にすることを推奨いたします。
-

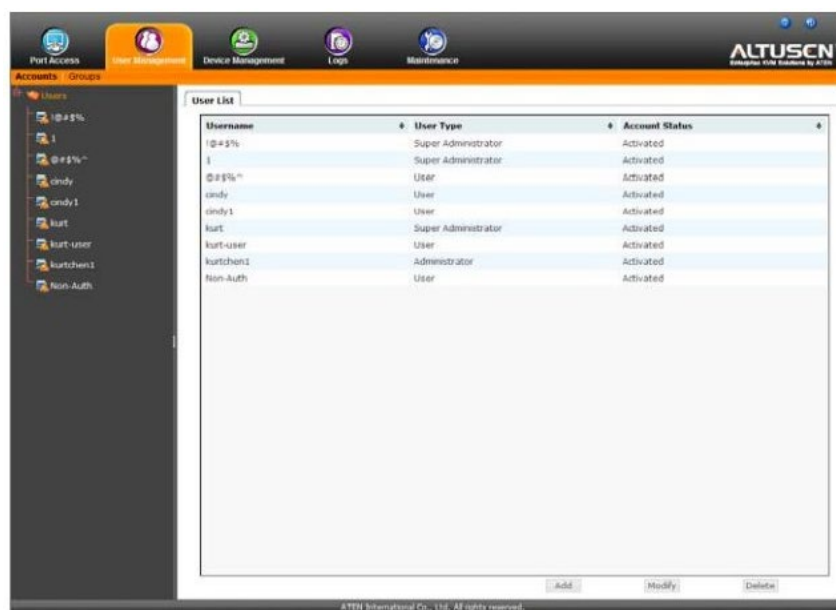
アカウント

「ユーザー管理」タブをクリックすると、GUI では「アカウント」メニューが表示されます。「ユーザー管理」タブに最初にアクセスすると、下図のような画面が表示されます。

コンソール UI



ブラウザ UI



この画面は、2つのメインエリアから構成されます。ユーザーはすべて、画面左側にあるサイドバーに一覧表示されます。中央のパネルにもユーザーの一覧が表示されますが、ここでは各ユーザーに関する詳細情報を一目で確認することができます。

ユーザーの追加

ユーザーを追加する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから「アカウント」を選択してください。
2. サイドバーから「ユーザー」を選択してください。
3. メインパネル下部にある「追加」ボタンをクリックしてください。「ユーザー」タブが選択された状態で画面が開きます。

コンソール UI

The console UI for adding a user is displayed. It features a top navigation bar with 'User', 'Groups', and 'Devices' tabs. The 'User' tab is active. Below the navigation bar, there are input fields for 'Username:', 'Password:', and 'Confirm Password:'. A checkbox labeled 'Local User' is checked. Under 'User Type', there are three radio buttons: 'Super Administrator', 'Administrator', and 'User', with 'User' selected. The 'Permissions' section contains two checkboxes: 'Virtual Media' and 'Power Management'. The 'Status' section includes several checkboxes: 'Disable account', 'Account never expires' (selected), 'Account expires on:' (with a date field set to '2000-01-01'), 'User must change password at next logon', 'User cannot change password', and 'Password never expires'. A 'Save' button is located at the bottom right.

ブラウザ UI

The browser UI for adding a user is displayed. It features a top navigation bar with 'User', 'Groups', and 'Devices' tabs. The 'User' tab is active. Below the navigation bar, there are input fields for 'Username:', 'Password:', and 'Confirm Password:'. A checkbox labeled 'Local User' is checked. Under 'User Type', there are three radio buttons: 'Super Administrator', 'Administrator', and 'User', with 'User' selected. The 'Permissions' section contains two checkboxes: 'Virtual Media' and 'Power Management'. The 'Status' section includes several checkboxes: 'Disable account', 'Account never expires' (selected), 'Account expires on:' (with a date field set to '2012-05-17'), 'User must change password at next logon', 'User cannot change password', and 'Password never expires'. 'Save' and 'Back' buttons are located at the bottom right.

4. ユーザーに関する必要な情報を各欄に入力してください。各項目の内容は下表の通りです。

項目	説明
ユーザーネーム	半角英数字を使用し、1～15 文字で入力してください。大文字/小文字は区別されません。
パスワード	半角英数字を使用し、1～15 文字で入力してください。大文字/小文字は区別されます。
パスワード確認	パスワードの内容に誤りがないか確認するために、パスワードの再入力を求められます。ここで設定する文字列は、パスワードで設定した文字列と同じでなければなりません。
ローカルユーザー	このボックスにチェックを入れるとユーザーはコンソールまたはブラウザを通じてローカルからログインし、スイッチを管理することができます。
ユーザータイプ	スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザーの 3 種類のユーザータイプがあります。ユーザーアカウントの総数が 1024 を超えない限り、各ユーザータイプで作成できるアカウントの数には特に制限はありません。 ◆ スーパーアドミニストレーターは、システム全体の設定・保守、ユーザー管理、デバイスやポートの割り当てを担当します。 ◆ アドミニストレーターは、ユーザーの管理・設定権限を有します。 ◆ ユーザーは、スーパーアドミニストレーターやアドミニストレーターによって許可されたデバイスやポートにアクセスすることができます。
許可	◆ 「バーチャルメディア」は、ユーザーのみ利用可能です。これによって、ユーザーに KM0032/KM0532/KM0932 のバーチャルメディア機能の使用権限が与えられます。詳細については、p.128「VM Mount」の内容をご参照ください。 ◆ 「電源管理」は、ユーザーのみ利用可能です。これによって、KM0032/KM0532/KM0932 の PON ポートに接続された電源管理デバイス Power Over the NET™へのアクセスが可能になります。

(表は次ページへ続きます。)

項目	説明
ステータス	ユーザーのアカウントや、システムへのアクセスの管理を行います。 ◆ 「アカウントを無効にする」では、現在使用していないユーザーアカウントを削除してしまうのではなく、将来簡単に元に戻して使用できるように、このユーザーアカウントを一時停止することができます。 ◆ アカウントに有効期限を設けたくない場合は、「アカウントを期限切れにしない」を選択してください。 ◆ アカウントに有効期限を設定する場合は、「アカウント期限切れ」を選択し、有効期限の日付を入力してください。 ◆ 次のログインの際にユーザーにパスワードの変更を求める場合は、「ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する」を選択してください。アドミニストレーターはこれを使うことで、ユーザーに初回ログイン用の一時パスワードを発行し、2 回目のログインではユーザー自身が設定したパスワードを使用させるようことができます。 ◆ パスワードを永続的なものにし、ユーザー自身に変更させないようにするためには、「ユーザーはパスワードを変更できない」を選択してください。 ◆ セキュリティのために、アドミニストレーターはユーザーにパスワードを時々変更させる場合があります。これ以外の場合は、「パスワードを期限切れにしない」を選択してください。これによって、ユーザーは現在使用しているパスワードを好きなだけ使うことができます。

5. 各項目への入力が完了したら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。内容を保存すると、新しいユーザーがサイドバーとメインパネルに表示されます。メインパネルには、ユーザータイプやアカウントステータス(アクティブか無効か)が表示されます。

注意: コンソール UI のメインパネルに表示されている内容の並び順は、並び替えたい列をクリックすることで変更できます。

ユーザーアカウントの変更

ユーザーアカウントを変更する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから、「アカウント」を選択してください。
2. サイドバーから、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルから、対象となるユーザーの名前をクリックし、「**編集**」ボタンをクリックしてください。
3. 「ユーザー」画面が表示されたら、設定内容を変更して、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから、「アカウント」を選択してください。
2. メインパネルから、対象となるユーザーの名前をクリックし、「**削除**」ボタンをクリックしてください。
3. 確認用のポップアップ画面が表示されたら、「**OK**」ボタンをクリックしてください。

グループ

グループ機能を使うと、ユーザーやデバイスの管理を簡単かつ効率的に行うことができます。デバイスアクセス権限はグループ内のメンバー全員に適用されますので、管理者は各ユーザーに個別に権限を設定しなくても、グループに設定するだけで設定が済みます。複数のグループを定義して、特定のデバイスに対してユーザーアクセスを許可したり、また、ある特定のグループからのユーザーアクセスを拒否したりすることができます。

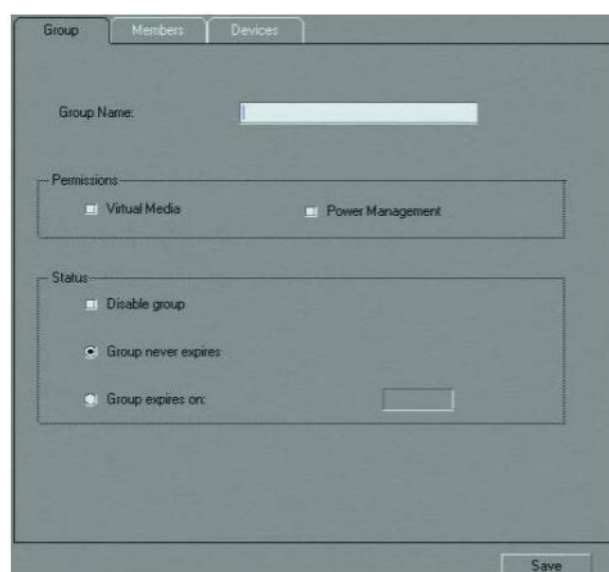
注意: ユーザータイプが「ユーザー」に属しているユーザーのみグループに割り当てることができます。スーパーアドミニストレーターやアドミニストレーターをグループに割り当てることはできません。

グループの作成

グループの作成は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから「グループ」を選択してください。
2. サイドバーから「グループ」を選択してください。
3. メインパネル下部にある「追加」ボタンをクリックしてください。「グループ」タブが選択されて表示されます。

コンソール UI



The screenshot shows the 'Group' configuration window in the console UI. It has three tabs: 'Group', 'Members', and 'Devices'. The 'Group' tab is active. Inside the 'Group' tab, there is a 'Group Name' field with a text input. Below that is a 'Permissions' section with two checkboxes: 'Virtual Media' and 'Power Management'. Below the permissions is a 'Status' section with three radio buttons: 'Disable group', 'Group never expires', and 'Group expires on:'. The 'Group never expires' radio button is selected. There is a text input field next to the 'Group expires on:' radio button. At the bottom right of the window is a 'Save' button.

ブラウザ UI

4. グループに関する必要な情報を、各欄に入力してください。各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
グループネーム	半角英数字を使用し、1～16 文字で入力してください。
許可	◆ 「バーチャルメディア」は、ユーザーのみ利用可能です。これによって、ユーザーに KM0032/KM0532/KM0932 のバーチャルメディア機能の使用権限が与えられます。詳細については、p.128 「VM Mount」の内容をご参照ください。 ◆ 「電源管理」は、ユーザーのみ利用可能です。これによって、KM0032/KM0532/KM0932 の PON ポートに接続された電源管理デバイス Power Over the NET™へのアクセスが可能になります。 注意:ユーザーが、自身が属しているグループに設定された権限以外のパーミッションも与えられている場合、このユーザーはグループの設定権限に加えて、このパーミッションも保持されます。
ステータス	ユーザーのアカウントや、システムへのアクセスの管理を行います。 ◆ 「グループを無効にする」では、現在使用していないグループを削除してしまうのではなく、将来簡単に元に戻して使用できるように、このグループを一時停止することができます。 ◆ グループに有効期限を設けたくない場合は、「グループを期限切れにしない」を選択してください。 ◆ グループに有効期限を設定する場合は、「グループ期限切れ」を選択し、有効期限の日付を入力してください。

5. 各項目への入力が完了したら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。内容を保存すると、新しいグループがサイドバーとメインパネルに表示されます。メインパネルには、グループステータス(アクティブか無効か)が表示されます。

注意: コンソール UI のメインパネルに表示されている内容の並び順は、並び替えたい列をクリックすることで変更できます。

グループの変更

グループを変更する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから、「グループ」を選択してください。
2. グループリストから、対象となるグループの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルから、対象となるグループの名前をクリックし、「**編集**」ボタンをクリックしてください。
3. 「グループ」画面が表示されたら、設定内容を変更して、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

グループの削除

グループを削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから、「グループ」を選択してください。
2. メインパネルから、対象となるグループの名前をクリックし、「**削除**」ボタンをクリックしてください。
3. 確認用のポップアップ画面が表示されたら、「**OK**」ボタンをクリックしてください。

ユーザーとグループ

グループへのユーザーの割り当てや、グループからのユーザーの削除は、「ユーザー」メニューと「グループ」メニューのどちらからでも行うことができます。

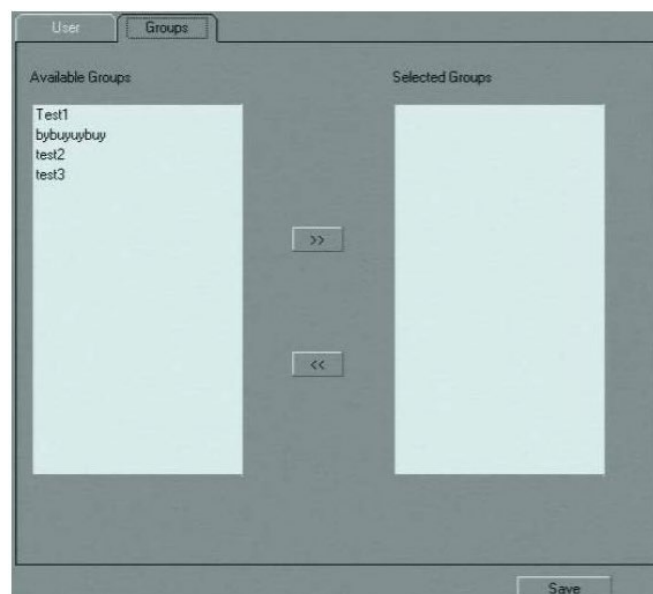
注意: ユーザーをグループに割り当てる前に、先にユーザーやグループを作成しておいてください。詳細は p.105 「ユーザーの追加」をご参照ください。

ユーザーメニューを使ってユーザーをグループに登録する方法

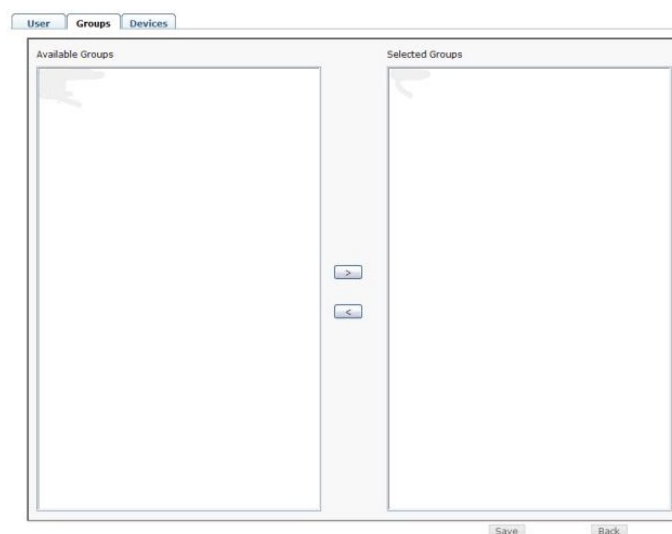
「ユーザー」メニューを使って、ユーザーをグループに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから「アカウント」を選択してください。
2. サイドバーから、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルから、対象となるユーザーの名前をクリックし、「**編集**」ボタンをクリックしてください。
3. 表示された画面から、「グループ」タブを選択してください。下図のような画面が表示されます。

コンソール UI



ブラウザ UI



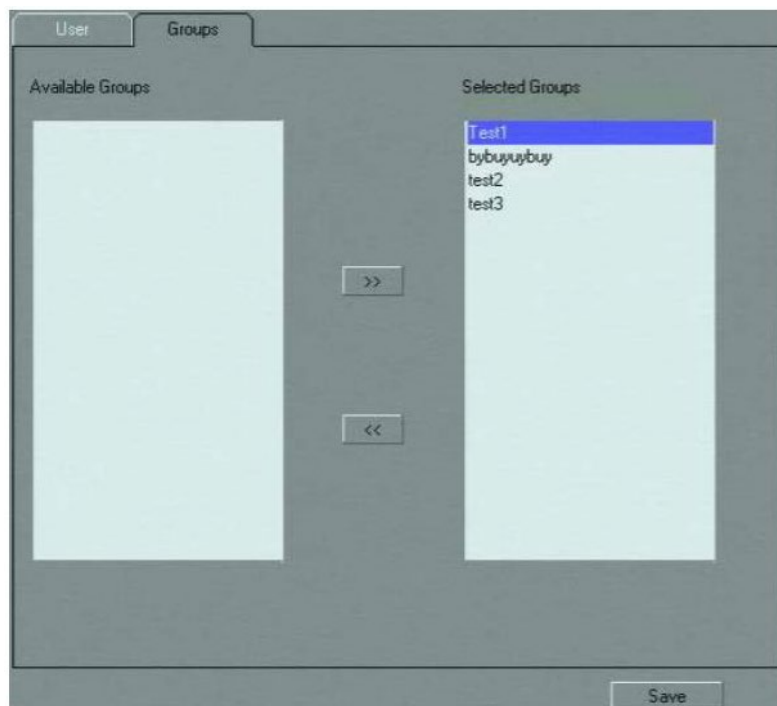
4. 「有効なグループ」リストから、ユーザーの所属先となるグループを選択してください。
5. 「>」ボタンをクリックし、手順4で選択したグループを「選択されたグループ」に移動させてください。
6. このユーザーの所属先となるグループが他にもある場合は、上記手順の操作を繰り返してください。
7. 操作が完了したら、「保存」ボタンをクリックしてください。

ユーザーメニューを使ってユーザーをグループから削除する方法

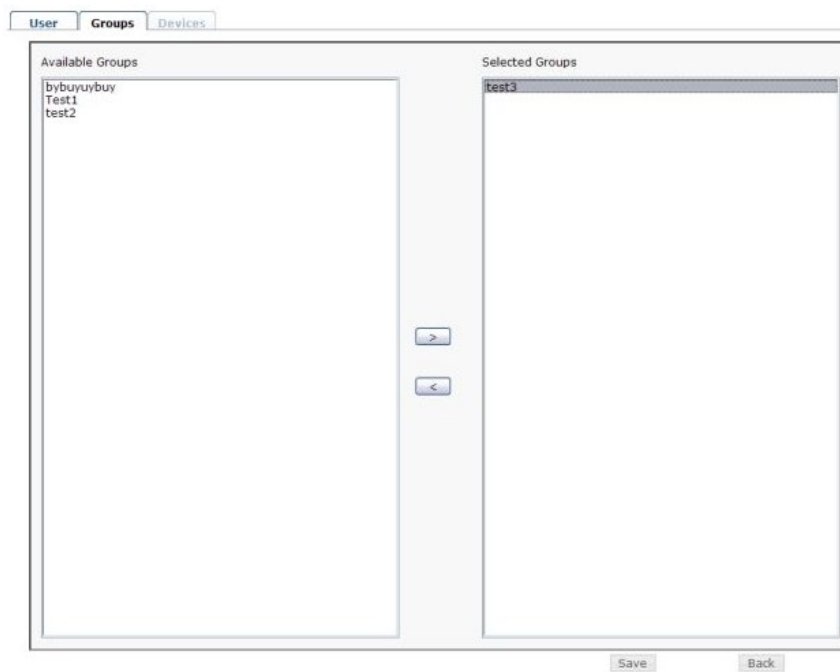
「ユーザー」メニューを使って、ユーザーをグループから削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから「アカウント」を選択してください。
2. サイドバーから、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルから、対象となるユーザーの名前をクリックし、「編集」ボタンをクリックしてください。
3. 表示された画面から、「グループ」タブを選択してください。下図のような画面が表示されます。

コンソール UI



ブラウザ UI:



4. 「選択されたグループ」リストから、ユーザーを削除したいグループを選択してください。
5. 「<」ボタンをクリックし、手順 4 で選択したグループを「選択されたグループ」リストから「有効なグループ」に移動させてください。

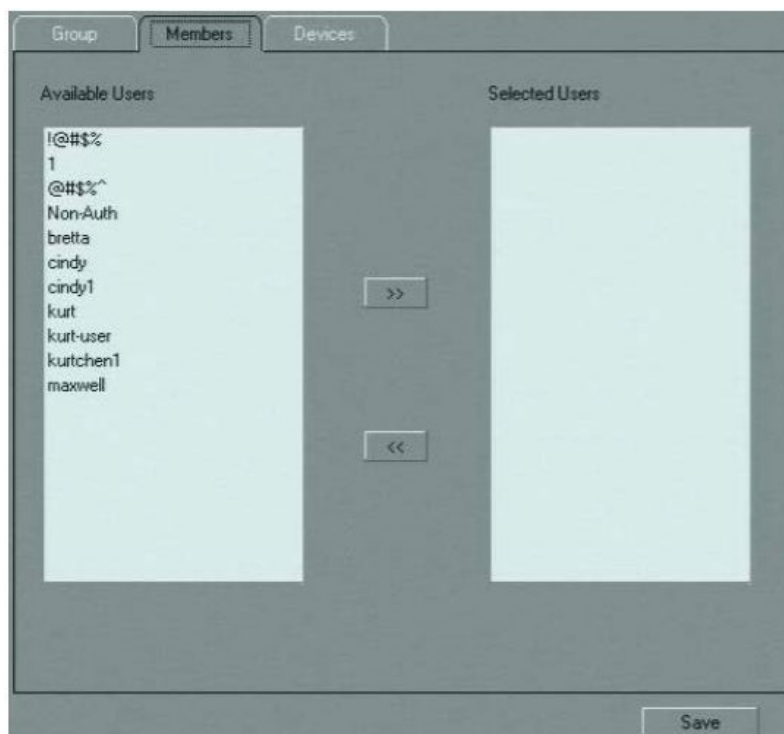
6. このユーザーを削除したいグループが他にもある場合は、上記手順の操作を繰り返してください。
7. 操作が完了したら、「保存」ボタンをクリックしてください。

グループメニューを使ってユーザーをグループに登録する方法

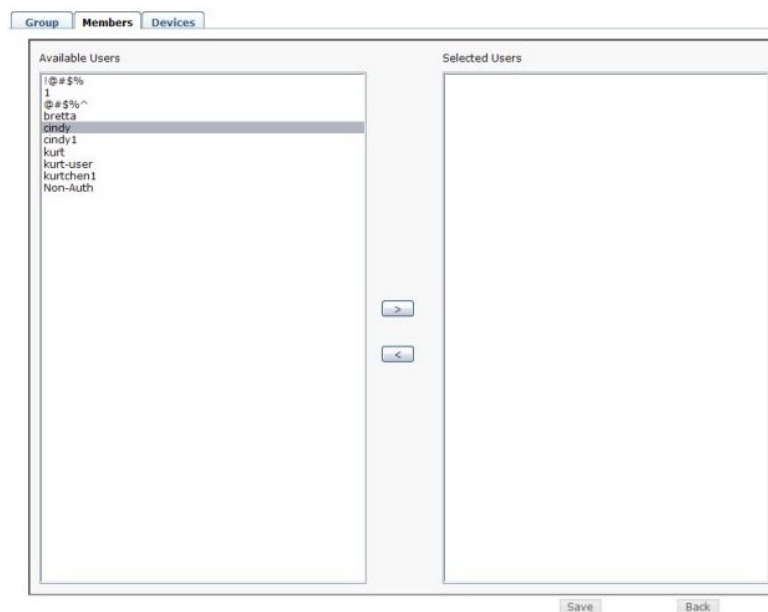
「グループ」メニューを使って、ユーザーをグループに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから「グループ」を選択してください。
2. サイドバーから、対象となるグループの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルから、対象となるグループの名前をクリックし、「編集」ボタンをクリックしてください。
3. 表示された画面から、「メンバー」タブを選択してください。下図のような画面が表示されます。

コンソール UI



ブラウザ UI



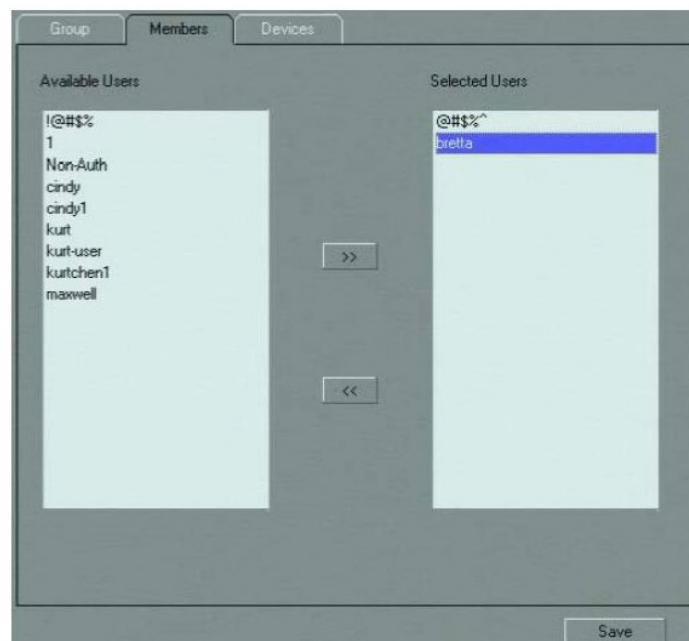
4. 「有効なユーザー」リストから、グループのメンバーとして追加したいユーザーを選択してください。
5. 「>」ボタンをクリックし、手順 4 で選択したグループを「ユーザーを選択する」に移動させてください。
6. このグループのメンバーとして追加したいユーザーが他にもいる場合は、上記手順の操作を繰り返してください。
7. 操作が完了したら、「保存」ボタンをクリックしてください。

グループメニューを使ってグループからユーザーを削除する方法

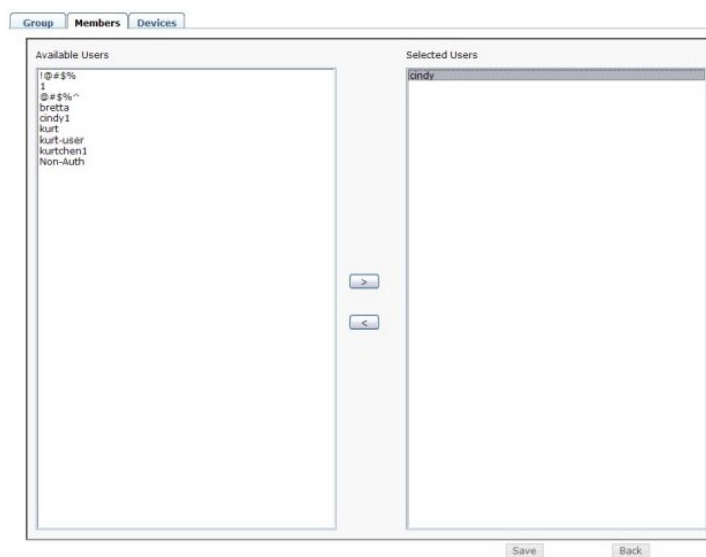
「グループ」メニューを使って、ユーザーをグループから削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから「グループ」を選択してください。
2. サイドバーから、対象となるグループの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルから、対象となるグループの名前をクリックし、「編集」ボタンをクリックしてください。
3. 表示された画面から、「メンバー」タブを選択してください。下図のような画面が表示されます。

コンソール UI



ブラウザ UI



4. 「ユーザーを選択する」リストから、グループから削除したいユーザーを選択してください。
5. 「<」ボタンをクリックし、手順 4 で選択したユーザーを「ユーザーを選択する」リストから「有効なユーザー」に移動させてください。
6. このユーザーを削除したいグループが他にもある場合は、上記手順の操作を繰り返してください。
7. 操作が完了したら、「保存」ボタンをクリックしてください。

デバイスの割り当て

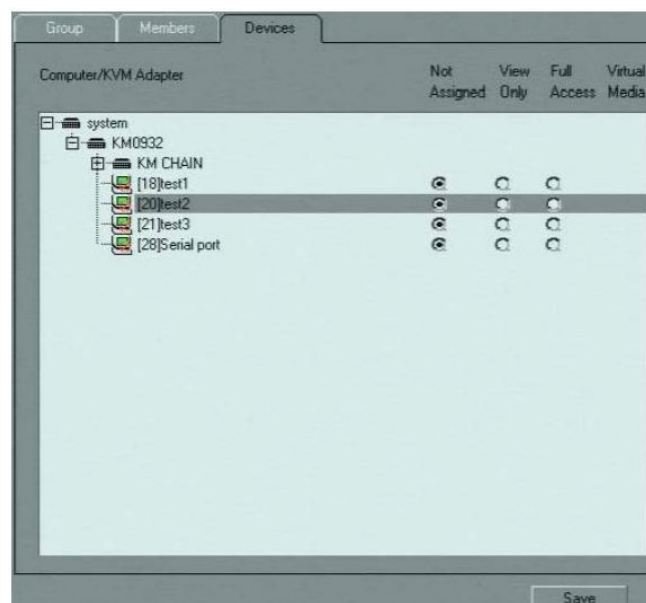
ユーザーがマトリックス KVM スイッチにログインすると、GUI 画面には「ポートアクセス」メニューが表示されます。そして、ユーザーがアクセスを許可されている全ポートが、画面左側にあるポート選択パネルに一覧表示されます。ポート、また、これらのポートに接続されているデバイスに対するアクセス権限は、「ユーザー管理」画面の「ユーザー」リストまたは「グループ」リストからポート単位で設定されます。

ユーザーメニューを使ってデバイス操作権限を割り当てる方法

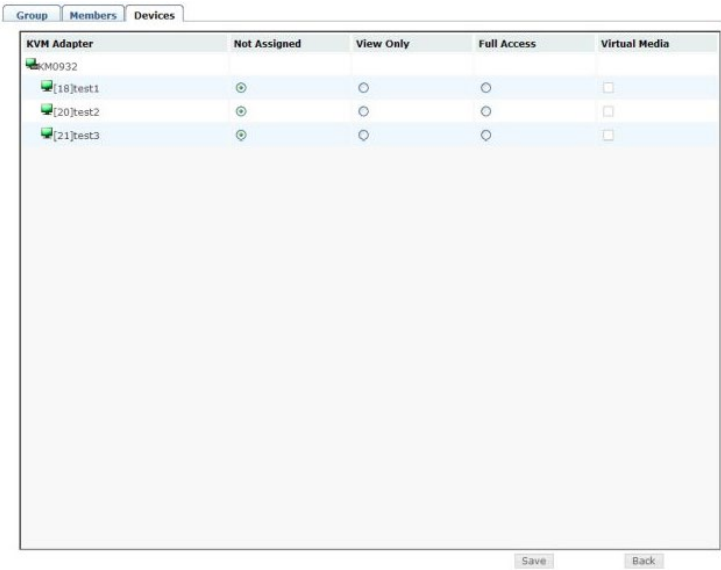
「ユーザー」メニューを使って、デバイス操作権限をユーザーに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メニューバーから「アカウント」を選択してください。
2. サイドバーから、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルから、対象となるユーザーの名前をクリックし、「編集」ボタンをクリックしてください。
3. 表示された画面から、「デバイス」タブを選択してください。下図のような画面が表示されます。

コンソール UI



ブラウザ UI



注意: 電源が入っているデバイスだけが一覧表示されます。

4. KVMスイッチとポートが左側の列に一覧表示されます。操作権限を設定したいポートを選択し、下表に従って、ラジオボタンを選択して権限を設定してください。

項目	説明
Not Assigned	ユーザーに対して操作権限が具体的に設定されていませんが、ユーザーが、デバイスへの操作権限を持っているグループに属している場合、このポートはユーザーのサイドバーツリーに表示され、ユーザーは、グループに設定されている操作権限に従って、デバイスにアクセスすることができます。
No Access	アクセス権限がありません。ユーザーには、ポートに接続されたサーバーの参照権限も操作権限もありません。ポートはユーザーのサイドバーにも、メインパネルの一覧にも表示されません。 この設定の場合、デバイスの操作権限を持っているグループに属していたとしても、ユーザーはサイドバーや一覧でデバイスを確認することはできず、これらのデバイスにアクセスすることもできません。
View Only	ユーザーはリモートサーバーの画面の参照だけはできますが、リモートサーバーの操作を行うことはできません。

(表は次ページに続きます。)

項目	説明
Full Access	ユーザーはリモートサーバーの画面を参照することができ、このサーバーに対して自分のキーボードやモニターを使って操作をすることもできます。この設定が有効になっていると、「バーチャルメディア」のチェックボックスが有効になります。
Virtual Media	ユーザーにこのポートでのバーチャルメディアの使用を許可する場合は、チェックボックスにチェックを入れてください。バーチャルメディアデバイスのマウントに関する詳細については、p.128 をご参照ください。

5. 他のポートに対しても、上記の手順を繰り返して設定を行ってください。
6. 項目の選択が完了したら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。
7. 確認用のポップアップ画面が表示されたら、「**OK**」ボタンをクリックしてください。

グループメニューを使ってデバイス操作権限を割り当てる方法

ユーザーが属するグループに対してデバイス操作権限を割り当てる場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. メニューバーから「グループ」を選択してください。
2. サイドバーから、対象となるグループの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルから、対象となるグループの名前をクリックし、「**編集**」ボタンをクリックしてください。
3. 表示された「グループ」画面から、「デバイス」タブを選択してください。
4. ここで表示される画面は、「ユーザー」メニューで表示される画面と基本的には同じですが、ここでは「No Access」の設定がありません。
この画面と「ユーザー」画面の違いは、この画面で設定したものは、個人だけでなくグループの全メンバーに対して適用されるという点です。
p.118 「ユーザーメニューを使ってデバイス操作権限を割り当てる方法」に記載されている内容に従って、デバイスの割り当てを行ってください。

第8章 ポートアクセス

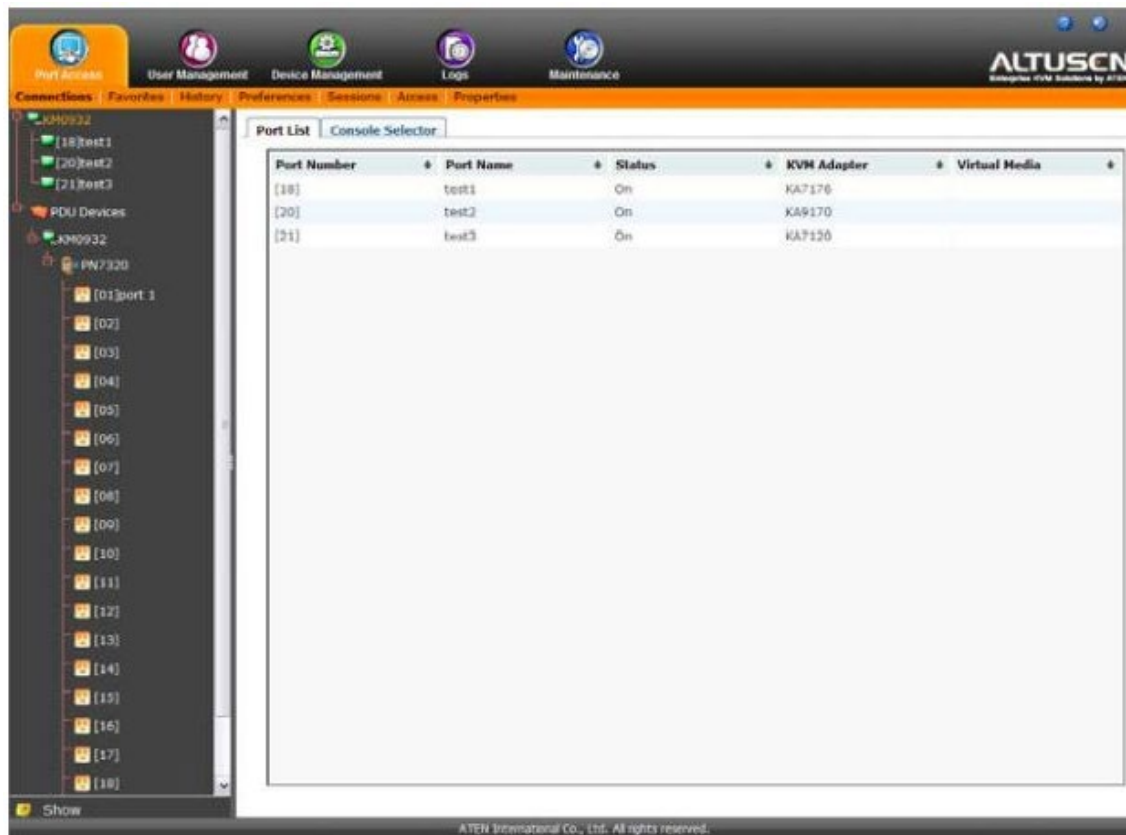
概要

KVM スイッチにログインすると、「ポートアクセス」タブの「接続」メニューが表示されます。

コンソール UI



ブラウザ UI



画面構成

「ポートアクセス」タブは、複数のメインエリアから構成されます。

- ◆ ユーザーがアクセスを許可されたすべてのポートは、画面左側にあるポート選択サイドバーに一覧表示されます。
- ◆ サイドバー下部には、ツリーに表示されるポートの操作ができる「開く」ボタンが表示されます。
- ◆ メインパネルからはポートにアクセスできるだけでなく、各ポートの詳細リストも表示されます。

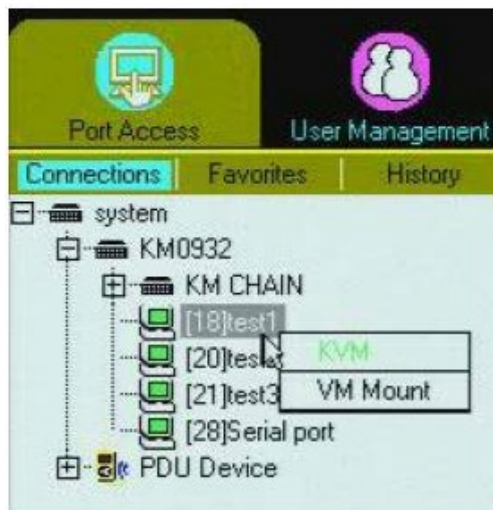
ポート選択サイドバー

ユーザーがアクセスを許可された KVM スイッチとそのポートは、カスケード接続された KVM スイッチとそのユニット上のポートも含めてすべて、画面左にあるサイドバーのツリーに一覧表示されます。

ポート選択ツリー

- ◆ ユーザーは、アクセス権を持っている KVM スイッチやポートに対してのみ参照権限が与えられます。
- ◆ ポートおよび子機となる KVM スイッチは、親機の下に入れ子になって表示されます。ツリーを展開して、入れ子になったポートを表示する場合は、KVM スイッチの前にある「+」マークをクリックしてください。また、ツリーを折りたたんで、入れ子になったポートを非表示にする場合は、KVM スイッチの前にある「-」マークをクリックしてください。
- ◆ ポートのポート ID は、ポートアイコンの隣にある括弧の中に表示されます。ポートは容易に識別できるように名前を設定することができます(p.148「ポートプロパティの設定」参照)。
- ◆ オンラインの KVM スイッチとポートには、画面が黄緑色のモニターアイコンが表示されます。画面が灰色のモニターアイコンはオフラインのデバイスやポートを表します。
- ◆ ポートにアクセスする場合は、対象となるポートのアイコンをダブルクリックしてください。ポート操作の詳細については、p.157 の第 9 章で説明します。
- ◆ コンソール UI ツリーのポートを右クリックすると、小さいポップアップが表示され、そのポートに対して KVM セッションを開くか、バーチャルデバイスをそのポートにマウントするかを選択することができます。ポートに接続されたサーバーに対して KVM セッションを開く場合は、「KVM」をダブルクリックしてください。また、ポートに接続されたサーバーにあるコンソールモジュールの USB ポートに接続されたバーチャルデバイスをマウントする場合は、「VM Mount」をダブルクリックしてください(詳細は p.128 参照)。

コンソール UI



- ◆ ブラウザ UI のポートを右クリックすると、小さいポップアップが表示され、そのポートをお気に入りリストに追加したり、また、ポートに名前が設定されている場合は、その名前を削除したりすることができます。ポートをお気に入りリストに追加する場合は、「**お気に入りに追加**」をクリックしてください(p.132 参照)。ポートが既にお気に入りに指定されている場合は、このボタンでお気に入りリストからポートを削除することができます。ポートの名前を削除する場合は、「**Clear Name**」をクリックしてください。

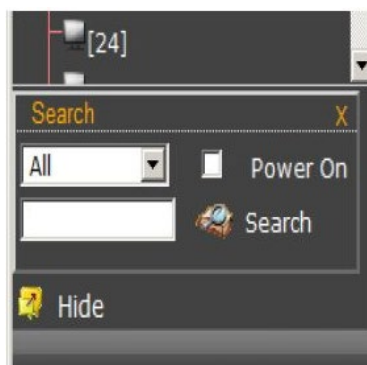
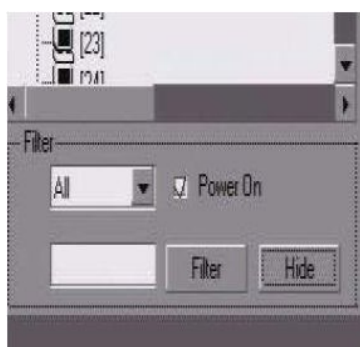
ブラウザ UI



開く

サイドバー下部にある「開く」をクリックすると、サイドバーツリーに表示されるポートの数や種類、また、オートスキャンモード(p.160 「オートスキャン」参照)が起動した際にスキャンの対象になるポートを管理することができる、インターフェースが表示されます。

コンソール UI/ブラウザ UI



リスト内の各項目の内容は下表のとおりです。

リスト項目	説明
All	これはデフォルトで表示されます。他のフィルターオプションが選択されていない場合、そのユーザーがアクセスできるすべてのポートが、サイドバーツリーに一覧表示されます。 お気に入り (p.132 参照) が登録されていると、「All」の代わりにこのお気に入りをリストから選択することができます。お気に入りを選択すると、お気に入りとして選択されたアイテムだけがツリーに表示されます。
電源オン	「電源オン」のチェックボックスにチェックを入れて有効にしていると、接続デバイスに電源が入っているポートだけツリーに表示されます。
検索	検索文字列を入力して「 検索 」ボタンをクリックすると、この検索文字列を含むポート名だけがツリーに表示されます。ワイルドカード (? および *) の使用が可能ですので、複数のポートを表示することができます。例えば、検索文字列として「 Web* 」を入力すると、「Web Server 1」というコンピューターと「Web Server 2」というコンピューターがリストに表示されます。
隠す	「 隠す 」をクリックすると「開く」ダイアログを終了します。

接続

「接続」画面には、デバイスレベルのポートステータス情報や、ポートレベルのポート接続設定オプションが表示されます。さらに「コンソール選択」タブは、1 つまたは複数のコンソールを特定のコンピューターに接続させるようマトリクスチャートを使用して選択する際に使用します。

デバイスレベル

サイドバーからマトリクス KVM スイッチが選択されると、「接続」画面のメインパネルには、このユーザーがアクセス・参照可能なデバイスのポート一覧が表示されます。

コンソール UI

Port List		Console Selector		
Port Number	Port Name	Status	KVM Adapter	Operation
[KMCHAIN]		-	KMCHAIN	
[18]	test1	On	KA7176	Connect
[20]	test2	On	KA9170	Connect
[21]	test3	On	KA7120	Connect
[28]	Serial port	On	KA7140	Connect

ブラウザ UI

Port List		Console Selector		
Port Number	Port Name	Status	KVM Adapter	Virtual Media
[18]	test1	On	KA7176	
[20]	test2	On	KA9170	
[21]	test3	On	KA7120	

表の各列とその内容は下表のとおりです。

列名	説明
ポート番号	KVM スイッチ 上におけるポートナンバーです。
ポート名前	ポートに名前が割り当てられている場合は、ここに表示されます。
ステータス	ポートの現在のステータス(オンラインまたはオフライン)を表します。 ◆ ポートがオンラインの場合は、「ON」と表示されます。 ◆ ポートがオフラインの場合、コンソール UI ではダッシュが表示され、ブラウザ UI では「OFF」と表示されます。
KVM Adapter	ポートに接続されているコンピューターモジュールの種類です(コンピューターモジュールの型番と使用方法については p.22 参照)。
オペレーション (コンソール UI のみ)	「 接続 」は、ポートが表示されている行をクリックすると、そのポートにアクセスできることを表します。
バーチャルメディア (ブラウザ UI のみ)	ポートに接続されているサーバーにおけるバーチャルメディアのステータスを表します。「 Mapped 」は、コンソールモジュールの USB ポートから、ポートに接続されているサーバーにマッピングされたことを表します。また、バーチャルメディアがアクティブでない場合、ダッシュが表示されます。マウントに関する詳細については p.128 「VM Mount」をご参照ください。

注意: 表示されたアイテムの並び順は、並べ替えの対象となる項目の列をクリックすることで変更できます。

ポートルレベル

ポートがサイドバーツリーで選択されている場合、「接続」画面には、そのポートの属性や接続オプションの表示に切り替わります。

コンソール UI



ポート属性:

この部分には参考情報が読取専用で表示されます。これらの属性は、「ポートアクセス」タブの「プロパティ」画面 (p.148 参照) で設定されます。

接続:

「接続」をクリックすると、そのポートに接続されたサーバーに切り替えます。

VM Mount:

「VM Mount」をクリックすると、コンソールモジュールの USB ポートに接続されたバーチャルメディアアデバイスを、このポートに接続されたサーバーにマッピングします。

注意: この機能はバーチャルメディアに対応するコンソールモジュール及びコンピューターモジュールを使用した際にのみ使用可能です。

ブラウザ UI

Port Attributes

Status

Port Name:	test2
KVM Adapter:	KA9170
Operation Mode:	Share
Port OS:	Win
OS Language:	English (US)

Associated Link

Power Supply Association:	@PN7320:14	 ☐ Reboot
	@PN7320:20	 ☐ Reboot
	@PN7320:17	 ☐ Reboot

ポート属性:

この部分には参考情報が読取専用で表示されます。これらの属性は、「ポートアクセス」タブの「プロパティ」画面 (p.148 参照) で設定されます。

関連付けリンク

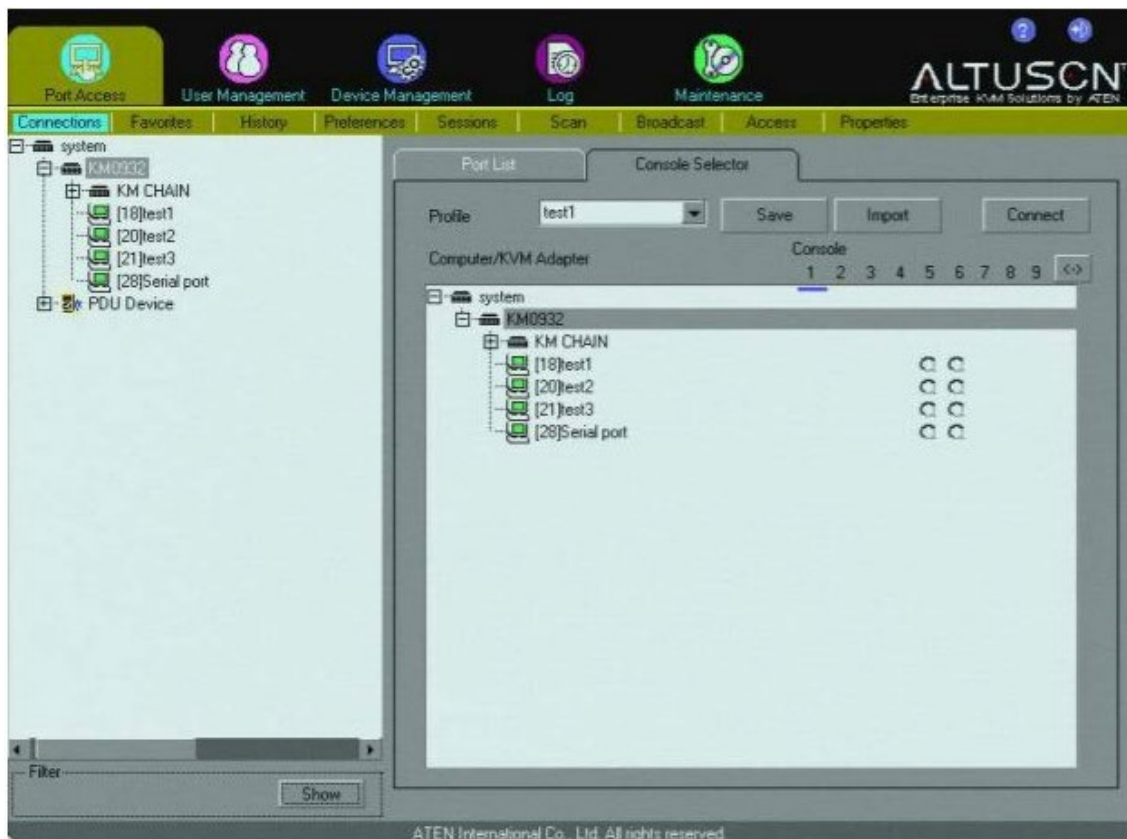
電源管理デバイス Power Over the NET™ PN0108 の電源アウトレットポートがこのポートに関連付けられていると (p.82 「関連付け」参照)、ソケットアイコンをクリックすることで、この画面から電源ステータスを操作することができます。

コンソールセレクトター

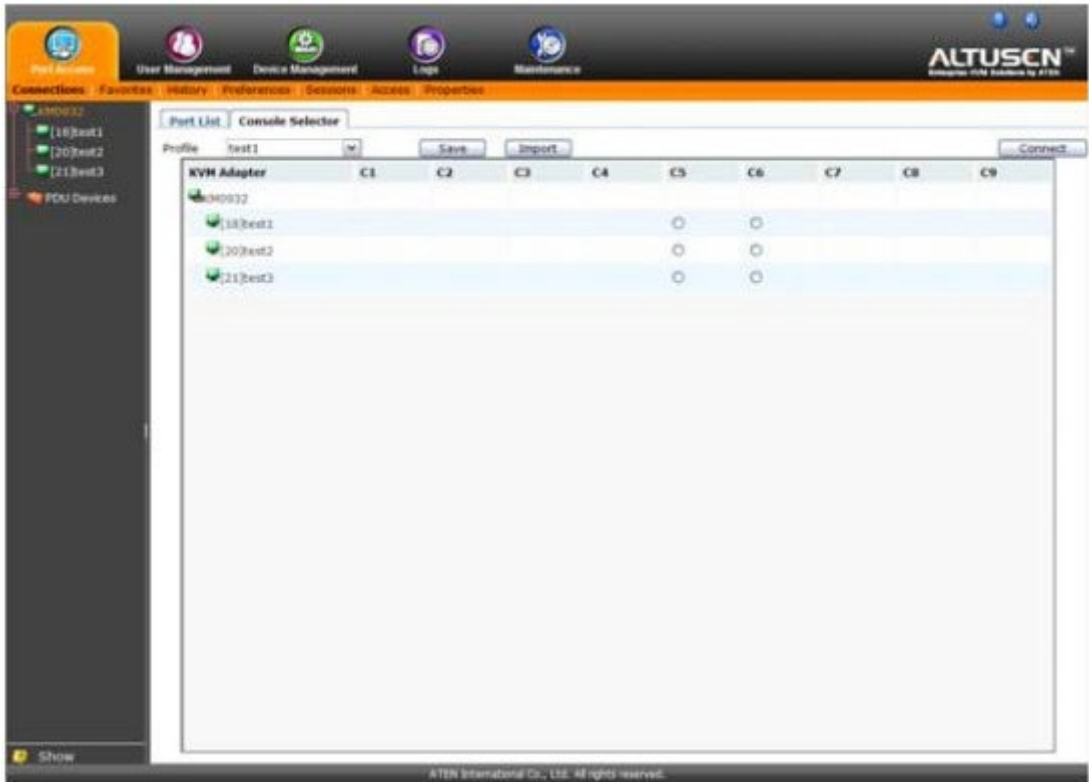
「コンソールセレクトター」タブでは、アドミニストレーターがグラフィックインデックスチャートを使用して、選択したポートに接続する複数のコンピューターを選択することができます。

「コンソールセレクトター」タブでは接続されたコンソールとポートをセレクトターボタンを使って相互参照インデックスに一覧表示します。コンソールを特定のポートに接続するには、コンピューター/KVM モジュールリストからポートを展開してハイライトさせ、接続したいコンソールを選択してから「接続」をクリックしてください。作業時間を短縮するには、プロフィールとして接続環境を構築し、保存することができます。以後プロフィールを呼び出して使用できるように 16 までの接続プロファイルが保存・インポートできます。

コンソール UI



ブラウザ UI



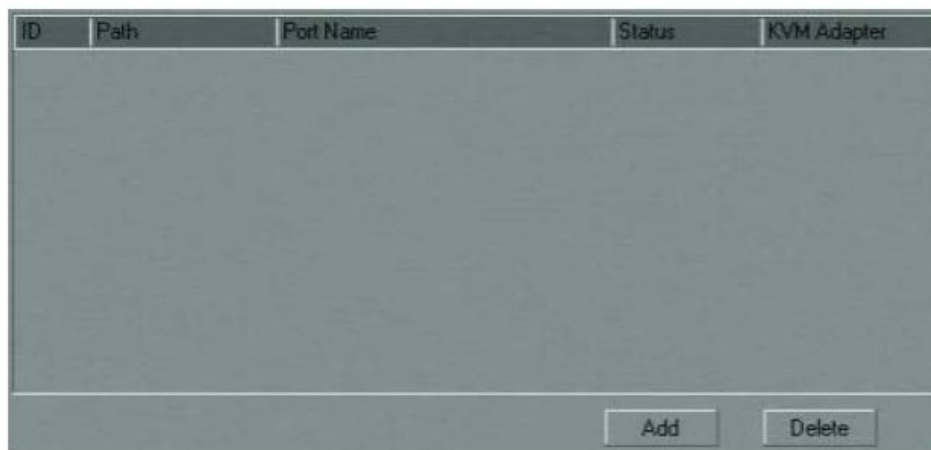
コンソールセレクターの各オプションに関する説明は下表の通りです。

設定	機能
Profile (プロフィール)	接続環境をインポートまたは保存するにはプルダウンボックスを使用してください。最大 16 までの事前に定義したプロフィールの保存 (「Save」)/呼び出し (「Import」) ができます。プロフィール名は変更することができます。
Save (保存)	画面に表示された現在の接続環境を保存するには、この「Save」ボタンを使用してください。
Import (インポート)	プロフィールプルダウンボックスから以前保存したプロフィールを選択し呼び出すにはこのボタンを押してから「Import」をクリックしてください。
Connect (接続)	コンソールを現在表示しているプロフィールと関連付けられているポートに接続するにはこのボタンを使用してください。

お気に入り

この「お気に入り」画面は、ブックマークのような機能を提供します。頻繁にアクセスするポートをここでリストに保存することができますので、サイドバーからポートをわざわざ探さなくても、この画面からポートを選択するだけで簡単にアクセスすることができます。さらに、スキャンモードでスキャンの対象となるポートをお気に入りに追加されたポートだけに限定することもできます (p.140 「Scan Mode」参照)。

コンソール UI



ブラウザ UI



お気に入りの登録

コンソール GUI：コンソール GUI でお気に入りを追加する場合は、サイドバーから目的のポートを選択し、パネル下部にある「**追加**」ボタンをクリックしてください。

ブラウザ GUI：ブラウザ GUI でお気に入りを追加する場合は、サイドバーから目的のポートを右クリックして、パネル下部にある「**お気に入りに追加**」ボタンをクリックしてください。

– または –

サイドバーからポートを選択して「**追加**」ボタンをクリックしてください。

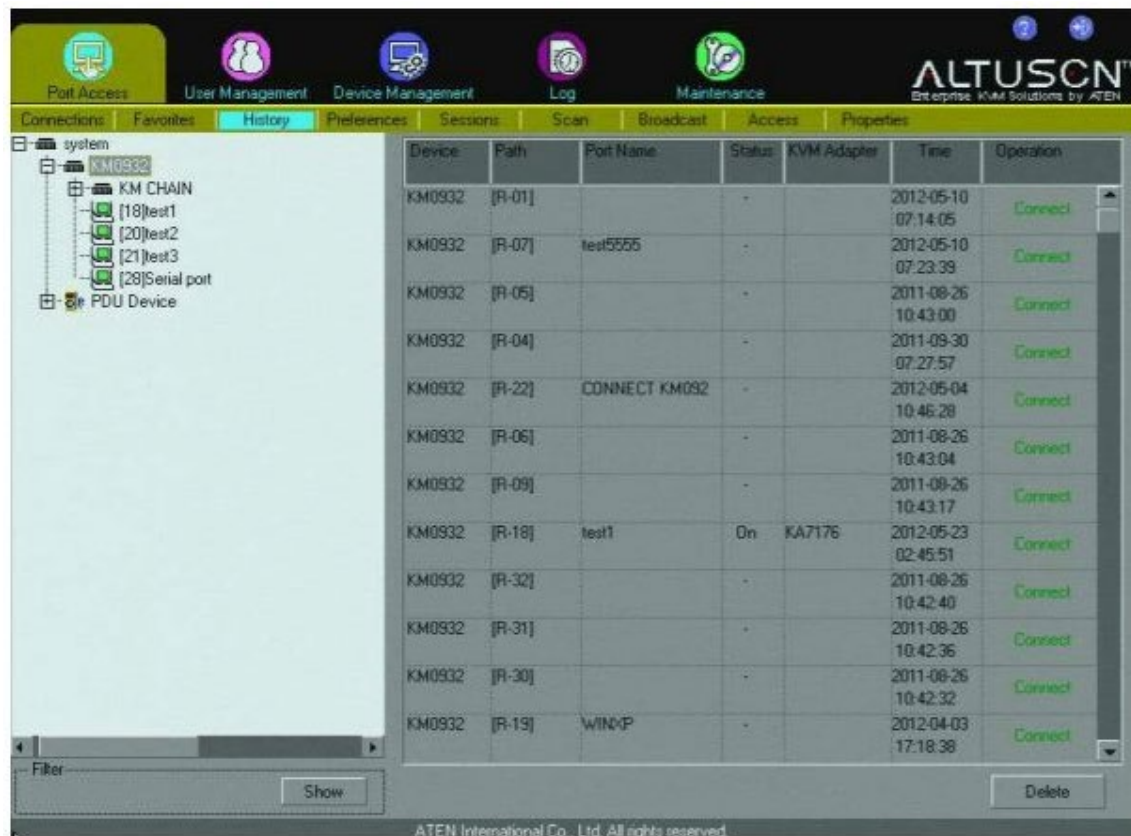
お気に入りの削除

お気に入りを削除する場合は、対象となるアイテムをメインパネルから選択して、メインパネル下部にある「**削除**」ボタンをクリックしてください。

履歴

製品内部で発生したイベントは、すべてログとして記録されます。「履歴」画面では、ログファイルの内容を表示します。

コンソール UI



ブラウザ UI

ALTUSON
Enterprise KVM Solutions by AT&T

Port Access User Management Device Management Logs Maintenance

Connections Favorites History Preferences Sessions Access Properties

KM0932
[18]test1
[20]test2
[21]test3
PDU Devices

History

Device	Port No	Port Name	Status	KVM Adapter	Time
KM0932	[R-17]		-		2012-05-10 15:14:24
KM0932	[R-16]		-		2011-08-26 18:43:45
KM0932	[R-15]		-		2011-08-26 18:43:40
KM0932	[R-14]		-		2011-08-26 18:43:36
KM0932	[R-13]		-		2011-08-26 18:43:32
KM0932	[R-12]		-		2012-05-10 15:14:00
KM0932	[R-11]		-		2011-08-26 18:43:24
KM0932	[R-10]		-		2011-08-26 18:43:21
KM0932	[R-08]		-		2012-05-10 15:15:50
KM0932	[R-03]		-		2012-05-10 15:12:20
KM0932	[R-02]		-		2011-09-13 12:22:57
KM0932	[R-29]		-		2011-08-26 18:42:28
KM0932	[R-08]		-		2011-08-26 18:42:25
KM0932	[R-27]		-		2011-08-26 18:42:21
KM0932	[R-26]		-		2011-08-26 18:42:16
KM0932	[R-25]		-		2011-08-26 18:42:12
KM0932	[R-24]		-		2011-08-26 18:42:08
KM0932	[R-23]		-		2011-08-26 18:42:04
KM0932	[R-19]	WXP	-		2012-04-04 01:10:38
KM0932	[R-30]		-		2011-08-26 18:42:32
KM0932	[R-31]		-		2011-08-26 18:42:36
KM0932	[R-32]		-		2011-08-26 18:42:40
KM0932	[R-09]		-		2011-08-26 18:43:17
KM0932	[R-06]		-		2011-08-26 18:43:04
KM0932	[R-22]	CONNECT KM0923	-		2012-05-04 18:46:28
KM0932	[R-04]		-		2011-09-30 15:27:57
KM0932	[R-05]		-		2011-08-26 18:43:00
KM0932	[R-07]	test555	-		2012-05-10 15:23:39
KM0932	[R-11]		-		2012-05-10 15:14:05

Show Username Goto Delete

©2012 AltusON Co., Ltd. All rights reserved.

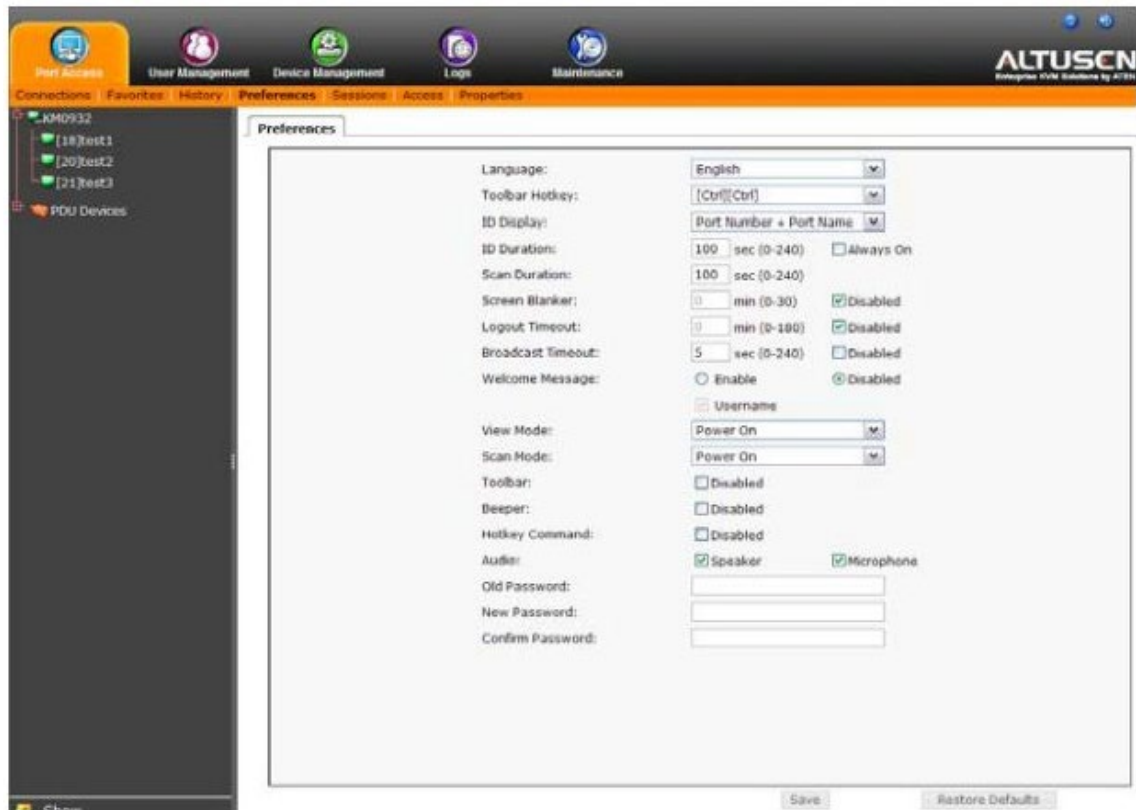
参照

「参照」画面では、ユーザー自身の個別作業環境を設定することができます。製品内部には、各ユーザーのプロフィール設定が個別に保存され、ログインの際に入力されたユーザーネームに基づいて、そのユーザーの作業環境を構築します。

コンソール UI



ブラウザ UI



ユーザー設定の変更

下表の内容に従って、設定変更を行ってください。

設定	機能
言語	インターフェースの表示言語を選択します。お使いの環境に適した言語をリストから選択してください。
ツールバーホットキー	ツールバーを呼び出すホットキーを[Scroll Lock] [Scroll Lock]キーまたは [Ctrl] [Ctrl]キー に設定します。 [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピューターの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトでは[Scroll Lock]キーに設定されています。
ID 表示	ポート ID 表示方法を選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 ポート番号 + ポートネーム:ポートナンバーとポートネーム ポート番号:ポート番号のみ ポートネーム:ポートネームのみ デフォルトでは、ポートナンバーとポートネーム(ポート番号 + ポートネーム)に設定されています。
ID 表示時間	ポート切替が行われた後、画面にポート ID を表示する時間を設定します。0～240 秒の値を設定するか、「常に ON」を有効にしてください。 注意: 0 を設定すると、「常に ON」にチェックを入れた時と同じように動作します。 デフォルトでは 3 秒間に設定されています。
スキャン間隔	オートスキャンモード(p.160 参照)で、各ポートに接続されたコンピューターの画面を表示する時間を設定します。1～240 秒までの数値を入力してください。 デフォルトでは 5 秒間に設定されています。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
スクリーンブランカー	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面はブランクになります。0～30 分の時間を入力してください。この機能を無効にする場合は「無効」の項目にチェックを入れてください。この項目にチェックを入れると、画面はブランクになりません。 注意:0 を設定すると、「無効」にチェックを入れた時と同じように動作します。 デフォルトでは「無効」に設定されています。
ログアウトタイムアウト	この機能で設定された一定の時間、コンソールからの入力がない場合、このコンソールを使用しているユーザーは自動的にログアウトさせられます。この時、コンソールを使用するには、再ログインが必要です。 タイムアウトの値を設定する場合は、0～180 分を入力してください。この機能を無効にする場合は「無効」の項目にチェックを入れてください。この項目にチェックを入れると、経過した時間にかかわらずユーザーが自動的にログアウトすることはありません。 注意:0 を設定すると、「無効」にチェックを入れた時と同じように動作します。 デフォルトでは「無効」に設定されています。
ブロードキャストタイムアウト	「ブロードキャスト」が有効になっている場合(p.145 参照)、ユーザーからの入力がないまま、ここで設定された時間が経過すると、ブロードキャスト機能は自動的に終了します。タイムアウトの値を設定する場合は、0～240 秒の値を入力してください。この機能を無効にする場合は「無効」の項目にチェックを入れてください。この項目にチェックを入れると、経過した時間にかかわらず、ブロードキャスト機能が自動的に終了することはありません。 注意:0 を設定すると、「無効」にチェックを入れた時と同じように動作します。 デフォルトでは「5 秒」に設定されています。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
Welcome Message (ブラウザ UI)	この項目が有効になっている場合、メニューバーの右側にウエルカムメッセージが表示されます。無効になっている場合は、ウエルカムメッセージは表示されません。この機能が有効になっている場合に、「ユーザーネーム」のチェックボックスにチェックを入れると、このユーザーの名前がウエルカムメッセージ内に表示されます。 デフォルトでは「無効」に設定されています。
View Mode	サイドバーに表示するポートを選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 アクセス可能 - ユーザーがアクセスを許可されたポートがすべて一覧表示されます。 電源オン - ユーザーがアクセスを許可されたポートで、かつ接続されたコンピューターに電源が入っているものだけが一覧表示されます。 デフォルトでは「電源オン」に設定されています。
Scan Mode	オートスキャンモード (p.160 参照) で、アクセスするコンピューターを選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 お気に入り - お気に入り (p.132 参照) として選択されたポートだけがスキャンされます。 アクセス可能 - ユーザーがアクセスを許可された全てのポートがスキャンされます。 電源オン - ユーザーがアクセスを許可されたポートで、かつ接続されたコンピューターに電源が入っているものだけがスキャンされます。 デフォルトでは「電源オン」に設定されています。
ツールバー	「無効」にチェックを入れると、ユーザーはポート接続時に[Scroll Lock] [Scroll Lock]または[Ctrl] [Ctrl]キーを入力するとコンソール UI に戻ることができます。これはツールバーホットキー機能を無効にします。
ビープ音	ビープ音が有効になっていると、ポート切替時、オートスキャン機能 (p.160 参照) の有効時、また、片方の電源にしかケーブルが接続されていない(ないしは、片方の電源スイッチしか ON になっていない)場合に、それぞれビープ音が出力されます。 デフォルトでは有効(「無効」の項目が未選択)に設定されています。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
ホットキーコマンド	「無効」の項目にチェックを入れると、ホットキー操作がコンピュータで動作中のプログラムと競合がある場合などに、GUI ホットキー機能を無効にします。
オーディオ	スピーカーやマイクを有効にする場合は、対象項目にチェックを入れてください。 ◆ 「スピーカー」の項目を有効にすると、製品本体のポートに接続されたサーバーからの音声、コンソールに接続されたスピーカーやクライアントコンピュータのブラウザから出力されるようになります。 ◆ 「マイク」の項目を有効にすると、コンソールからのマイク入力を製品本体のポートに接続されたサーバーに転送します。
パスワードの変更	ユーザーのパスワードは下記の手順で変更してください。 1. 「旧パスワード」欄に、現在のパスワードを入力してください。 2. 「新パスワード」欄に、新しいパスワードを入力してください。 3. 「パスワード確認」欄に、新しいパスワードと同じ文字列を入力してください。

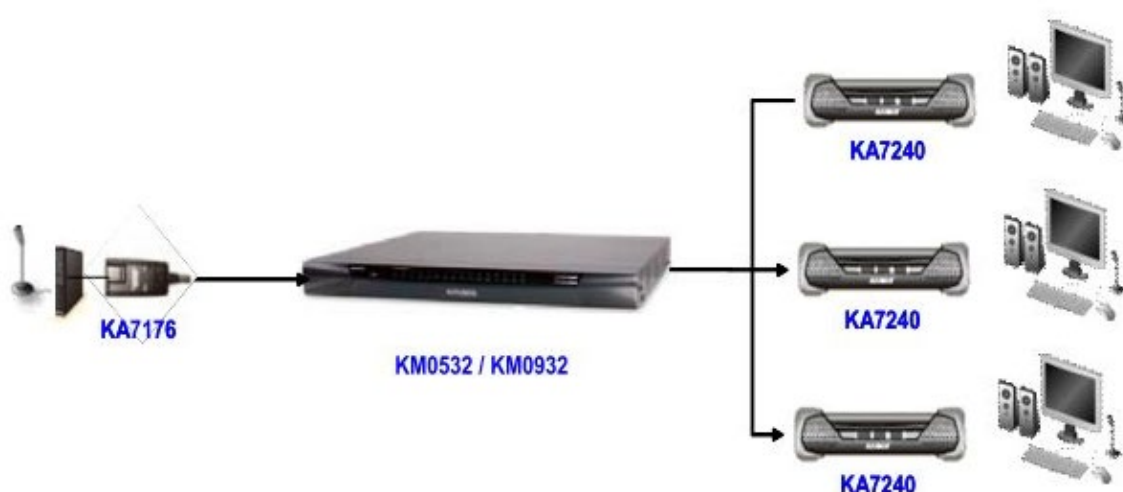
設定内容を変更したら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

マルチキャストオーディオ

マルチキャストオーディオ機能を使用すると、複数のユーザーが同じ KVM ポートにアクセスして、そこから再生されるオーディオを聞くことができます。つまり、1 つの KVM ポートからそれに接続された複数のコンソールモジュールへとオーディオを同時に一斉送信することができます。

マルチキャストオーディオ機能を有効にするには、「ポート選択」の「参照」ページ(p.136「参照」参照)にある「スピーカー/マイク」オプションにチェックを入れてください。また、次ページの図で示した必要なデバイスがセットアップに含まれているか確認してください。

図はマルチキャストオーディオ機能がどのような KVM 接続でも動作するのに必要なデバイスの機種を表しています。



必要機種は下表の通りです。

コンピューターモジュール	KVM スイッチ	コンソールモジュール
KA7176	KM0532/KM0932	KA7240

デフォルト値のリストア

「デフォルト値復元」をクリックすると、ユーザー設定で変更された内容がすべて取り消され、工場出荷時におけるデフォルト設定に戻ります。

セッション

管理者は、現在製品にログインしているすべてのユーザーと、これらのユーザーのセッションに関する情報を、この「セッション」画面で確認することができます。

コンソール UI

Select	Username	Service	Console/IP	Login Time	Last Access	User Type
☐	ADMINISTRATOR	OSD	910183/5	2012-05-23 06:19:48	2012-05-23 06:19:48	Super Administrator

Kill SessionRefresh

ブラウザ UI

Sessions

Select	Username	Service	Console/IP	Login Time	Last Access	User Type
☐	administrator	HTTPS		2012-05-21 14:52:59	2012-05-21 16:31:13	Super Administrator

Kill SessionRefresh

画面上部の項目名は、基本的にその項目名の通りですが、下記の項目名については補足事項があります。

- ◆ 「サービス」列には、ユーザーのログイン方法(ブラウザ接続(HTTPS)またはコンソール)が表示されます。
- ◆ 「コンソール/IP」列には、下記の内容が表示されます。
 - コンソール接続の場合：「コンソールの名前/接続コンソールのポートナンバー」の形式で表示されます。例えば、コンソールの名前が「Taipei」で、接続コンソールのポートナンバーが 1 である場合、「**Taipei/1**」と表示されます。
 - ブラウザ接続の場合：クライアントコンピューターの IP アドレスが表示されます。

セッションの強制終了

管理者は、ユーザーを選択して「**セッション終了**」ボタンをクリックすることで、このユーザーを強制的にログアウトさせることができます。「**再読み込み**」ボタンをクリックすると、選択された項目をすべてクリア(すべてのチェックボックスからチェックを外す)にします。

スキャン

このメニューをクリックすると、スキャンモードを開始します。詳細については、p.160 「オートスキャン」をご参照ください。

注意： スキャン機能は、コンソール UI でのみご利用いただけます。

ブロードキャスト

ブロードキャストが有効になっていると、コンソールから入力されたコマンドは、その機器構成におけるすべての利用可能なコンピューターにブロードキャストされます。

注意： 「ブロードキャスト」画面は、コンソール UI でのみご利用いただけます。

この機能は、システム全体でのシャットダウンや、ソフトウェアのインストール・アップデートといった作業を複数のコンピューターで実行する必要がある場合に特に有効です。

ブロードキャスト機能を有効にする場合は、「**有効**」ラジオボタンを選択して、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

- ◆ ブロードキャストモードが有効である場合、コンソールが選択されているポートのポート ID の前に**[b]**が表示されます。
- ◆ ブロードキャストモードが有効である場合、マウスは正常に機能しません。マウスを通常の操作に戻す場合は、ブロードキャストモードを終了する必要があります。

ブロードキャストモードを終了する場合は、ホットキーを使って GUI を起動し、メニューバーで「ブロードキャスト」を選択後、「無効」ラジオボタンを選択して、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

アクセス

「アクセス」画面では、ユーザーやグループのアクセス権限をポート単位で設定します。

コンソール UI

User Access

Group Access

	Not Assigned	No Access	View Only	Full Access	Virtual Media
Users					
@#\$%^	☒	☐	☐	☐	
cindy	☐	☐	☐	☒	☒
cindy1	☒	☐	☐	☐	
kurt-user	☐	☐	☐	☒	☐
maxwell	☐	☐	☐	☒	☐
Non-Auth	☐	☐	☐	☒	☐

Save

ブラウザ UI

User Access

Group Access

Users	Not Assigned	No Access	View Only	Full Access	Virtual Media
@#\$%^	☒	☐	☐	☐	☐
cindy	☐	☐	☐	☒	☒
cindy1	☒	☐	☐	☐	☐
kurt-user	☐	☐	☐	☒	☐
Non-Auth	☐	☐	☐	☒	☐

Save

ユーザーとグループは別々の画面に一覧表示されます。画面を切り替える場合は、パネル上部にある目的のタブをクリックしてください。

ポートに対してユーザーのアクセス権限を設定する場合は、サイドバーツリーでポートを選択してから、このユーザーの行にある、設定権限に対応したラジオボタンを選択してください。

注意: 設定権限は、電源が入っているポートに対してのみ割り当てが可能です。

アクセスカテゴリの内容は下表のとおりです。

項目	説明
Not Assigned	ユーザーに対して操作権限が具体的に設定されていませんが、ユーザーが、デバイスへの操作権限を持っているグループに属している場合、このポートはユーザーのサイドバーツリーに表示され、ユーザーは、グループに設定されている操作権限に従って、デバイスにアクセスすることができます。
No Access	アクセス権限がありません。ユーザーには、ポートに接続されたサーバーの参照権限も操作権限もありません。ポートはユーザーのサイドバーにも、メインパネルの一覧にも表示されません。 この設定の場合、デバイスの操作権限を持っているグループに属していたとしても、ユーザーはサイドバーや一覧でデバイスを確認することはできず、これらのデバイスにアクセスすることもできません。
View Only	ユーザーはリモートサーバーの画面の参照だけはできますが、リモートサーバーの操作を行うことはできません。
Full Access	ユーザーはリモートサーバーの画面を参照することができ、このサーバーに対して自分のキーボードやモニターを使って操作をすることができます。
バーチャルメディア	「Full Access」が選択されている場合、バーチャルメディア関連のカテゴリが有効になり、選択チェックボックスが表示されます。ポートに接続されているサーバーのコンソールモジュールの USB ポートに接続されているバーチャルメディアのデバイスをユーザーがマウントするのを許可するには、コンソールの場合は「×」を、ブラウザの場合はチェックをそれぞれ追加してください(詳細については p.128 「VM Mount」参照)。

アクセス設定が完了したら、メインパネル下部にある「**保存**」ボタンをクリックしてください。

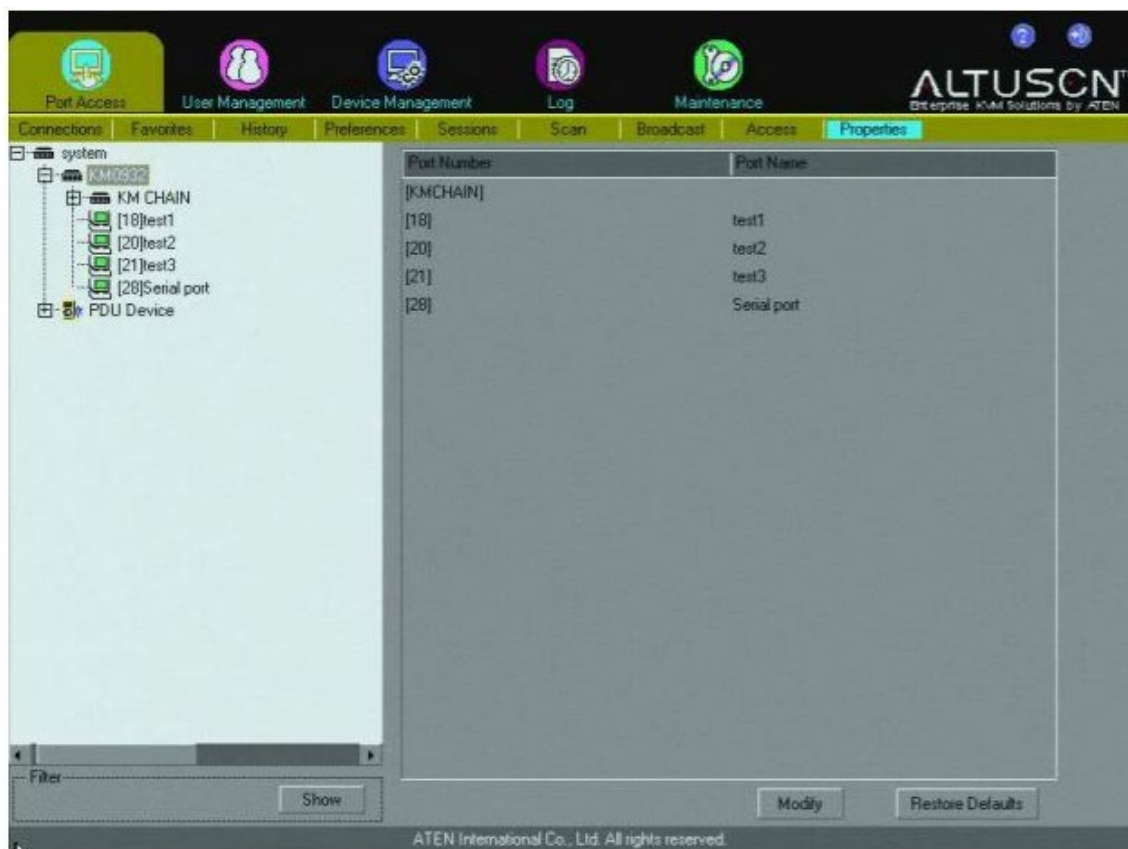
プロパティ

ポートプロパティの設定

ポートプロパティを設定する場合は、ポートプロパティ設定画面に遷移し、下記の手順に従って操作してください。

1. 「ポートアクセス」タブで、「**プロパティ**」メニューを選択してください。
2. サイドバーで目的のポートをクリックしてください。
 - または -メインパネルで目的のポートを選択し、「**編集**」ボタンをクリックしてください。

コンソール UI: ポート設定リスト



ブラウザ UI: ポート設定リスト

The screenshot displays the AltusON web interface. The top navigation bar includes icons for 'Host Access', 'User Management', 'Device Management', 'Logs', and 'Maintenance'. Below this, a secondary bar contains tabs for 'Connections', 'Favorites', 'History', 'Preferences', 'Sessions', 'Access', and 'Properties'. The left sidebar shows a tree view with 'AD90932' expanded, containing '[18]test1', '[20]test2', and '[21]test3', along with a 'PDU Devices' icon. The main content area is titled 'Port Setting List' and contains a table with the following data:

Port Number	Port Name	Status	KVM Adapter	Properties
[18]	test1	On	KA7176	English (US)/Win
[20]	test2	On	KA9170	English (US)/Win
[21]	test3	On	KA7120	English (US)/Win

At the bottom right of the table area, there are two buttons: 'Modify' and 'Restore Defaults'.

コンソール UI:ポートプロパティ

Properties

Port Name:	test2
OS Language:	English (US)
Port OS:	Win
Operation Mode:	Occupy
Occupy Timeout:	0 Sec (1-240)

Save

ブラウザ UI:ポートプロパティ

Properties

Port Name:	test3
OS Language:	English (US)
Port OS:	Win
Operation Mode:	Occupy
Occupy Timeout:	0 sec

Save

設定項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
ポートネーム	多数の KVM スイッチを導入している大規模なシステム構成で特に便利に使えるように、各スイッチ、ポートにはそれぞれ名前を設定することができます。新規に設定する場合はポートの名前を入力してください。また、既に名前が設定されている場合は、この名前を変更または削除してください。名前は半角英数字および記号を使って、15 文字以内で設定してください。
OS 言語	接続ポートのサーバーで使われている OS 言語を設定します。お使いの環境に適した言語をリストから選択してください、デフォルトでは「英語(アメリカ)」に設定されています。
ポート OS	接続ポートのサーバーで使われている OS を設定します。設定できる内容は、Win、Mac、Sun、その他です。デフォルトでは「Win」に設定されています。
操作モード	複数ユーザーがログインした際に、ポートにどのような方法でアクセスするかを定義します。 Exclusive: 最初にポートにアクセスしたユーザーが、そのポートに対して排他的に制御することができます。他のユーザーはそのポートを参照することができません。この内容で設定されているポートには、「Occupy タイムアウト」機能は適用されません(下記「Occupy タイムアウト」参照)。 Occupy: 最初にポートにアクセスしたユーザーが、そのポートに対して操作することができますが、他のユーザーもこのポートのビデオ出力を参照することができます。このポートを操作しているユーザーが非アクティブ状態のまま「Occupy タイムアウト」で設定された時間が経過すると、次にマウスやキーボードの操作を行ったユーザーがポートを操作できるようになります。 Share: ユーザー間でポート操作を同時に共有します。ユーザーからの入力はキューに格納され、順番に実行されます。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Occupy タイムアウト	この欄には、アクセスモードが「Occupy」(上記の「操作モード」参照)に設定されているポートのしきい値の時間を設定します。ポートを占有しているユーザーが何も操作をしないまま、ここで設定された時間が経過すると、ユーザーはタイムアウトになり、ポートが解放されます。ポートが解放されてから最初にキーボードやマウスの入力を行ったユーザーが、そのポートを占有できるようになります。 この項目は 1～240 秒の値を設定してください。デフォルトでは 3 秒に設定されています。

設定が完了したら、メインパネル下部にある「**保存**」ボタンをクリックして、「プロパティ」のメイン画面に遷移してください。

KA7140 プロパティ

KM0032/KM0532/KM0932 にシリアルデバイスを接続する際にコンピューターモジュール KA7140 を使用している場合、通常パラメーターに加え、シリアルパラメーターも設定する必要があります。KA7140 の設定を行い、接続デバイスと通信するには、下記の方法で、この KA7140 側とデバイス側でシリアルパラメーターを一致させる必要があります。

1. 「ポートアクセス」タブのサイドバーで、KA7140 が接続されているポートを選択してください。
2. メニューバーから「プロパティ」を選択してください。
3. メインパネルから「KA7140」を選択し、画面下部にある「編集」ボタンをクリックしてください。下図のような KA7140 の「プロパティ」画面が表示されます。

コンソール UI

The screenshot shows a 'Properties' dialog box with the following settings:

Property	Value
Port Name:	Serial port
Operation Mode:	Share
Baud Rate:	9600
Parity:	None
Data Bits:	8 Bits
Stop Bits:	1 Bit
Flow Control:	None

A 'Save' button is located at the bottom right of the dialog.

ブラウザ UI

The screenshot shows a 'Properties' dialog box with the following settings:

Property	Value
Port Name:	Serial port
Operation Mode:	Share
Baud Rate:	9600
Parity:	None
Data Bits:	8 bits
Stop Bits:	1 bit
Flow Control:	None

A 'Save' button is located at the bottom right of the dialog.

4. 接続シリアルコンソールデバイスで使用されているプロパティに合ったものを、シリアルパラメーターのリストから選択してください。

KA7140 がサポートするポートプロパティの設定は、下表のとおりです。

設定	機能
Bits per second (Baud Rate) (ボーレート)	ここでは、ポートのデータ転送速度を設定します。ドロップダウンから最小 300、最大 57600 の値を選択することができます。シリアルコンソールデバイスのボーレートの設定に合うように、この値を設定してください。デフォルトでは 9600(大半のシリアルコンソールデバイスの基本設定の値)に設定されています。
Data Bits (データビット)	データの 1 文字送信する際に使用するビット数を設定します。7 または 8 が設定できます。シリアルコンソールデバイスのデータビットの設定に合うように、この値を設定してください。デフォルトでは 8(大半のシリアルコンソールデバイスのデフォルト値)に設定されています。
Parity (パリティ)	このビットは、転送データの整合性をチェックするのに使用されます。設定できる値は、「None」、「Odd」、「Even」です。シリアルコンソールデバイスのパリティの設定に合うように、この値を設定してください。デフォルトでは「Odd」に設定されています。
Stop Bits (ストップビット)	これは、文字が転送されたことを表すものです。シリアルコンソールデバイスのストップビットの設定に合うように、この値を設定してください。設定できる値は、1 または 2 です。デフォルトでは 1(大半のシリアルコンソールデバイスのデフォルト値)に設定されています。
Flow Control (フロー制御)	データフローの制御方法を選択することができます。設定できる値は、「None」、「Hardware」、「XON/XOFF」です。シリアルコンソールデバイスのフロー制御の設定に合うように、この値を設定してください。デフォルトでは「None」に設定されています。 注意: 「None」は 9600 以下のボーレートにしか対応していません。9600 を超えるボーレートの場合は、「Hardware」または「XON/XOFF」を選択してください。
Access Mode	シリアルコンソールデバイスのアクセスモードを設定することができます。設定できる値は、「Share」、「Occupy」、「Exclusive」です。デフォルトでは「Share」に設定されています。この機能に関する詳細は、p.151 「操作モード」をご参照ください。

5. 項目を選択し終わったら、「保存」ボタンをクリックしてください。

デフォルト値のリストア

「プロパティ」メイン画面で「デフォルト値復元」ボタンをクリックすると、全ポートのプロパティをデフォルト設定に戻します。

PON

お使いの KM0032/KM0532/KM0932 に、電源管理デバイス Power Over the NET™を併用している場合、PON メニューをクリックすると、Java アプレットビューワーが起動します。ユーザーはこのビューワーを使って、KM0032/KM0532/KM0932 に接続された電源管理サーバーをリモート操作することができます(p.82「関連付け」参照)。

-
- 注意:**
1. 「PON」は、ブラウザ UI バージョンでのみご利用いただけます。
 2. PON インターフェースとの連携は、Java アプレットビューワーを介して行われますので、クライアントコンピューター(マトリックス KVM スイッチへのログインに使用しているコンピューター)には、最新の Oracle Java Runtime Environment(JRE)をインストールしてください。
 3. PONビューワーは、現在のブラウザセッションだけで使用することができます。ログアウトするとアプレットは停止しますので、次にログインする際にはこのアプレットを再度ダウンロードし、実行する必要があります。
-

Java アプレットをダウンロード・実行すると、PON のログイン画面が表示されます。電源管理操作については、お使いの電源管理デバイスのユーザーマニュアルをご参照ください。

注意: 電源管理デバイスに関する最新の情報は、弊社 Web サイトにてご確認ください。

第9章

コンソールからのポート操作

概要

ログイン(p.56 参照)に成功すると、コンソール画面には「ポートアクセス」タブの「接続」メニューが表示されます。



注意: ポート操作は、コンソール UI からのみ操作可能です。ブラウザ UI は設定にしか使えません。

ユーザーがアクセスを許可されたポートはすべて、画面左側にあるサイドバーのツリーに表示されます。ポートに接続されているデバイスにアクセスするには、このアイコンをダブルクリックするか、メインパネルにある対象ポートの「**接続**」リンクをクリックしてください。

ポートを切り替えると、そのコンピューターの画面がお使いのモニターに表示され、キーボードやマウスからの入力はリモートシステムに対して有効になります。ポートに接続されたデバイスを、実機の前で直接操作しているときと同様の感覚で操作することができます。

ポートツールバー

製品のインターフェースには、ポートの選択後にもポート切替操作ができるツールバーが提供されています。このツールバーを起動する場合は、ツールバーホットキー([Scroll Lock]キー、または[Ctrl]キー)を2回連続して押してください。画面左上に下図のようなツールバーが表示されます。



「ID 表示」(p.138 参照)で選択された設定に応じて、ツールバーの右にポートナンバーやポートネームが表示されます。ツールバーの各アイコンの機能は、p.159 に記載されています。

ツールバーが表示されると、マウスの入力ツールバーの領域に限定され、キーボードの入力はポートに接続されたコンピュータに対して無効になります。コンピュータの操作を行いたい場合は、このツールバーを閉じてください。

注意: 「ツールバーを無効にする」機能が有効となっている場合、ツールバーホットキーが使用された時に画面にツールバーが表示されず、ユーザーはすぐに GUI に戻ることができます (p.140 「ツールバー」参照)。

ポートアクセス画面の再呼出

ポートへの接続を切断し、「ポートアクセス」画面に戻る場合は、下記に従って操作してください。

「ポートアクセス」画面に戻るツールバーのアイコン (p.159 参照) をクリックしてください。

- または -

ツールバーホットキー([Scroll Lock]キー、または[Ctrl]キー)を1回押してください。

ツールバーの終了

ツールバーを閉じる場合は、下記に従って操作してください。

ツールバーの「X」アイコンをクリックしてください。

- または -

「ポートアクセス」画面を呼び出してポートを再選択してください。

ツールバーのアイコン

ツールバーの各アイコンの機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	サイドバーツリーにおける、現在のステーションの前のステーションに切り替えます。
	サイドバーツリーにおける、現在のステーションの次のステーションに切り替えます。
	サイドバーツリーにおける、最初のポートに切り替えます。
	サイドバーツリーにおける、現在のポートの前のポートに切り替えます。
	オートスキャンモードを開始します。マトリックス KVM スイッチは、「ポート選択」と「開く」機能(p.125 参照)でオートスキャンの対象として選択されたポートを自動的に切り替えます。この機能によって、ポートを手動で一つ一つ切り替えなくても、コンピューターの画面を自動的に切り替えて監視することができます。
	サイドバーツリーにおける、現在のポートの次のポートに切り替えます。
	サイドバーツリーにおける、最後のポートに切り替えます。
	「ポートアクセス」画面を呼び出します。
	ツールバーを透過または非透過に切り替えます。
	ツールバーを終了します。
	マトリックス KVM スイッチからログアウトします。

ツールバーホットキーによるポート切替

ツールバーの表示中は、ポート操作をホットキーでキーボードから直接切り替えることができます。マトリックス KVM スイッチのホットキーには下記の特長があります。

- ◆ オートスキャン
- ◆ スキップモードによる切替
- ◆ ポートナンバーによる切替
- ◆ 画像のプッシュ型配信

ホットキーの機能については、後のセクションに記載します。

-
- 注意:**
1. ホットキーを実行できるようにするために、ツールバーを見える状態にしておいてください(p.159 「ツールバーのアイコン」参照)。
 2. ホットキーとして割り当てられているキー(例:A、P 等)を、ホットキーとしてではなく通常の入力で使用したい場合は、ツールバーを先に終了しておいてください。
-

オートスキャン

スキャン機能を使うと、現在ログインしているユーザーがアクセスできるすべてのポートを対象にして、一定の時間間隔で自動的に切替を行い、ユーザーが自動的にコンピューターを監視できるようになります。また、ユーザーはサイドバーツリーの「開く」機能を使ってスキャンされるポートの数を制限することもできます。詳細については、p.125「開く」をご参照ください。

オートスキャンで各ポートを表示する時間は、「スキャン間隔」(p.138 参照)の項目で設定されますが、ホットキー(p.164 参照)で簡単に変更することができます。

オートスキャンを始める場合は、ツールバーが表示されている状態で、**[A]**キーを押してください。オートスキャン機能(オートスキャンモード)は、サイドバーにおける最初のポートから順にポート切替を行います。また、ポート ID の前には「**S**」マークが表示され、ポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを表します。

- ◆ オートスキャンモードの実行中に**[P]**キーを押して、特定のサーバーでスキャンを一時停止することができます。オートスキャンが一時停止している間は、ポート ID の前にある「**S**」マークが点滅します。

- ◆ あるサーバーを表示したままにしたい場合には、スキャンを終了するより、一時停止する方が便利です。というのは、スキャンの一時停止後に再開した場合は、スキャンを一時停止したポートから再開するのに対し、オートスキャンモードを終了してから再開した場合は、サイドバーツリーの最初のポートからスキャンを始めることになるからです。
- ◆ スキャンの一時停止後に再開する場合は、[Esc]キーまたはスペースキー以外の任意のキーを押してください。スキャンが一時停止したところから再開します。
- ◆ オートスキャンモードが有効である場合、通常のキーボードの機能は一時停止されます。キーボードを通常使用するためには、オートスキャンモードを終了しなければなりません。オートスキャンモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。オートスキャンモードを終了すると、オートスキャンが止まります。

スキップモードによる切替

スキップモードを使うと、コンピューターを手動で切り替えて監視することができます。オートスキャンが一定の時間間隔で自動的にポートを切り替えるのに対し、このスキップモードでは、時間を気にすることなく、特定のポートを表示させておくことができます。スキップモードではホットキーとしてカーソルキーを使用します。各キーが提供する機能は下表のとおりです。

カーソルキー	機能
←	現在のポートから、サイドバーツリーの前のポートに移動します。
→	現在のポートから、サイドバーツリーの次のポートに移動します。
↑	現在のポートから、サイドバーツリーの最初のポートに移動します。
↓	現在のポートから、サイドバーツリーの最後のポートに移動します。

ポートナンバーを使った切替

ポートナンバーを使ってポートのホットキー切替を行う場合は、下記の手順で操作を行ってください。

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-]キーを押して指を離してください。
3. [Num Lock]キーから指を離してください。
以降、このキー操作は [Num Lock] + [-] と表記します。
4. 切替対象となるポートのポートナンバー(例:09)を入力してください。
5. [Enter]キーを押してください。

キーボードホットキーによるポート切替

ツールバーが起動していないときには、ホットキーを使ったポート切替も可能ですが、この機能を使うためには、まず下記の手順でホットキーモードを起動する必要があります。

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
 2. [-]キーを押して指を離してください。
 3. [Num Lock]キーから指を離してください。
- 以降、このキー操作は [Num Lock] + [-] と表記します。

注意: [-]キーを押したら 0.5 秒以内に指を離してください。キーを押す時間がこれより長くなると、ホットキーの起動は自動的に取り消されます。

ホットキーモードがアクティブである場合、製品には下記の動作が見られます。

- ◆ 通常のキーボード・マウスの機能は一時停止され、ホットキーの機能が割り当てられているキー入力(後のセクションで説明)のみが入力できます。
- ◆ [Esc]キーを押すとホットキーモードを終了します。

ポート ID の割り当て

KM0032/KM0532/KM0932 に接続された各コンピューターには、この構成における位置を反映した、固有のポート ID が割り当てられます。以下、その例です。

- ◆ 1 段階目の KM0532/KM0932 の 15 番目の KVM ポートに接続されたコンピューターには、「15」というポート ID が割り当てられます。
- ◆ 1 段階目の KM0532/KM0932 の 15 番目の KVM ポートからカスケード接続された KVM スイッチの 4 番目の KVM ポートに接続されたコンピューターには、「15 04」というポート ID が割り当てられます。(ポートナンバーが 1 桁の場合は、先頭に 0 詰めされます。)
- ◆ デイジーチェーン接続の構成における 7 台目のステーションにある 9 番目の KVM ポートに接続されたコンピューターには、「C7 09」というポート ID が割り当てられます。

ホットキーによる画像のプッシュ型配信

画像のプッシュ型配信機能を使用すると、「Share」または「Occupy」モードで参照または操作するためにユーザーはコンソールのポート接続を他のコンソールへプッシュすることができます。そうするには、ホットキーモード (p.162 「キーボードホットキーによるポート切替」参照) を起動してから[P] に続いてご使用の画像をプッシュしたいコンソール番号を入力してください。例えばご使用のコンソールポート接続をコンソール番号 5 へプッシュしたい場合は[P][5]と入力してください。

操作モード

画像のプッシュ型配信機能を使用するには、各ポートの操作モードが「Share」または「Occupy」に設定されていなければなりません。ポートが「Exclusive」に設定されていると、そのポートに最初に接続したユーザーだけがそれを参照して操作することができるので、画像のプッシュ型配信機能は他のユーザーの接続を許可しません。各ポートの操作モードは「プロパティ」画面にある「ポートアクセス」タブで設定することができます (p.148 「ポートプロパティの設定」参照)。

複数のユーザーが画像のプッシュ型配信機能を使用してログインを試みる際にどのようにポートがアクセスされるかを下記に説明します。

Exclusive: 最初にポートにアクセスしたユーザーが、そのポートに対して排他的に制御することができます。他のユーザーはそのポートを参照することができません。この内容で設定されているポートには、「Occupy タイムアウト」機能は適用されません。

Occupy: 最初にポートにアクセスしたユーザーが、そのポートに対して操作することができますが、他のユーザーもこのポートのビデオ出力を参照することができます。このポートを操作しているユーザーが非アクティブ状態のまま「Occupy タイムアウト」で設定された時間が経過すると、次にマウスやキーボードの操作を行ったユーザーがポートを操作できるようになります。

Share: ユーザー間でポート操作を同時に共有します。ユーザーからの入力キューに格納され、順番に実行されます。

ホットキー一覧表

下表は、KM0032/KM0532/KM0932 のホットキー操作一覧です。

起動	ホットキー	アクション
[Num Lock] + [-]	[ポート ID][Enter]	指定したポート ID のコンピューターにアクセスを切り替えます。
	[T][n][Enter]	オートスキャン時のスキャンインターバルを n 秒に設定します。n には 1～255 の値を入力してください。
	[A]	オートスキャンモードを実行します。 オートスキャンモードを実行中に[P]キーを押すかマウスで左クリックをすると、オートスキャンを一時停止します。 オートスキャンが一時停止している際に任意のキーを押すか、マウスでもう一度左クリックをすると、オートスキャンを再開します。
	[←]	スキップモードを起動し、現在のポートから、一つ前のアクセス可能なポートに移動します。
	[→]	スキップモードを起動し、現在のポートから、一つ後ろのアクセス可能なポートに移動します。
	[↑]	スキップモードを起動し、現在のポートから、一つ前のステーションで最後にアクセス可能なポートに移動します。
	[↓]	スキップモードを起動し、現在のポートから、一つ後ろのステーションで最初にアクセス可能なポートに移動します。
	[B]	ビープ音を ON または OFF に切り替えます。
	[-]	操作を、ユーザーのコンピューター(コンソールモジュールのローカルコンピューターポートに接続)、または KM0532/KM0932 を交互に切り替えます。
	[P] [コンソール ID] [Enter]	ポートのアクセスを共有するために現在のコンソールの画像を入力したコンソール ID へプッシュします。

注意: オートスキャンやスキップモードを終了する際には、[Esc]キーを押してください。

第 10 章

ログ

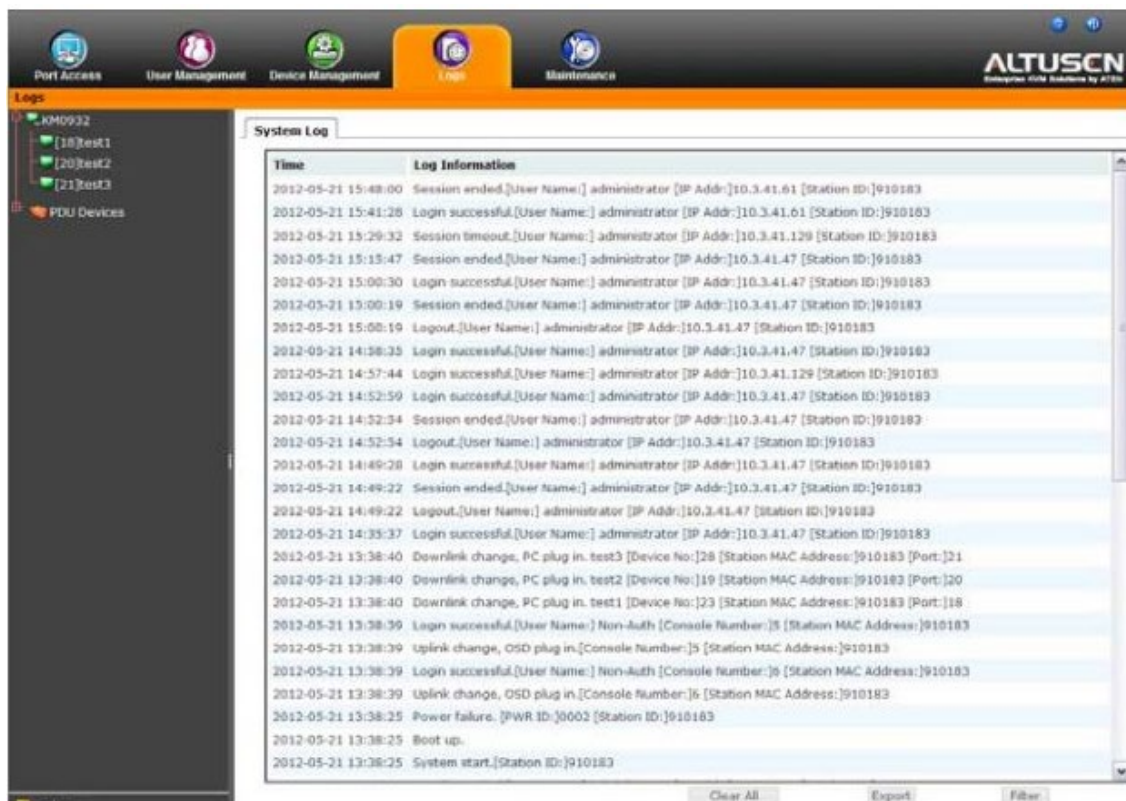
概要

製品内部で発生したイベントはすべてログとして記録されます。このログで記録できるイベントの数は最大 512 です。ログの数がこの最大数に達すると、一番古いイベントから順番に削除され、新しいイベントが追加されます。ログの内容を確認する場合は、「ログ」アイコンをクリックしてください。このアイコンをクリックすると、下図のような画面が表示されます。

コンソール UI



ブラウザ UI

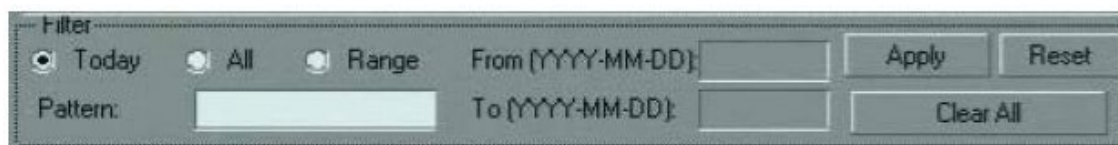


コンソール UI

ログファイルに記録されたイベントの一覧はメインパネルに表示されます。表の左の列にはイベント発生時刻が、右の列にはその時刻に発生したイベントの内容がそれぞれ表示されます。この一覧の内容を消去する場合は、「フィルター」パネル右下にある「**全てクリア**」ボタンをクリックしてください。

ログのフィルタリング

画面下部にある「フィルター」パネルを使うと、ログファイルから特定の言葉や文字列を含むイベントを抽出します。



各項目の内容は下表のとおりです。

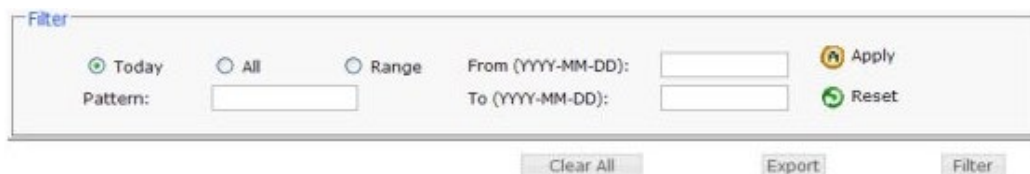
アイテム	説明
今日	操作している当日に発生したレコードだけを表示したい場合は、このラジオボタンを選択してください。
All	ログファイル内の全レコードを表示したい場合は、このラジオボタンを選択してください。
レンジ	特定の期間におけるレコードを表示したい場合は、このラジオボタンを選択し、期間の始点となる日付を「From」欄に、終点となる日付を「To」欄に、それぞれ「YYYY-MM-DD」のフォーマットで入力してください。
パターン	検索に使用する文字列をこの欄に入力してください。
適用	検索を開始する場合は、このボタンをクリックしてください。検索結果はメインパネルに表示されます。 注意: 検索されたデータは「ログ情報」列のデータのみです。
リセット	検索条件の項目を消去し、フィルタリングする前のログをメインパネルに表示する場合は、このボタンをクリックしてください。

ブラウザ UI

コンソール画面のように、ログファイルに記録されたイベントはメインパネルに表示されます。表の左の列にはイベント発生時刻が、右の列にはその時刻に発生したイベントの内容がそれぞれ表示されます。この一覧の内容を消去する場合は、「**全てクリア**」ボタンをクリックしてください。

ログのフィルタリング

ブラウザ UI でも、コンソール UI と同様のログフィルタリング機能を提供しています。「フィルター」ボタンをクリックすると、「フィルター」パネルが表示されます。



- ◆ ブラウザ UI でのフィルターパネルは、コンソール UI のものと同じです。コンソール UI のフィルターの詳しい使い方については、p.165 の内容をご確認ください。
- ◆ このパネルを非表示にする場合は、もう一度「フィルター」ボタンをクリックしてください。

エクスポート

エクスポート機能を使うと、ログファイルの内容を簡単に確認することができます。「Export」ボタンをクリックすると、このログファイルを Excel で開く(Windows の場合)か、データを CSV 形式のファイルに保存する(Windows やその他のプラットフォームの場合)かの選択を促す、下図のようなダイアログが表示されます。



CSV 形式のファイルは、Excel や Open Office Calc といった、標準的な表計算ソフトで開くことができます。

第 11 章

ログサーバー

Windows ベースのログサーバーは選択したマトリックス KVM スイッチで発生したイベント全てを記録し、検索可能なデータベースに書き込んでいく管理用ユーティリティです。本章では、ログサーバーのインストール方法と設定について説明します。

インストール

1. KM0032/KM0532/KM0932 にログインしてください。
2. 「Download」(ダウンロード) タブをクリックしてログサーバーAP プログラムをダウンロードしてください。
3. ログサーバーファイルをダウンロードしたハードディスクの位置へ行き、そのアイコン (LogSetup.exe) をダブルクリックして、Windows 接続画面を起動してください。

注意: ブラウザがファイルを実行できない場合、代わりにそれをディスクに保存してディスクからファイルを実行してください。

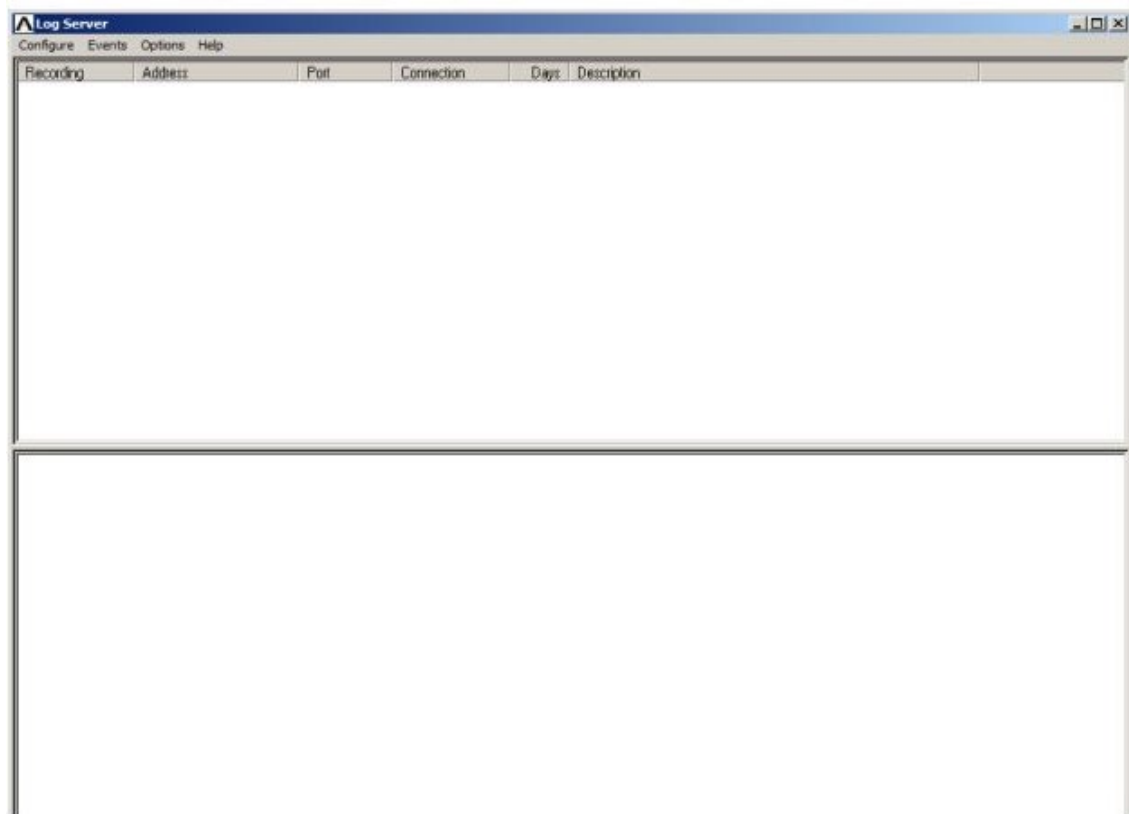
ログサーバーインストール画面が表示されます。



4. 「Next」(次へ) をクリックしてください。画面に表示された指示に従ってインストールを完成させて、ログサーバープログラムアイコンをデスクトップに表示するようにしてください。

起動

ログサーバーを起動するには、プログラムアイコンをダブルクリックするか、またはコマンドラインにプログラムのフルパスを入力してください。初回起動時には、下図のような画面が表示されます。



- 注意:**
1. ログサーバー用コンピューターの MAC アドレスは「ANMS 設定」で設定しなければなりません。
 2. プログラムが開始しない場合、ログサーバーには Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要となります。

画面は下記の 3 つの項目から構成されています。

- ◆ 上部 - 「メニューバー」
- ◆ 中央 - マトリックス KVM スイッチのリストを表示するパネル
- ◆ 下部 - イベントリストを表示するパネル

各項目については下記で説明します。

メニューバー

「メニューバー」には下記の 4 項目があります。

- ◆ 「Configure」(設定)
- ◆ 「Events」(イベント)
- ◆ 「Options」(オプション)
- ◆ 「Help」(ヘルプ)

各項目は以下で説明します。

注意: メニューバーが無効と表示されている場合は、「リストウィンドウ」をクリックして有効にしてください。

Configure (設定)

「Configure」(設定)メニューには「Add」(追加)、「Edit」(編集)及び「Delete」(削除)という 3 つの項目があります。リストに新しくユニットを追加したり、既にリストにあるユニットの情報を編集したり、リストからユニットを削除したりすることができます。

- ◆ リストにユニットを追加するには、「Add」(追加)をクリックしてください。
- ◆ リストにあるユニットを編集、または削除するには、対象となるユニットをリストウィンドウから選択してからこのメニューを開き、「Edit」(編集)または「Delete」(削除)をクリックしてください。

「Add」(追加)または「Edit」(編集)をクリックすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。



The image shows a Windows-style dialog box titled "Add a Server". It has a blue title bar with a close button (X) on the right. The main area is light gray and contains several input fields: "Address:" with a text box containing "Server Address", "Port:" with a text box containing "9001", "Description:" with a text box containing "Server Description", "Limit:" with a text box containing "100", and "Days:" with an empty text box. At the bottom, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

各欄の説明は下表の通りです。

欄	説明
Address	ログサーバーが起動するコンピュータの IP アドレス、または DNS ネームのどちらかを入力してください。
Port	「デバイス管理」のログサーバーに割り当てるポート番号を入力してください。
Description	この欄はユニットが識別されやすいような説明事項を入力するためのものです。
Limit	ログサーバーのデータベースにイベント情報を保存する日数を入力してください。ここで設定した日数を超えたイベントは「メンテナンス」機能で削除されます。

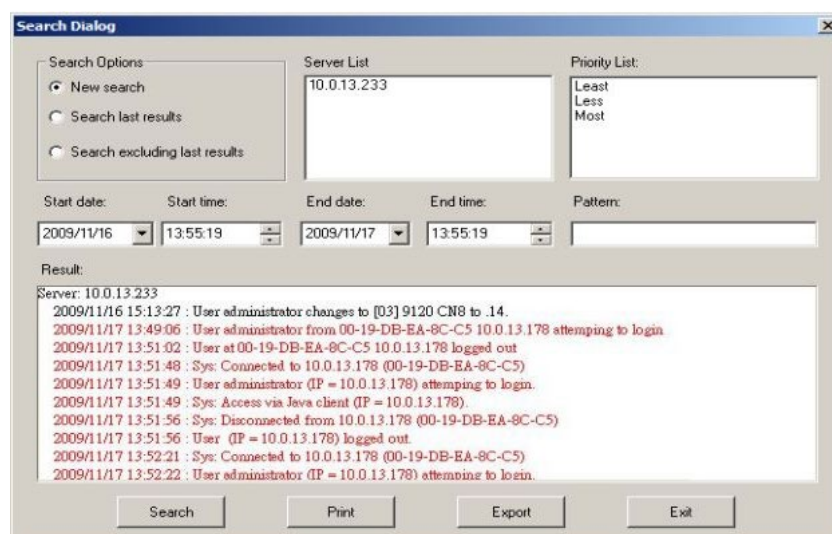
各欄を入力、または編集したら、「OK」をクリックして終了してください。

Events (イベント)

「Events」(イベント)メニューには、「Search」(検索)と「Maintenance」(メンテナンス)という 2 つの項目があります。

Search (検索)

「Search」(検索)では、ある特定の言葉や文字列を含むイベントを検索することができます。この機能を使用すると、下図のような画面が表示されます。



各項目の説明は下表の通りです。

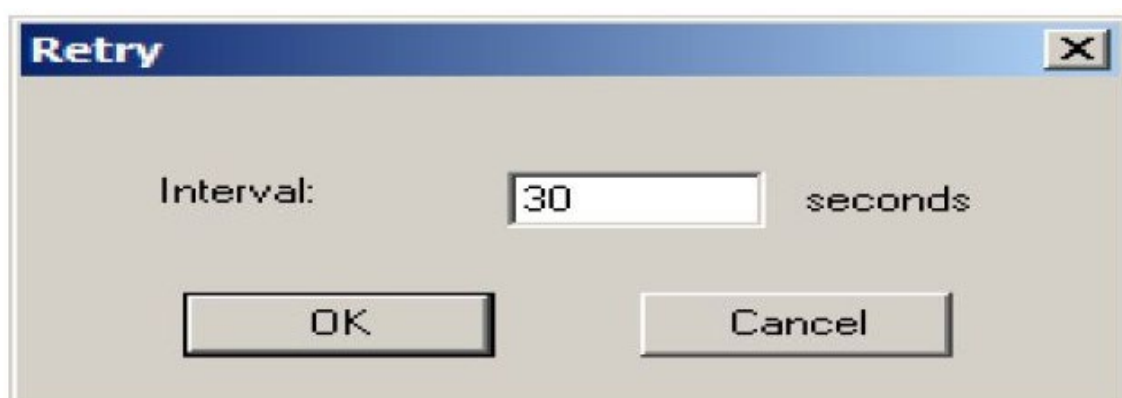
項目		説明
Search		検索範囲のオプションを選択するラジオボタンを提供します。
Options	New search	この項目が選択されると、データベース内の全イベントを対象に検索します。
	Search last results	前回の検索結果を対象に二次検索を行います。
	Search excluding last results	前回の検索結果 <u>以外</u> を対象に二次検索を行います。
Server List		製品は IP アドレスに従って一覧表示されます。検索の対象となるユニットをこの一覧から選択してください。ここでは複数のユニットを選択することも可能です。ユニットが選択されていない場合は、全ユニットを対象に検索を行います。
Priority		表示する検索結果の詳細の度合いを設定します。「Least」を選択すると概要を、「Most」を選択すると詳細をそれぞれ表示します。結果表示の色分けはそれぞれ、「Least」は黒、「Less」は青、「Most」は赤となっております。
Start Date		検索の対象となる期間の開始日(日付)を設定します。YYYY/MM/DD のフォーマットで入力してください。例：2009/11/04
Start Time		検索の対象となる期間の開始日(時刻)を設定します。HH:MM:SS のフォーマットで入力してください。
End Date		検索の対象となる期間の終了日(日付)を設定します。YYYY/MM/DD のフォーマットで入力してください。
End Time		検索の対象となる期間の終了日(時刻)を設定します。HH:MM:SS のフォーマットで入力してください。
Pattern		検索したい文字列を指定します。ワイルドカード(%)を使った検索にも対応しています。例えば、「h%ds」という文字列を検索すると、「hands」と「hoods」の2件がヒットします。
Results		条件に合致するイベントが一覧表示されます。
Search		検索を開始します。
Print		検索結果を印刷します。
Export		検索結果をファイルに保存します。
Exit		ログサーバーを終了します。

Maintenance (メンテナンス)

この機能を使用して、アドミニストレーターは、例えば、あるログ記録を期限切れになる前に削除するなど、データベースを手動でメンテナンスすることができます。

Options (オプション)

「Network Retry」(ネットワーク再試行)では、前回ログサーバーが接続に失敗した場合にログサーバーが再接続を試みるまで何秒間待つかを設定することができます。この項目をクリックすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。



秒数を入力してから、「OK」をクリックして終了してください。

Help (ヘルプ)

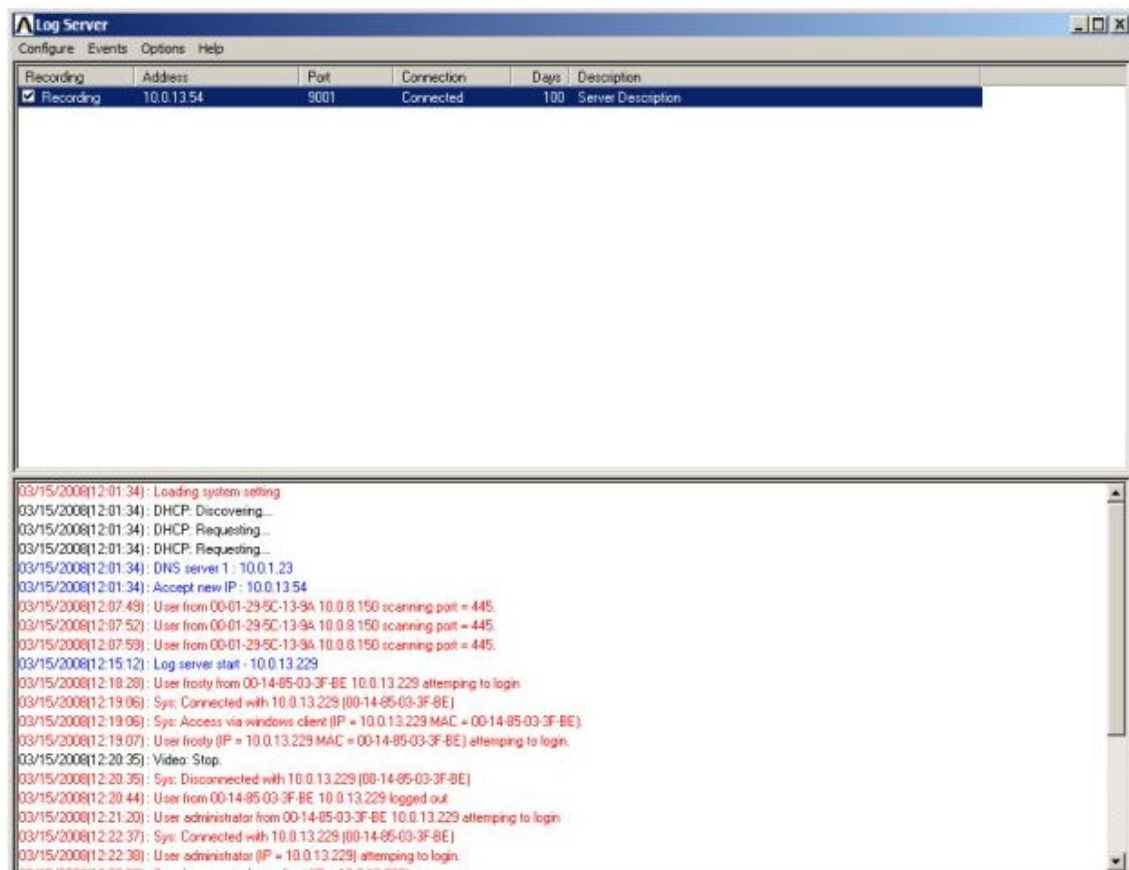
「Help」(ヘルプ)メニューからオンライン Windows ヘルプファイルにアクセスするには「Contents」をクリックしてください。ヘルプファイルにはログサーバーのセットアップ方法、操作方法やトラブルシューティングに関する説明が含まれています。

ログサーバーメイン画面

概要

ログサーバーメイン画面にはメインパネルが2つあります。

- ◆ 上部(リスト)パネルにはログサーバーが追跡するように選択されたユニット全てが一覧表示されます。
- ◆ 下部(イベント)パネルには現在選択されているユニットに関するログ情報が表示されます(ユニットが複数台ある場合、選択されたユニットはハイライトされます)。
- ◆ リストにあるユニットを選択するには、それをクリックしてください。



リストパネル

リストパネルには項目が 6 つあります。

項目	説明
Recording	ログサーバーがこのユニットのログを記録するかどうかを決定します。 「Recording」チェックボックスにチェックを入れるとこの欄に「Recording」と表示され、ログが記録されます。この「Recording」チェックボックスにチェックが入っていない場合、この欄には「Paused」と表示され、ログは記録されません。 注意: 現在選択されていないユニットでも「Recording」チェックボックスにチェックが入っている場合、ログサーバーはそのログを記録します。
Address	これはログサーバーに追加された時にユニットに与えられた IP アドレスまたは DNS ネームです。
Port	これはユニットに割り当てられたアクセスポート番号です。
Connection	◆ ログサーバーがユニットに接続されている場合、この欄には「Connected」(接続)と表示されます。 ◆ ログサーバーが接続されていない場合、この欄には「Waiting」(待機中)と表示されます。これはログサーバーの MAC アドレスが正しく設定されていないことを意味するので、「デバイス管理」の「ANMS」(p.78 参照)で設定する必要があります。
Days	この欄には期限切れになる前にログサーバーのデータベースに保存されるログイベントの日数が表示されます。
Description	この欄にはログサーバーに追加されたユニットに関する説明情報が表示されます。

イベントパネル

下のパネルには現在選択したユニットのログイベントが表示されます。現在選択していないユニットが 1 台以上ある場合でも、「Recording」チェックボックスにチェックが入っているとログサーバーはそのログイベントを記録し、データベースに保存するのでご注意ください。

第 12 章

メンテナンス

概要

「メンテナンス」タブには、ブラウザ UI セッションとコンソール UI セッションがあり、機能が片方だけにあったり、異なったりします。

ブラウザ UI

ブラウザ UI でのセッションには「バックアップ/リストア」、「ファームウェアアップグレード」および「証明書」という 3 つのメニューがあります。

- ◆ スーパーアドミニストレーターは、「バックアップ/リストア」を使うことで、KM0032/KM0532/KM0932 のシステム設定のバックアップを作成したり、過去に保存されたファイルから設定情報をリストアしたりすることができます。
- ◆ スーパーアドミニストレーターは、「ファームウェアアップグレード」を使うことで、KM0032/KM0532/KM0932 および、これに接続されているコンソールやコンピューターモジュールのファームウェアをアップグレードすることができます。
- ◆ 「証明書」を使用してセキュリティを強化することができます。「プライベート認証」のセクションでは、デフォルトである弊社の認証ではなく、自分自身のプライベート暗号キーと自己署名証明書を使用することができます。

注意: バックアップ/リストア、ファームウェアアップグレード、および証明書の機能は、コンソールセッションからはご利用いただけません。

バックアップ/リストア

「メンテナンス」タブをクリックすると、ブラウザ UI では「バックアップ/リストア」メニュー画面が表示されます。この画面は、「バックアップ」と「リストア」の 2 つのメインセクションから構成されます。

バックアップ/リストアで実行される操作の内容は、下表のとおりです。

操作	内容
バックアップ	システム設定のバックアップを行います。バックアップの対象となるのは、マスターステーションの設定、ユーザーやグループのアカウント、ユーザープロフィール、ポートのアクセス権限、お気に入りです。
リストア	現在のマスターステーションの設定、ユーザーやグループのアカウント、ユーザープロフィール、ポートのアクセス権限、お気に入りを削除し、過去に保存されたバックアップにある設定値をリストアします。

バックアップ

システム設定値のバックアップを作成する場合は、下記の手順で操作してください。

1. (オプション)「バックアップ」パネルで、バックアップファイルのパスワードを設定してください。ここには、半角英数字・半角記号(- () [])・半角スペースを使って入力してください。

注意： パスワードの入力はセキュリティ対策です。パスワードを設定した場合は、このファイルから設定値をリストアする際にもこれと同じパスワードを入力する必要があります。

2. 「保存」ボタンをクリックしてください。
3. 表示ダイアログの「OK」ボタンをクリックして、設定ファイル(System.conf)をお使いのハードディスクに保存してください。



4. ファイルを保存したいディレクトリを選択して、「保存」ボタンをクリックしてください。

リストア

システム設定値をリストアする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「レストア」パネルで、「参照」ボタンをクリックしてください。
2. バックアップファイルが保存されたディレクトリから、リストアしたいファイルを選択してください。
3. 「バックアップ/レストア」画面に戻ったら、バックアップファイルを作成した際に設定したパスワードを入力してください。

注意: ファイルへのバックアップ時にパスワードを設定していない場合は、この欄をブランクにしておいてください。

4. 「レストア」ボタンをクリックしてください。
リストアが完了すると、セッションがアクティブなユーザー全てに対し、製品がリブートするということを通知するメッセージが送られ、しばらくすると製品はリブートを行います。製品が起動すると、バックアップファイルにリストアされていたシステム設定の値が有効になります。

ファームウェアアップグレード

新しいバージョンのファームウェアがリリースされると、弊社 Web サイトに公開され、ダウンロードできるようになります。弊社 Web サイトに定期的にアクセスしていただき、最新のアップグレードパッケージを取得してください。

「ファームウェアアップグレード」では、下記のデバイスを同時にアップグレードします。

- ◆ マスターとなる KVM スイッチ
- ◆ デイジーチェーン接続された、すべての KVM スイッチ
- ◆ マスターKVM スイッチに接続された、すべてのコンソールモジュール
- ◆ マスターKVM スイッチとデイジーチェーン接続された KVM スイッチに接続された、すべてのコンピューターモジュール

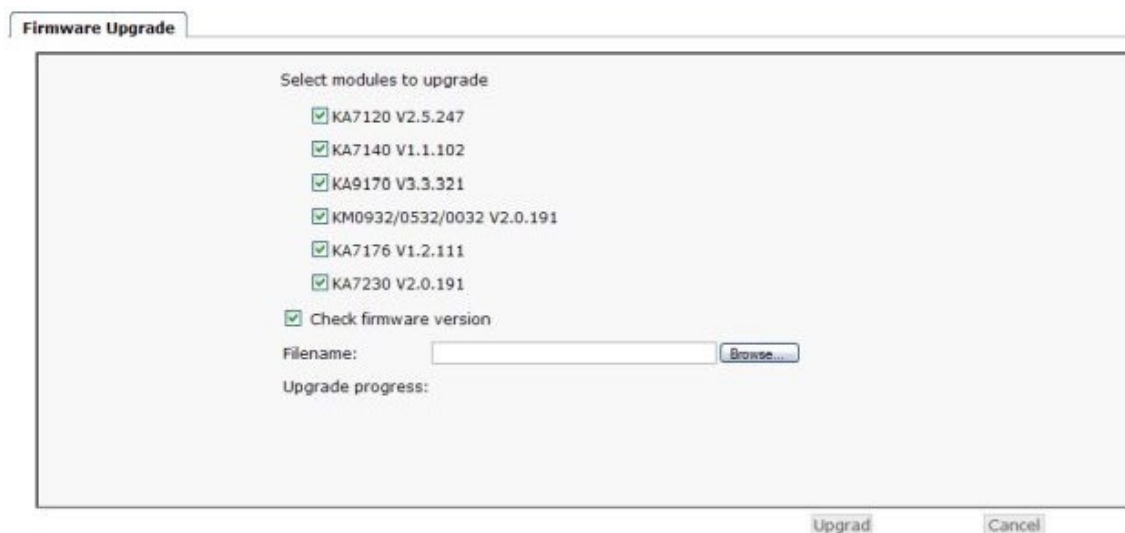
-
- 注意:**
1. デュアルルートを構成している場合、スレーブのステーションは同時にアップグレードされませんので、個別にアップグレードを行ってください。
 2. カスケード接続されたステーション、これらのステーションに接続されたコンソール、および同じくこれらのステーションに接続されたコンピューターモジュールは、いずれもこの機能ではアップグレードされません。各ステーション(コンソールとコンピューターモジュールを含む)は、ステーション単位でアップグレードしてください。
 3. アップグレードを実行する際には、システム停止の前に、ユーザーに対してログアウトするよう促してください。
-

ファームウェアをアップグレードする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 製品を含むシステム構成には含まれていないコンピューターから、弊社 Web サイトにアクセスし、お使いのマトリックス KVM スイッチの機種に合ったファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードしてください。
2. スーパーアドミニストレーターのアカウントで、ブラウザからマトリックス KVM スイッチにログインしてください。
3. 「メンテナンス」タブをクリックし、メニューバーから「ファームウェアアップグレード」を選択してください。このメニューを選択すると、下図のような確認ダイアログが表示されます。



4. 操作を続ける場合は「Yes」ボタンをクリックしてください。しばらくすると、「ファームウェアアップグレード」画面が表示されます。



このファームウェアパッケージでアップグレードできるステーション、コンソールモジュール、コンピュータモジュールが、すべて一覧表示されます。

注意： 一覧に表示されるのは、オンラインのステーションやコンソールモジュール、また、オンラインのデバイスに接続されたコンピュータモジュールだけです。オフラインのステーションやコンソールモジュール、およびオフラインのデバイスに接続されたコンピュータモジュールは、アップグレードされませんのでご注意ください。

5. アップグレードの対象となるモジュールのチェックボックスにチェックが入っていることを確認してください。また、アップグレード対象ではないモジュールのチェックボックスからはチェックを外してください。

6. 「参照」ボタンをクリックして、ファームウェアアップグレードファイルをダイアログから選択してください。
7. 「Check Firmware Version」の項目を有効、または無効にしてください。
 - ◆ 「Check Firmware Version」の項目を有効にした場合、現在のファームウェアとアップグレードファイルのバージョンを比較します。現在のファームウェアのバージョンがアップグレードファイルのバージョンと同じかこれよりも新しい場合、アップグレードを続行するかどうかの選択を促すポップアップメッセージが表示されます。
 - ◆ 「Check Main Firmware Version」の項目を有効にしなかった場合は、ファームウェアファイルのバージョンの比較を行いません。
8. 「Upgrade」ボタンをクリックして、アップグレードを開始してください。アップグレードの進捗状況は画面に表示されます。アップグレードが正常に終了すると、製品本体がリセットされます。
9. 再ログインし、ファームウェアのバージョンが更新されていることを確認してください。

ファームウェアアップグレードのリカバリー

ファームウェアアップグレードが正常に終了せず、アップグレードの後に製品が使用できなくなってしまった場合は、下記の手順でメインファームウェアのリカバリーを行うと問題が解決します。

1. 製品本体の電源を切ってください。
2. リセットスイッチ(p.26 参照)を長押ししてください。
3. リセットスイッチを長押ししたまま、製品本体に電源を入れてください。

この操作によって、製品のメインファームウェアは工場出荷時のデフォルトの状態に戻ります。この操作で製品が使えるようになったら、メインファームウェアのアップグレードを再試行してください。

モジュールファームウェアアップグレードのリカバリー

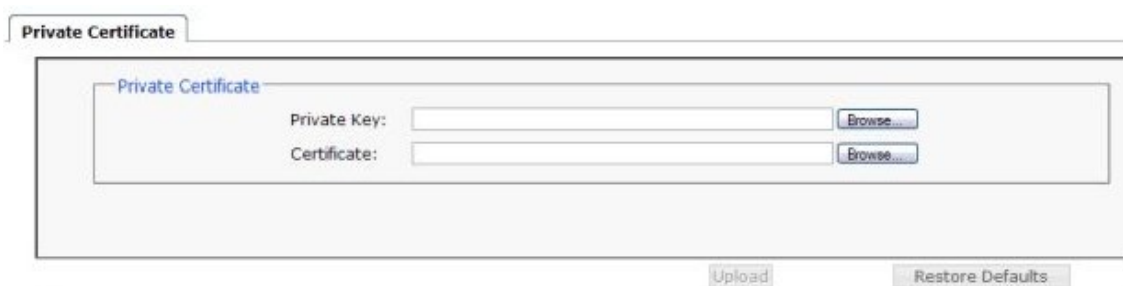
コンピューターモジュールがアップグレードに失敗して使えなくなってしまった場合は、下記の手順でコンピューターモジュールのアップグレードリカバリーを行うと問題が解決します。

1. コンピューターからコンピューターモジュールを取り外してください。
2. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ(RJ-45 ポートの隣)を「**RECOVER**」の位置にスライドさせてください。
3. コンピューターモジュールをコンピューターに接続し直してください。
4. コンピューターモジュールのアップグレードをやり直してください。
5. アップグレードが正常に完了した場合は、コンピューターモジュールを取り外し、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**NORMAL**」の位置に戻してから、コンピューターモジュールを接続し直してください。

証明書

プライベート認証

SSL 接続でログインすると、ユーザーが意図するサイトにログインしようとしているかどうかを検証するために署名済み証明書が使われます。デフォルトの ATEN 証明書を使うのではなく、このセクションで自分のプライベート暗号キーと署名済み証明書を使うように設定することで、セキュリティを強化することができます。



プライベート証明書を発行するには、自己署名された証明書を作成する方法と、サードパーティーの証明局(CA)によって署名された証明書をインポートする方法の2つの方法があります。

◆ 自己署名済証明書の作成

自己署名済証明書を作成する場合は、「openssl.exe」というフリーツールをインターネットでダウンロードして使うことができます。OpenSSL を使って自身のプライベートキーと SSL 証明書を作成する方法の詳細については、p.217「自己署名(プライベート)証明書」を参照してください。

◆ CA 署名済 SSL サーバー証明書の取得

セキュリティを強化するために、サードパーティーの認証局(CA)によって署名された証明書を使うことを推奨します。サードパーティーによって署名された証明書を取得する場合は、認証局の Web サイトにアクセスし、SSL 証明書を申請してください。CA から証明書が送られてきたら、お使いのコンピュータのハードディスクドライブの適切なフォルダーに保存してください。

◆ プライベート証明書のインポート

プライベート証明書をインポートする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「プライベートキー」の隣にある「参照」ボタンをクリックして、ダイアログからプライベート暗号キーのファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。

2. 「証明書」の隣にある「**参照**」ボタンをクリックして、ダイアログから証明書のファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
3. 「**アップロード**」ボタンをクリックして操作を完了してください。

注意：

1. 「**Restore Default**」をクリックすると、デフォルトの弊社証明書を使用ようになります。
2. プライベート暗号キーと署名済証明書は同時にインポートしてください。

コンソール UI

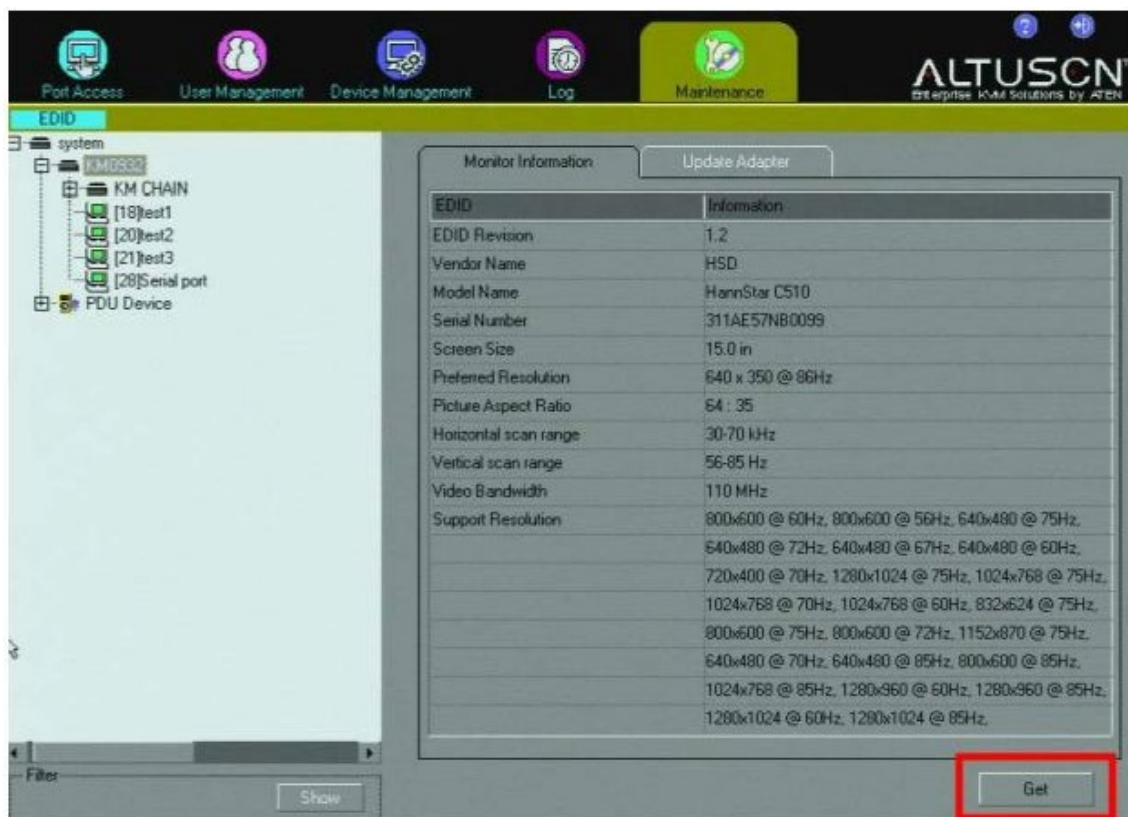
EDID 情報/アップデート

コンソールセッションの「メンテナンス」機能には「モニター情報」と「モジュールのアップデート」という 2 つのメニューがあります。

注意: スーパーアドミニストレーターのみがこのメンテナンス機能を使用することができます。

モニター情報

「モニター情報」メニューではコンソールの EDID バージョン番号、メーカー名、機種名、シリアル番号および対応解像度を含む EDID を表示します。



モニターの新しい EDID 情報を読み出すには「Get」をクリックしてください。

モジュールのアップデート

ユーザーは「モジュールのアップデート」メニューを使用してディスプレイを最適化するために EDID 情報(モニターの解像度を含む)を dongle に送って手動でコンピューターモジュールをアップデートすることができます。



- ◆ コンピューターモジュールをアップデートするにはコンピューター/KVM モジュールリストから対象となるコンピューターモジュールを選択してから「Send」をクリックしてください。
- ◆ コンピューターモジュールをデフォルト値にリストアするには、コンピューター/KVM モジュールリストから対象となるコンピューターモジュールを選択してから「Restore Default」をクリックしてください。

アップデートが成功すると、「アップデート成功」のメッセージ画面が表示されます。

注意: 「モニター情報」及び「モジュールのアップデート」メニューは、ブラウザ UI セッションでは使用できません。

第 13 章

RS-232 経由でのポート操作

概要

スーパーアドミニストレーターやアドミニストレーターは、RS-232 ポート経由で操作することによって、ユーザー自身のコンピューターにある COM ポートからコンソールモジュールの RS-232 ポートに対して KM0532/KM0932 へのシリアルターミナルログインを確立することができます。この機能を使うことで、スーパーアドミニストレーターやアドミニストレーターは、すべてのコンソールやポートの使用状況を、一カ所からモニタリングすることができます。

これは、すべてのコンソールの内容を壁にプロジェクター出力して操作を監視するような、大規模なデータセンターにおいて特に便利な機能で、システムの監視をポート毎に行うことができます。

事前準備

RS-232 ポートの操作を行う際にまず準備することは、コンソールモジュールに付属しているモデムケーブルを使って、コンソールモジュールの RS-232 ポートをお使いのコンピューター COM ポートに接続することです。

次に、コンソールモジュールのパラメーターに一致するように、シリアルターミナルプログラム(例: ハイパーターミナル)側のパラメーターの設定を行ってください。コンソールモジュールのデフォルトパラメーターは下表のとおりです。

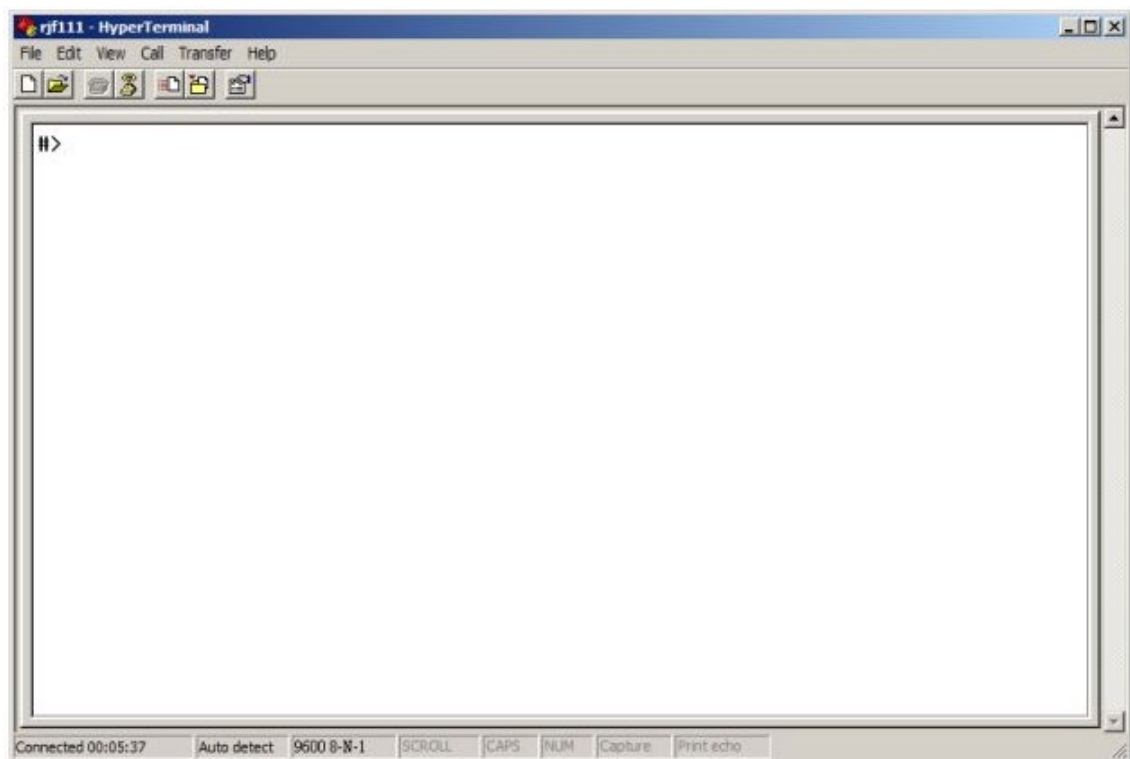
パラメーター	値
転送速度 (Bit per second)	115200
データビット	8
パリティ	None
ストップビット	1
フロー制御	None

注意: シリアルターミナルプログラムとコンソールモジュールでパラメーターが一致しているのであれば、これらのデフォルト値以外の値を使用することもできます。

接続方法

お使いのターミナルプログラム経由で接続を確立すると、コマンド画面が表示されます。

1. **[Enter]**キーを押して、ユーザーネームプロンプトを呼び出してください。
2. お使いのユーザーネームを入力したら、**[Enter]**キーを押してパスワードプロンプトを呼び出してください。
3. お使いのパスワードを入力したら、**[Enter]**キーを押してコマンドプロンプトを呼び出してください。



制限事項

- ◆ スーパーアドミニストレーターやアドミニストレーターだけがこの機能を使うことができます。一般ユーザーはこの機能を使うことはできません。
- ◆ スーパーアドミニストレーターやアドミニストレーターは、シリアルターミナル(例:ハイパーターミナル)経由でログインしなければなりません。
- ◆ RS-232 ログインを行う前には、どのユーザーも RS-232 ログインに使用しているコンソールモジュールと KM0532/KM0932 の間における通常のログイン接続を確立しておかなければなりません。
- ◆ RS-232 ポート経由でログインするスーパーアドミニストレーターやアドミニストレーターのユーザープロフィールが、コンソールモジュールが接続されている KM0532/KM0932 のデータベースに登録されていなければなりません。
- ◆ アクセス権限については、下記の制限事項があります。
 - スーパーアドミニストレーターは、スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザーの各アクセス権限が与えられたコンソールやポートにアクセスすることができます。
 - アドミニストレーターは、アドミニストレーターおよびユーザーの各アクセス権限が与えられたコンソールやポートにアクセスすることができます。
 - RS-232 接続によるコンソールや KVM ポートの切替は、コンソールモジュールポート経由でコンソールモジュールにログインしているユーザーのアクセス権限に依存します。このユーザーがアクセス権限を持っているポートだけが利用可能です。

コマンド一覧表

この機能で利用できるコマンドは下表のとおりです。

コマンド	説明
AS	オートスキャンモード(Auto Scan Mode)コマンドです。このコマンドの後には、オートスキャンを行いたいコンソール、スキャン時間、およびポートを指定する文字列が続きます(詳細は p.193 「AS」参照)。
ST	オートスキャンモードを無効にする(Disable Auto Scan)コマンドです。このコマンドの後にはオートスキャンを無効にしたいコンソールを指定する文字列が続きます(詳細は p.194 「ST」参照)。
SP	ポートを切り替える(Switch Port)コマンドです。このコマンドの後には、切替先となるポートを指定する文字列が続きます(詳細は p.193 「SP」参照)。*
TK	KVM セッションを終了する(Terminate KVM Session)コマンドです。このコマンドの後には、セッション終了の対象となるポートを指定する文字列が続きます(詳細は p.195「TK」参照)。*
TS	コンソールセッションを終了する(Terminate Console Session)コマンドです。このコマンドの後には、セッション終了の対象となるコンソールを指定する文字列が続きます(詳細は p.196「TS」参照)。
LP	KVM ポート情報を一覧表示する(List KVM Port Information)コマンドです。このコマンドの後には、一覧表示の対象となるスイッチまたはデジタイザチェーン接続のポートを指定する文字列が続きます(詳細は p.196 「LP」参照)。
LI	KVM ポートを一覧表示する(List KVM Ports)コマンドです。このコマンドの後には、KVM ポートが一覧表示の対象となるコンソールのコンソールポートナンバーを指定する文字列が続きます(詳細は p.197 「LI」参照)。* 注意: コンソールポートナンバーではなく、「ALL」という単語をコマンドの後に続けると、すべての利用可能なコンソールの KVM ポートを一覧表示します。
SN	ポート名前を変更する(Change Port Name)コマンドです。このコマンドの後にはポート名前を変更して新しく名前を付けたいポートを指定する文字列が続きます(詳細は p.78「SN」参照)。

(表は次ページに続きます。)

コマンド	説明
LU	ユーザープロフィールを一覧表示する(List User Profile)コマンドです。このコマンドの後には、ログインユーザーを確認したいコンソールのコンソールポートナンバーを指定する文字列が続きます。このコマンドを実行すると、指定されたコンソールモジュールにログインしているユーザーのプロフィールや、そのユーザーのユーザータイプ(アドミニストレーターまたはユーザー)が表示されます(詳細は p.198 「LU」参照)。 注意: 1. スーパーアドミニストレーターのユーザーネームやユーザータイプは表示されず、「NA」と表示されます。 2. コンソールポートナンバーではなく、「ALL」という単語をコマンドの後に続けると、すべてのコンソールモジュールにログインしている全ユーザーのプロフィールを一覧表示します。
Exit	ターミナルセッションを終了します。

* このコマンドを実行すると、コンソールモジュールにログインしているユーザーが利用可能なオンライン状態のポートだけが表示されます。

コマンドの例については、後のセクションで説明します。

AS

このコマンドでは、コンソールに対してオートスキャンモードを有効にします。このコマンドの構文は下記の通りです。

AS XX YY ZZ

- ◆ XXの部分には、オートスキャンモードを開始したい KM0032/KM0532/KM0932 のコンソールナンバーを表す 2 桁の数字を指定します。
- ◆ YYの部分には、各ポートをスキャンする秒数を指定します。
- ◆ ZZの部分には、スキャンを行うスイッチのポートを表す 2 桁の数字を指定します。ポートがオートスキャンモードを行うように指定されていると、そのポートはスキャンされ、それ以外のポートは全てスキップされます。

例 1 – 通常のスキャン

コンソールナンバー02 でオートスキャンモードを開始し、全てのポートをスキャンするには、下記のコマンドを入力してください。

AS 02

このコマンドでは、コンソールナンバー02 においてオートスキャンを開始し、全てのポートをスキャンします。またスキャンを行う間隔は「ポートアクセス」の「参照」画面で設定した秒数となります。

例 2 – スキャンの指定

AS 02 03 02,05,08,09,10,12

このコマンドでは、コンソールナンバー02 からオートスキャンを開始し、スキャン間隔は 3 秒間で、ポート 02、05、08、09、10、および 12 をスキャンします。

このコマンドは、オートスキャンを行うコンソール(XX)を有効にし、スキャン間隔(YY)とスキャンを行うポートナンバー(ZZ,ZZ)を指定しています。これ以外のポートは全てスキップされます。

ST

このコマンドはコンソールに対してオートスキャンモードを無効にします。このコマンドの構文は下記の通りです。

ST XX

XXの部分には、オートスキャンモードを無効にしたいコンソールナンバーを指定します。

SP

このコマンドでは、KVM の操作を特定のポートに切り替えます。このコマンドの構文は下記の通りです。

SP XX YY ZZ

- ◆ XXの部分には、アクセス対象となるコンソールモジュールが接続している KM0532/KM0932 のコンソールポートナンバーを表す 2 桁の数字を指定します。
- ◆ YYの部分には、コンソールモジュールの切替先となる、KM0532/KM0932 の KVM ポートナンバーか、KM0532/KM0932 からデイジーチェーン接続された KVM スイッチのステーションナンバーを指定します。
- ◆ ZZの部分には、アクセス対象となる、カスケード接続またはデイジーチェーン接続された KVM スイッチのポートを表す 2 桁の数字を指定します。

例 1 - 単体構成でセットアップした場合

5 番のコンソールモジュールで実行されているセッションの KVM フォーカスを、18 番の KVM ポートに切り替える場合は、パラメーターを下記の通りに指定してコマンドを実行してください。

SP 05 18

このコマンドによって、5 番のコンソールポートで実行されているセッションの KVM フォーカスを、現在 18 番の KVM ポートにあるポートに切り替えます。

コマンドの実行後には、18 番の KVM ポートに接続されたサーバーの画面が 5 番のコンソールのモニターに表示され、5 番のコンソールのキーボードとマウスの入力、18 番の KVM ポートに接続されたサーバーに送られます。

例 2 - 2 段階のカスケード接続でセットアップした場合

SP 02 03-08

このコマンドによって、2 番のコンソールポートで実行されているセッションの KVM フォーカスを、1 段階目の KM0532/KM0932 の 3 番の KVM ポートからカスケードされている 2 段階目の KVM スイッチの 8 番の KVM ポートに切り替えます。

コマンドの実行後には、1 段階目の KM0532/KM0932 の 3 番の KVM ポートからカスケードされている 2 段階目の KVM スイッチの 8 番の KVM ポートに接続されたサーバーの画面が 2 番のコンソールのモニターに表示され、2 番のコンソールのキーボードとマウスの入力も、1 段階目の KM0532/KM0932 の 3 番の KVM ポートからカスケードされている KVM スイッチの 8 番の KVM ポートに接続されたサーバーに送られます。

例 3 - デイジーチェーン接続でセットアップした場合

SP 08 C3 12

このコマンドによって、8 番のコンソールポートで実行されているセッションの KVM フォーカスを、デイジーチェーン接続の 3 番目のステーションにある 12 番の KVM ポートに切り替えます。

コマンドの実行後には、1 台目の KM0532/KM0932 に接続している 3 番ステーションの 12 番の KVM ポートに接続されたサーバーの画面が 8 番のコンソールのモニターに表示され、8 番のコンソールのキーボードとマウスの入力も、3 番ステーションの 12 番の KVM ポートに接続されたサーバーに送られます。

TK

このコマンドでは、KVM ポートセッションを終了します。このコマンドの構文は下記の通りです。

TK XX

XXの部分には、終了対象となる KVM ポートセッションが動作しているコンソールモジュールのコンソールポートナンバーを指定します。

例えば、「TK 08」というコマンドを実行した場合、8 番コンソールに接続されたコンソールモジュールで動作している KVM セッションを終了します。セッションが終了すると、コンソールモジュールには KM0532/KM0932 の GUI 画面が表示されます。

TS

このコマンドでは、コンソールログインセッションを終了します。このコマンドの構文は下記の通りです。

TS XX

XX の部分には、セッションの終了対象となるコンソールモジュールのコンソールポートナンバーを指定します。

例えば、「**TS 08**」というコマンドを実行した場合、8 番コンソールに接続されたコンソールモジュールのログインセッションを終了します。セッションが終了すると、コンソールモジュールにはログイン画面が表示されます。

LP

このコマンドは KVM ポート全て、または特定の KVM ポートの情報を一覧表示します。LP コマンドではポートナンバー、電源 ON/OFF およびポートネームを表示します。このコマンドの構文は下記の通りです。

LP ALL

LP ON

LP OFF

LP XX

- ◆ ALL - スイッチのポート全てのポート情報を表示します。
- ◆ ON - スイッチに接続されていて、電源が ON になっているポートの情報を表示します。
- ◆ OFF - スイッチに接続されていて、電源が OFF になっているポートの情報を表示します。
- ◆ XX は情報を表示させたいポートナンバーを表します。

例えば、「**LP 01**」というコマンドを実行すると、ポートナンバー01 のポート情報を表示します。

例えば、「**LP C1-12**」というコマンドを実行すると、チェーン接続 1 のポートナンバー12 のポート情報を表示します。

LI

このコマンドでは、特定のコンソールモジュールで利用可能な KVM ポートを一覧表示します。このコマンドの構文は下記の通りです。

LI XX

LI ALL

- ◆ XX の部分には、アクセス対象となるコンソールモジュールが接続している KM0532/KM0932 のコンソールポートナンバーを表す 2 桁の数字を指定します。
例えば、「LI 04」というコマンドを実行すると、KM0532/KM0932 の 4 番のコンソールモジュールポートに接続されているコンソールモジュール経由でアクセスされている、全ての利用可能な KVM ポートが一覧表示されます。
- ◆ 引数に「ALL」を指定すると、利用可能なコンソールモジュールの利用可能なポートがすべて一覧表示されます。

SN

このコマンドでは KVM ポート名前を変更します。このコマンドの構文は下記の通りです。

SN XX *portname*

- ◆ XX の部分にはポート名前を変更したいポートナンバーを表す 2 桁の数字を指定します。
- ◆ *portname* の部分には、新しく付けたいポート名前を指定します。
例えば、「SN 08 **newport08**」というコマンドを実行すると、ポートナンバー08 のポート名前が「newport08」になります。

LU

このコマンドでは、特定のコンソールモジュールで利用可能なコンソールモジュール経由で KM0532/KM0932 にログインしているユーザーのユーザープロフィールを一覧表示します。このコマンドの構文は下記の通りです。

LU XX

LU ALL

- ◆ XX の部分には、ログインユーザーを一覧表示したいコンソールモジュールの KM0532/KM0932 のコンソールポートナンバーを表す 2 桁の数字を指定します。
例えば、「LU 02」というコマンドを実行すると、KM0532/KM0932 の 2 番のコンソールモジュールポートに接続されているコンソールモジュールにログインしているユーザーのユーザープロフィールが一覧表示されます。
- ◆ 引数に「ALL」を指定すると、利用可能なコンソールモジュールの全ログインユーザーのユーザープロフィールが一覧表示されます。

応答メッセージ

KVM スイッチに RS-232 コマンドを送信すると、このスイッチからアドミニストレーター宛てにタスクの実行状況を通知する応答メッセージが送信されます。下記は応答メッセージとその意味のリストです。

- 0: 操作に成功しました。
- 1: ポートネームエラー
- 2: 操作に失敗しました。無効なコマンドです。
- 3: アクセス権がありません。
- 4: 操作に失敗しました。コンソール I/O ポートを切り替える権限がありません。
- 5: メインボードからの応答がありません。後でログインしてください。
- 6: 操作に失敗しました。コンソールはログインしていません。
- 7: 選択したコンソールからの応答がありません。
- 8: 操作に失敗しました。コンソールは RS-232 コマンドを使用して KA7140 に切り替えることはできません。
- 9: コンソールポートは・・・を使用して I/O ポートへの切替に成功しました。
- 10: ログインに失敗しました。パスワードは期限切れです。
- 11: 操作に失敗しました。ポート切替は、コンソールがポートアクセstabにある場合、または KVM セッション中である場合にのみ、実行可能です。
- 12: 「ユーザー」を使用している時に操作に失敗しました。
- 13: 操作に失敗しました。この IO ポートへのビデオパスがありません。

例 1:

ポート切替コマンド「**SP 01 03**」をスイッチに送信し、メインボードがポートからの応答を受けなかった場合、その応答メッセージは下記ようになります。

5: メインボードからの応答がありません。あとでログインしてください。

例 2:

ポート切替コマンド「**SP 02 04**」をスイッチに送信し、そのコマンド操作が成功した場合、その応答メッセージは下記ようになります。

0: 操作に成功しました。

第 14 章

LDAP サーバー設定

はじめに

本製品では外部プログラムを通じたログイン認証・ユーザー権限設定に対応しています。本章では KM0032/ KM0532/KM0932 の認証・ユーザー権限設定をする「Active Directory」の設定方法について説明します。

LDAP/LDAPS を通じた認証・権限設定を行うには、KM0032/KM0532/KM0932 の外部属性名「**iKVM0932-userProfile**」を person クラスのオプションの属性として追加して、「Active Directory」の LDAP スキーマを拡張する必要があります。

注意: 「認証」とはログインするユーザーが正しいユーザーであるかどうかを検証することを、「権限設定」とはデバイスの各種機能の操作権限をユーザーに割り当てることを指します。

LDAP サーバーを設定するには、下記の手順に従ってください。

1. 「Windows サーバーサポートツール」をインストールしてください。
2. 「Active Directory スキーマスナップイン」をインストールしてください。
3. 「Active Directory スキーマ」を拡張し、更新してください。

下記では Windows Server 2003 を使用して LDAP を設定する方法を例に挙げて説明します。

Windows 2003 サポートツールのインストール

「Windows 2003 Support Tool」をインストールするには、下記の手順に従ってください。

1. Windows Server の CD に収録されている、「Support」→「Tools」フォルダーを開いてください。
2. 表示されたダイアログボックスに右パネルにある「**SupTools.msi**」をダブルクリックしてください。
3. インストールウィザードに従ってインストールを完成してください。

Active Directory スキーマスナップインのインストール

「Active Directory スキーマスナップイン」をインストールするには、下記の手順に従ってください。

1. コマンドプロンプトを開いてください。
2. ご使用のアクティブディレクトリコンピュータに「schmmgmt.dll」を登録するために、コマンドラインからコマンド「regsvr32 schmmgmt.dll」を入力してください。
3. 「スタート」メニューを開き、「**ファイル名を指定して実行**」をクリックしてから「mmc /a」と入力し、「**OK**」をクリックしてください。
4. 表示された画面の「ファイル」メニューで、「**スナップインの追加と削除**」をクリックしてから、「**追加**」をクリックしてください。
5. 「利用できるスタンドアロンスナップイン」のリストから「**Active Directory Schema**」(アクティブディレクトリスキーマ)をダブルクリックし、「**閉じる**」をクリックしてから、「**OK**」をクリックしてください。
6. 現在開いている画面から「ファイル」メニューを開き、「**名前をつけて保存**」をクリックしてください。
7. 「保存する場所」の項目に「C:¥Windows¥system32」ディレクトリを指定してください。
8. 「ファイル名」の項目には「**schmmgmt.msc**」と入力してください。
9. 「**保存**」をクリックして、インストールを終了してください。

スタートメニューのショートカット作成

「Active Directory スキーマ」のスタートメニューへのショートカットを作成するには、下記の手順に従ってください。

1. 「スタート」を右クリックしてから、「**開く-All Users**」→「**プログラム**」→「**管理ツール**」の順に選択してください。
2. 「ファイル」メニューで「**新規作成**」→「**ショートカット**」を選択してください。
3. 表示されたダイアログボックスで、「参照」ボタンを押してダイアログを操作するか、またはパスを入力して、「schmmgmt.msc」(C:¥Windows¥system32¥schmmgmt.msc)を指定し、「**次へ**」をクリックしてください。
4. 表示されたダイアログで、ショートカットの名前を「Active Directory Schema」に設定し、「**完了**」をクリックしてください。

Active Directory スキーマの拡張・更新

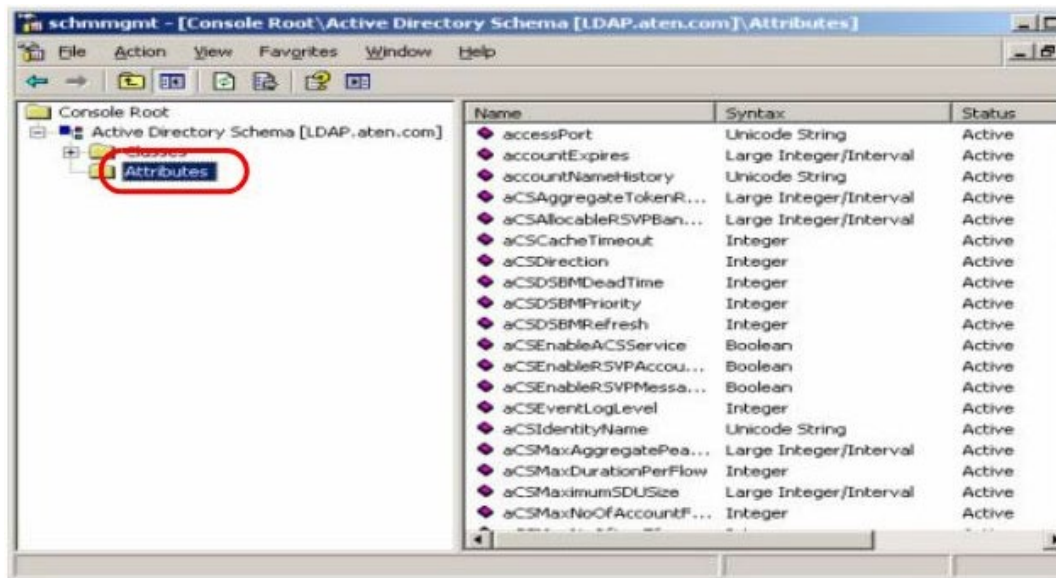
Active Directory スキーマの拡張や更新を行う場合は、以下の手順で操作する必要があります。

- 1) 新規属性を作成する。
- 2) 新規属性でオブジェクトクラスを拡張する。
- 3) 拡張されたスキーマで Active Directory ユーザーを編集する。

新規属性の作成

新規属性を作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「スタート」メニューから、「管理ツール」→「Active Directory Schema」を開いてください。
2. 表示された画面の左パネルで、「**Attributes**」を右クリックしてください。



3. 「New」→「Attribute」を選択してください。
4. 警告メッセージが表示されたら、「**Continue**」を押して「Create New Attribute」ダイアログを表示してください。

5. 下図の「Description」および「Common Name」に設定されている文字列をダイアログボックスの該当箇所に入力し、「OK」を押して操作を完了してください。

注意: 「X500 Object ID」で使用されている文字は、コンマではなくピリオドです。

iKVM4140-userProfile Properties

General

iKVM 0932-userProfile

Description: iKVM 0932-userProfile

Common Name: iKVM 0932-userProfile

X.500 OID: 1.3.6.1.4.1.21317.1.1.4.25

Syntax and Range

Syntax: Unicode String

Minimum: 1

Maximum: 255

This attribute is single-valued.

☐ Allow this attribute to be shown in advanced view

☒ Attribute is active

☐ Index this attribute in the Active Directory

☐ Ambiguous Name Resolution (ANR)

☐ Replicate this attribute to the Global Catalog

☐ Attribute is copied when duplicating a user

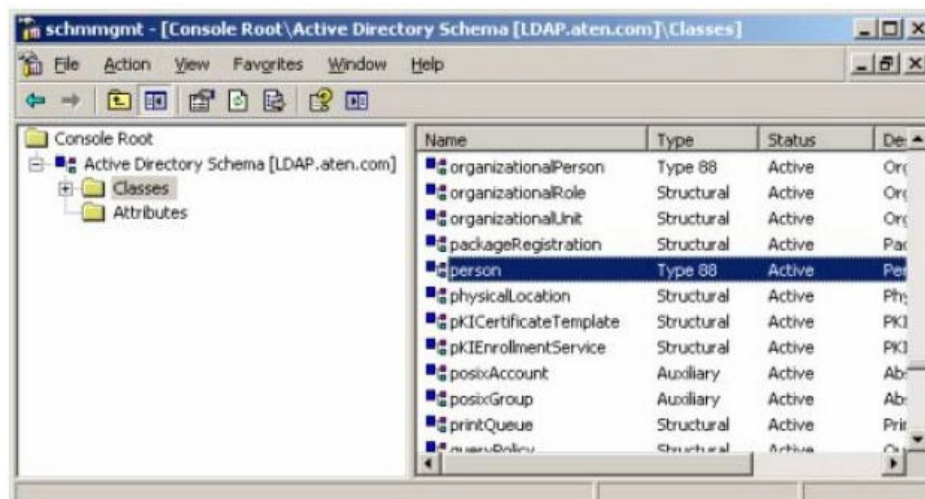
☐ Index this attribute for containerized searches in the Active Directory

OK Cancel Apply

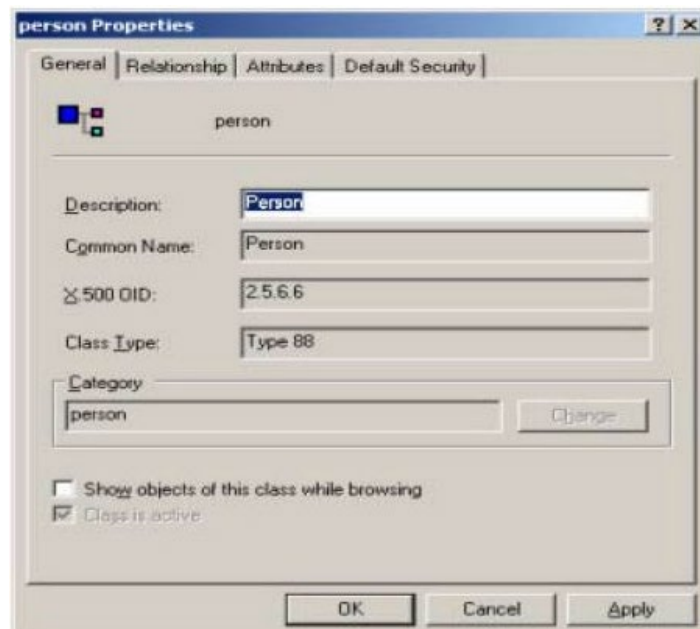
新規属性によるオブジェクトクラスの拡張

新規属性でオブジェクトクラスを拡張する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「コントロールパネル」→「管理ツール」→「Active Directory Schema」を開いてください。
2. 表示された画面の左パネルで、「Classes」を選択してください。
3. 右パネルで、「person」を右クリックしてください。



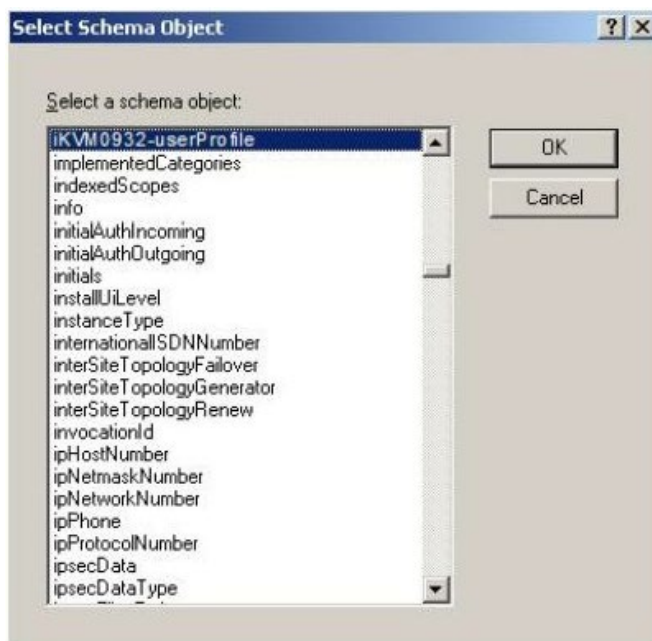
4. 「Properties」を選択すると、「person Properties」ダイアログの「General」タブが表示されます。このダイアログで「Attributes」タブを開いてください。



5. 「Attributes」タブで、「Add」ボタンをクリックしてください。



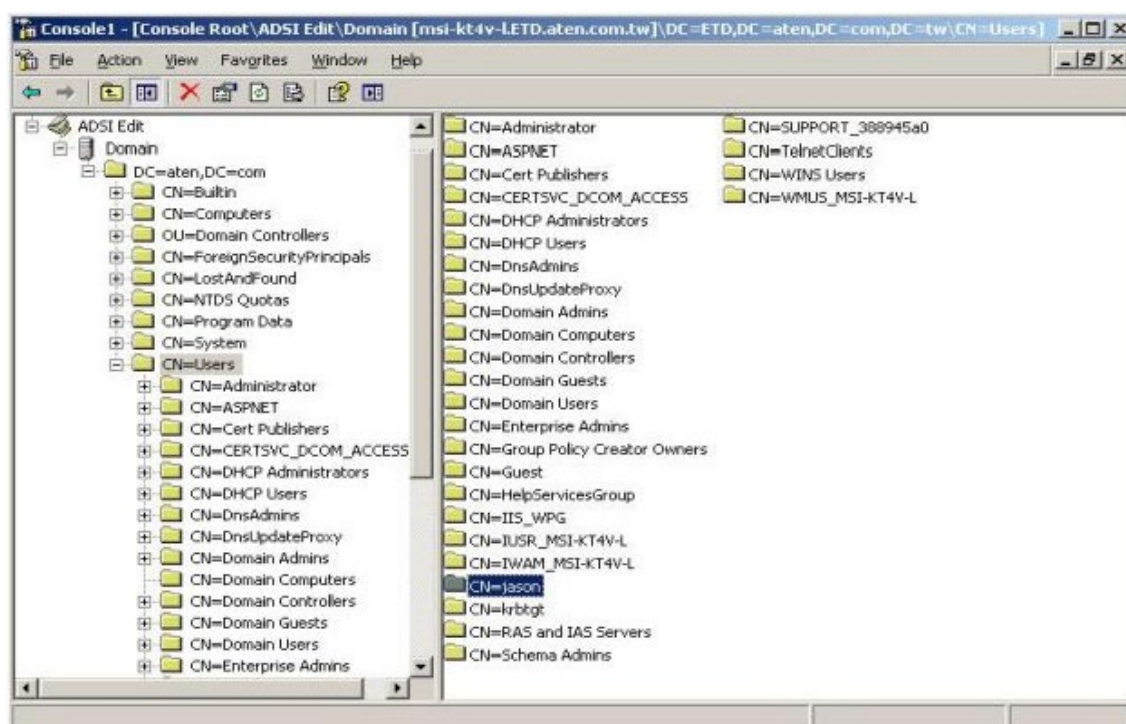
6. 表示されたリストから、「iKVM0932-userProfile」を選択し、「OK」を押して操作を終了してください。



Active Directory ユーザーの編集

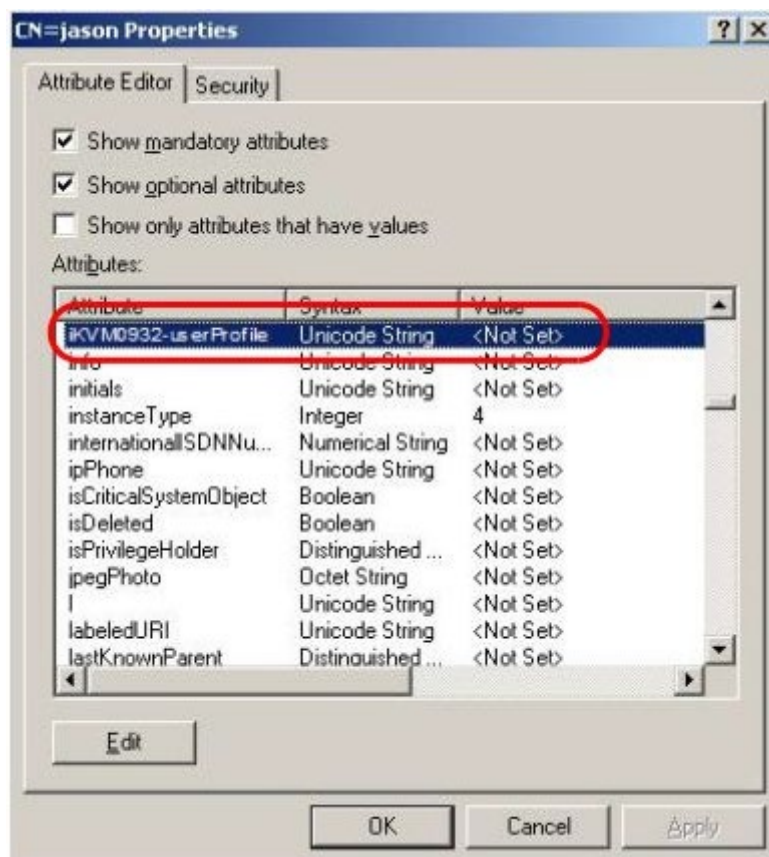
拡張されたスキーマで Active Directory ユーザーを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サポートツールと同時にインストールされた「ADSI Edit」を実行してください。
2. 左パネルから「Domain」を開き、「DC=aten, DC=com CN=Users」ノードに移動します。
3. 右パネルで、編集対象となるユーザーを選択してください。(下図は「jason」を選択した場合の画面の例です。)

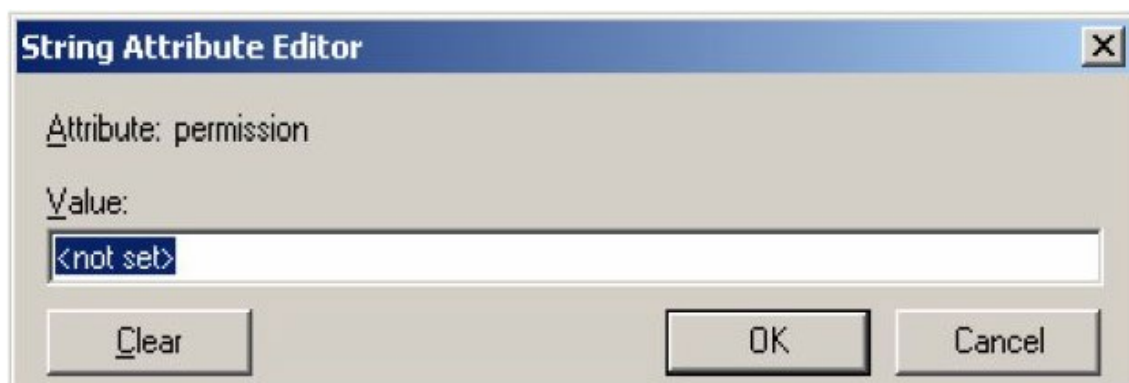


4. 手順 3 で選択したユーザー名を右クリックし、「properties」を選択してください。

5. 表示されたダイアログの「Attribute Editor」タブで、一覧から「iKVM0932-userProfile」を選択してください。



6. 「Edit」をクリックして、「String Attribute Editor」ダイアログを起動してください。

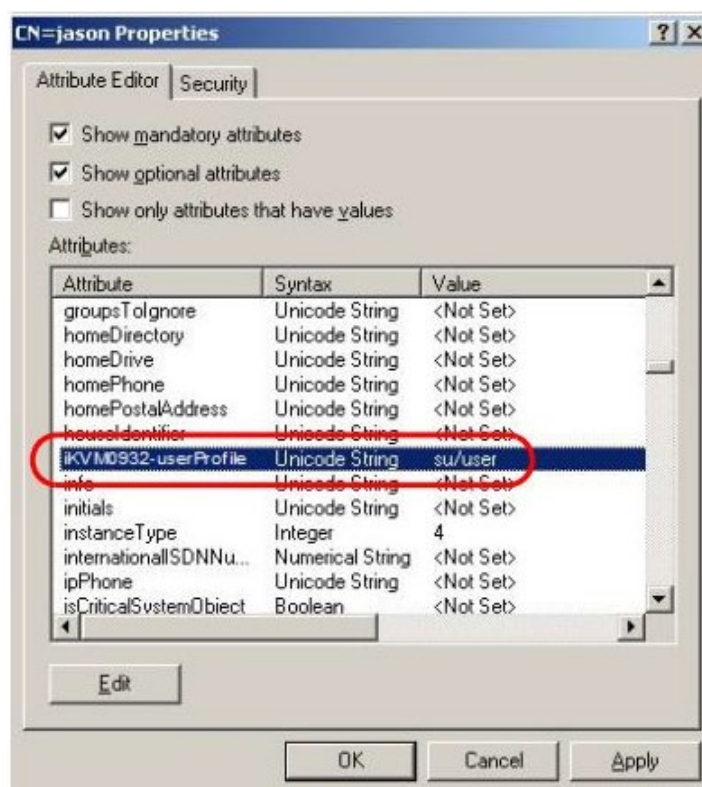


7. KM0032/KM0532/KM0932 の権限属性値を入力してください。下図は入力の一例です。



注意: 上図における「user」は、KM0032/KM0532/KM0932 のユーザーのユーザー名に与える製品上のユーザー権限(user)を表しています。

8. 「OK」をクリックしてください。「Attribute Editor」タブに戻ると、「iKVM0932-userProfile」のエントリーには新しい権限の内容が反映されます。



- a. 「Apply」をクリックし、変更内容を反映させてください。これによって、Jason には user の操作権限が与えられました。
- b. 他のユーザーも追加する場合は、「Active Directory ユーザーの編集」の手順を繰り返してください。

OpenLDAP

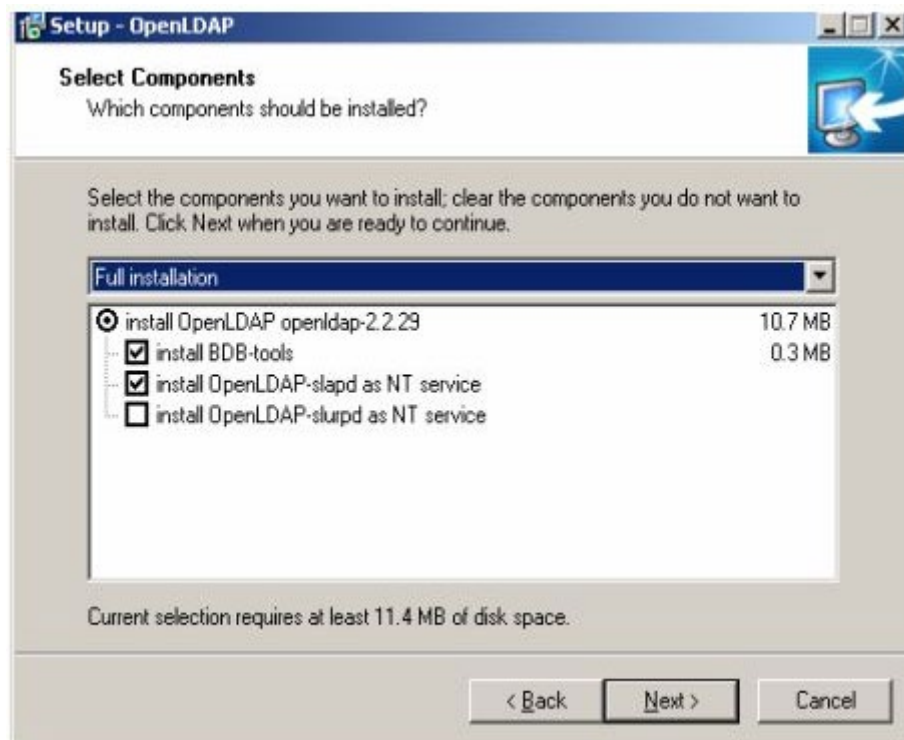
OpenLDAP は、UNIX プラットフォーム向けに設計されたオープンソースの LDAP サーバーです。Windows 版の OpenLDAP はインターネットからダウンロードすることができます。

http://download.bergmans.us/openldap/openldap-2.2.29/openldap-2.2.29-db-4.3.29-openssl-0.9.8a-win32_Setup.exe.

OpenLDAP サーバーのインストール

OpenLDAP のインストーラーをダウンロードしたら、そのインストーラーを起動し、使用言語を選択してライセンスを許諾したら、インストール先のフォルダーを選択してください。デフォルトのインストール先ディレクトリは「C:¥Program Files¥OpenLDAP」です。

「Select Components」ダイアログが表示されたら、下図のように「install BDB-tools」と「install Open LDAP-slapd as NT service」の項目にチェックを入れてください。



Open LDAP サーバーの設定

OpenLDAP のメインの設定ファイルである「slapd.conf」は、LDAP サーバーを起動する前に設定内容をカスタマイズする必要があります。このセクションでは、マトリックス KVM スイッチと共に使用する際の設定ファイルの修正に関する概略について説明します。OpenLDAP の詳しい説明については、OpenLDAP の公式ドキュメントをご参照ください。

設定ファイルの変更が必要となる項目は以下のとおりです。

- ◆ Unicode データディレクトリを設定してください。デフォルトは「./ucdata」です。
- ◆ 必要な LDAP スキーマを選択してください。「core schema」は必ず設定しなければなりません。
- ◆ OpenLDAP の起動時に必要となる PID ファイル(pidfile)およびコマンドオプションファイル(args)のパスを設定してください。PID ファイルはサーバーの PID を管理するファイルで、コマンドオプションファイルには slapd 起動時のコマンドラインオプションが保存されます。
- ◆ データベースの形式(database)を定義してください。デフォルトは「bdb」(Berkeley DB)です。
- ◆ この DB で使用するサーバーサフィックス(suffix)を定義してください。このサフィックスはデータツリーのベース部分となり、同一ディレクトリ内におけるすべてのエントリーにはこのサフィックスが与えられます。例えば、「dc=aten,dc=com」というサフィックスが定義されると、データベースにおけるすべてのエントリーの完全な修飾名は「dc=aten,dc=com」で終わります。
- ◆ そのサーバーの管理者エントリーの名前(rootdn)、およびその管理者エントリーのパスワード(rootpw)を定義してください。このユーザーはサーバーのスーパーユーザーです。rootdn は上記で定義したサフィックスと一致している必要があります。(すべてのエントリネームには定義されたサフィックスが付与され、rootdn はエントリーであるため)

下図は設定ファイルの入力例です。

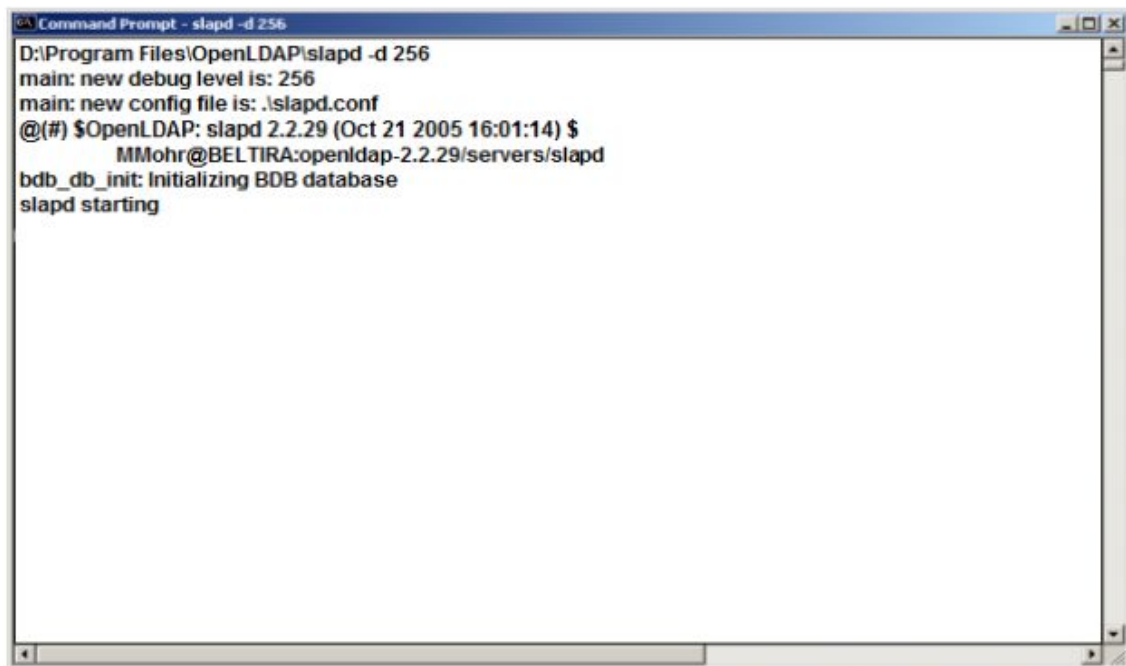
```
ucdata-path ./ucdata
include ./schema/core.schema

pidfile ./run/slapd.pid
argsfile ./run/slapd.args

database bdb
suffix "dc=aten,dc=com"
rootdn "cn=ldapadmin,dc=aten,dc=com"
rootpw password
directory ./data
```

OpenLDAP サーバーの起動

OpenLDAP サーバーを起動する場合は、コマンドラインから「**slapd**」(OpenLDAP サーバーの実行ファイル)を実行してください。「slapd」には様々なコマンドラインオプションがありますが、最も重要となるオプションは「**d**」で、このオプションはデバッグレベルを設定します。例えば、コマンドラインから「slapd -d 256」と入力すると、下図のように OpenLDAP をデバッグレベル 256 で起動します。



```
Command Prompt - slapd -d 256
D:\Program Files\OpenLDAP\slapd -d 256
main: new debug level is: 256
main: new config file is: .\slapd.conf
@(#) $OpenLDAP: slapd 2.2.29 (Oct 21 2005 16:01:14) $
MMohr@BELTIRA:openldap-2.2.29/servers/slapd
bdb_db_init: Initializing BDB database
slapd starting
```

注意: slapd の各オプションおよび使用方法に関する詳細は、OpenLDAP のドキュメントをご参照ください。

OpenLDAP スキーマのカスタマイズ

slapd が使用するスキーマは、サポートされている追加構文、マッチングルール、属性種別、オブジェクトクラスといった範囲まで拡張することができます。

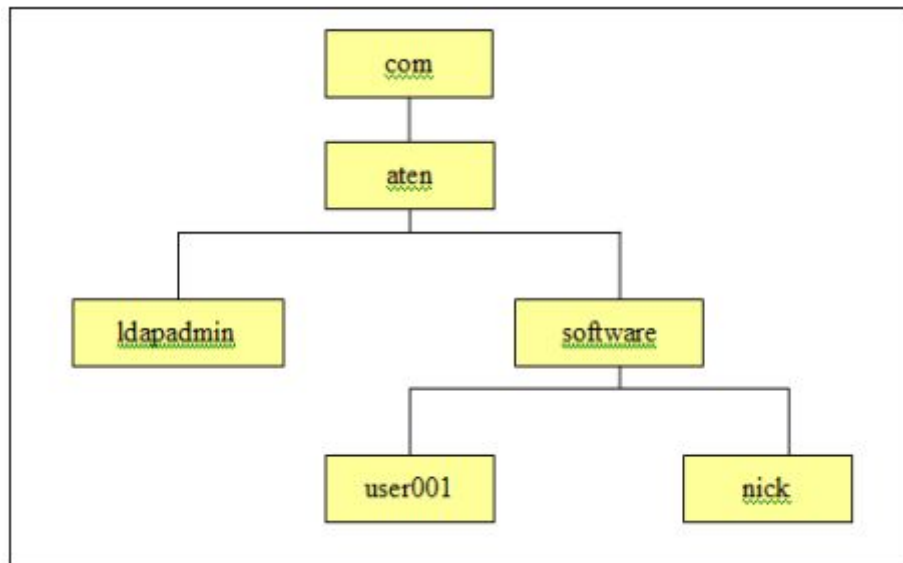
本製品では、User クラスと permission 属性を拡張し、新しいスキーマを定義します。製品にログインするユーザーを認証、権限設定する際に使用する拡張されたスキーマファイルは下図のとおりです。

```
#####  
##  
##      Summary: Define the LDAP schema  
##  
#####  
#  
#  ATEN OID={1.3.6.1.4.1.21317}  
#  
  
attributetype (1.3.6.1.4.1.21317.1.1.4.2.6  
    NAME 'iKVM0932-userProfile'  
    EQUALITY caseIgnoreMatch  
    SUBSTR caseIgnoreSubstringsMatch  
    SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15  
    SINGLE-VALUE )  
  
objectclass ( 1.3.6.1.4.1.21317.1.1.4.2  
    NAME 'KM0932 User'  
    SUP organizationalPerson  
    STRUCTURAL  
    MAY (iKVM0932-userProfile $ userCertificate ) )
```

LDAP DTI の構造および LDIF ファイル

LDAP のデータ構造

LDAP のディレクトリは、ディレクトリインフォメーションツリー (DIT) というツリー構造でデータを格納します。ツリーのノードはディレクトリのエントリーで、各エントリーには属性値フォームの情報が格納されています。下図は製品の LDAP ディレクトリツリーの例です。



DIT の作成

LDAP データ交換フォーマット(LDIF)は、LDAP エントリーを簡単なテキストフォーマットで表現する際に使用されます(RFC2849 参照)。下図は KM0932 のディレクトリツリーの DIT を作成する LDIF ファイルです。このファイルは、下図のような内容で「/OpenLDAP」ディレクトリの中に「init.ldif」というファイル名で作成します。

```
dn: dc=aten,dc=com
objectclass: top
objectclass: dcObject
objectclass: organization
o: Aten Canada
dc: aten

dn: cn=ldapadmin,dc=aten,dc=com
objectclass: top
objectclass: person
objectclass: organizationalPerson
cn: ldapadmin
sn: ldapadmin
userPassword: password

dn: ou=software,dc=aten,dc=com
objectclass: top
objectclass: organizationalUnit
ou: software

dn: cn=user001,ou=software,dc=aten,dc=com
objectclass: top
objectclass: person
objectclass: organizationalPerson
objectclass: KM0932user
cn: user001
sn: user001
iKM0932-userProfile: su/administrator
userPassword: password
```

新しいスキーマの使用

新しいスキーマを使用する場合は、以下の手順で作業してください。

1. /OpenLDAP/schema ディレクトリに新しいスキーマファイル(例:km0932schema)を保存してください。
2. /OpenLDAP ディレクトリにある「slapd.conf」ファイルに、下図のように新しいスキーマを追加してください。

```
ucdata-path    /ucdata
include        /schema/core.schema
include        /schema/cosine.schema
include        /schema/inetorgperson.schema
include        /schema/openldap.schema
include        /schema/km0932.schema

# Define global ACLs to disable default read access.
access to dn.children="ou=software,dc=aten,dc=com"
    by dn="cn=ldapadmin,dc=aten,dc=com" write
    by self read
    by anonymous auth
    by * none

pidfile        /run/slapd.pid
argsfile       /run/slapd.args
#####
# BDB database definitions
#####
database bdb
suffix         "dc=aten,dc=com"
rootdn         "cn=ldapadmin,dc=aten,dc=com"
rootpw         password
directory     /data
# Indices to maintain
index objectClass eq
```

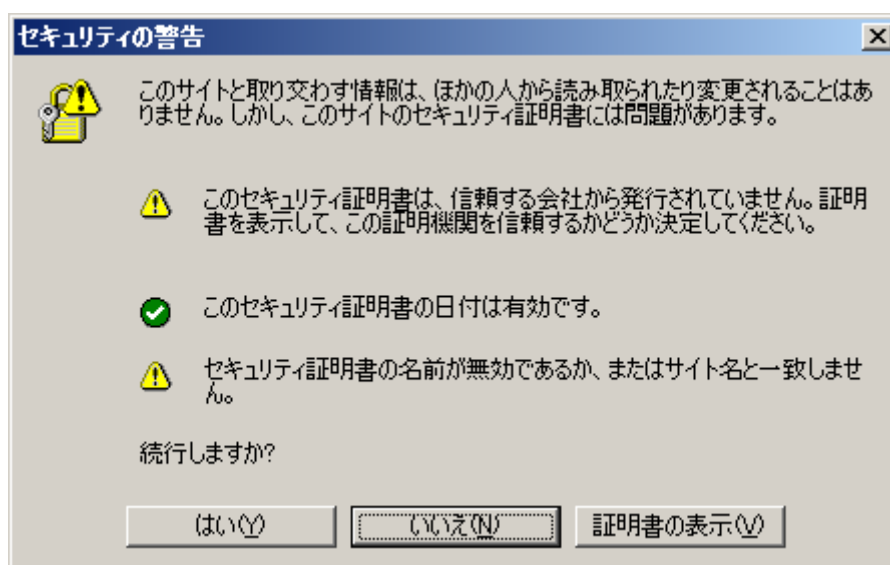
3. LDAP サーバーを再起動してください。
4. 下記の例のように、ldapadd コマンドを使って「init.ldif」ファイルにデータベースエントリを作成してください。

```
ldapadd -f init.ldif -x -D "cn=ldapadmin,dc=aten,dc=com"
-w password
```

信頼された証明書

概要

ブラウザ経由で製品にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。この警告メッセージを無視して、「Yes」ボタンを押し、処理を続行することができます。

自己署名(プライベート)証明書

オリジナルの自己署名暗号鍵や証明書を作成したい場合は、フリーツール「openssl.exe」を Web サイト(www.openssl.org)からダウンロードすることができます。オリジナルのプライベートキーや証明書を作成する場合は、下記の手順に従ってください。

1. ダウンロードした「openssl.exe」を解凍したディレクトリに移動してください。
2. 以下のパラメーターを指定して「openssl.exe」を実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf
```

-
- 注意:**
1. 上記のコマンドは1行で入力してください。パラメーターの入力途中で[Enter]キーを押さないでください。
 2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください(例: "ATEN International")。
-

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

```
/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress.
```

例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganization/OU=yourorganizationalunit/  
CN=yourcommonname/emailAddress=name@yourcompany.com  
  
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O="ATEN International"/OU=ATEN  
/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw
```

ファイルのインポート

openssl.exe のプログラムが終了すると、このプログラムを実行したディレクトリに「CA.key」(プライベートキー)と「CA.cer」(自己署名済 SSL 証明書)という2つのファイルが作成されます。これらのファイルは、「メンテナンス」タブの「プライベート認証」メニュー(p.184 参照)でアップロードします。

IP アドレスの設定

アドミニストレーターとして最初にログインする場合は、他のユーザーが外部からアクセスできるように KM0032/KM0532/KM0932 に IP アドレスを設定する必要があります。IP アドレスの設定方法は全部で 3 つありますが、どの方法で設定する場合も、お使いのコンピューターが KM0032/KM0532/KM0932 と同一セグメントにあることをご確認ください。KM0032/KM0532/KM0932 に接続しログインが完了すると、KM0032/KM0532/KM0932 に固定の IP アドレスを設定することができます。(p.73 「ネットワーク」参照)

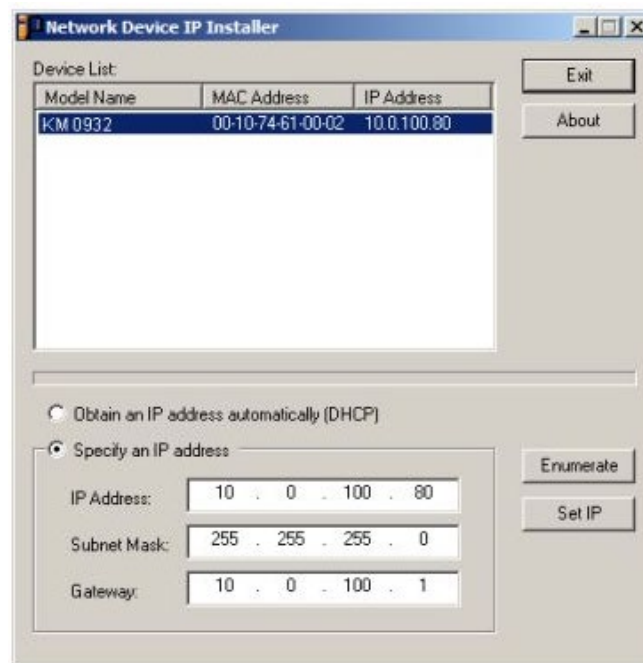
ローカルコンソールを使った方法

IP アドレスの最も簡単な設定方法は、ローカルコンソールからの操作です。設定方法に関する詳細は p.51 「初回使用時に必要なセットアップ」をご参照ください。

IP インストーラーを使った方法

Windows がインストールされているコンピューターであれば、IP インストーラーというツールを使用して IP アドレスを割り当てることができます。このツールは、弊社 Web サイトからダウンロードしてお使いいただけます。「Driver/SW」というセクションから、お使いの製品の型番を選択してください。このツールをお使いのコンピューターにダウンロードしたら、下記の手順に従って操作してください。

1. 「IPInstaller.zip」というファイルを、お使いのハードディスクの任意のディレクトリに保存し、これを解凍してください。
2. IP インストーラーを解凍したディレクトリに移動して、「IPInstaller.exe」を起動してください。このソフトウェアを起動すると下図のようなダイアログが表示されます。



3. KM0032/KM0532/KM0932 をダイアログ内の「Device List」から選択してください。

注意:

1. このプログラムを実行するコンピュータは、設定対象となる KM0032/KM0532/KM0932 と同一のネットワークセグメントになければなりません。
 2. 対象となるアイテムが「Device List」に表示されない場合は、「Enumerate」ボタンをクリックして、このリストを再表示してください。
 3. リストに複数台のデバイスが表示された場合は、製品の MAC アドレスでデバイスを判別してください。KM0032/KM0532/KM0932 の MAC アドレスは製品底面に貼られているラベルに記載されています。
-
4. DHCP を使用する場合は「Obtain an IP address automatically [DHCP]」を、固定 IP アドレスを設定する場合は「Specify an IP address」をそれぞれ選択してください。固定 IP アドレスを設定する場合は、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを該当欄に入力してください。
 5. 「Set IP」ボタンをクリックしてください。
 6. IP アドレスが「Device List」に表示されたことを確認したら、「Exit」ボタンをクリックしてください。

ブラウザ

1. お使いのコンピューターの IP アドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。XXX の部分には 60 以外で 0～255 の間の任意の値を使用してください。（192.168.0.60 は KM0032/KM0532/KM0932 のデフォルトの IP アドレスであるため）
2. 手順 1 で設定を変更したコンピューターから、ブラウザで製品のデフォルト IP アドレス（192.168.0.60）にアクセスしてください。
3. 現在、製品がセットアップされているネットワーク環境で有効な IP アドレスを Web 画面で設定してください。
4. 製品からログアウトし、必要であれば、手順 1 で IP アドレスを変更したコンピューターの IP アドレスを元に戻しておいてください。

トラブルシューティング

概要

操作上の問題は様々な理由によって引き起こされます。問題が発生したら、弊社技術サポートにご連絡いただく前に、まず、製品に必要なケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。

また、現在お使いのファームウェアのバージョンが最新でない場合、ファームウェアの最新版を適用することで問題が解決する場合があります。ファームウェアアップグレードの詳細に関しては p.180 「ファームウェアアップグレード」をご参照ください。

全般

問題	解決方法
KM0032/KM0532/KM0932 に KA9222 または KA9272 を接続して使用することができない。	左記のモジュールは KM0032/KM0532/KM0932 に対応していません。これらのマトリックス KVM スイッチにコンソールモジュールを接続してお使いになる場合は、KA7230、KA7240 をお使いください。
コンソールモニターに何も表示されず、キーボードやマウスを使っても何の反応も見られない。	1. コンソールモジュール、コンピューターモジュール、カテゴリ 5e/6 ケーブルを含めたすべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。 2. コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードを実行してください。
コンソールモジュールに接続されたモニターに表示上の問題が見られる。	1. コンソールモニターが正しく接地(アース)されていることをご確認ください。 2. コンソールモジュールのグラウンドターミナルを使って、コンソールモジュールを正しく接地してください。
KA7230 や KA7240 のコンソールモジュールを使うと KM0032/KM0532/KM0932 にログインすることができない。	1. 入力したユーザーネームおよびパスワードが正しいことをご確認ください。これらの項目が正しく入力されているにもかかわらずログインができない場合は、手順 2 にお進みください。 2. コンソールモジュールのファームウェアアップグレードを実行してください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決方法
イーサネットハブを使用してコンソールモジュールや KVM モジュールを KM0032/KM0532/KM0932 に接続することができない。	コンソールモジュールや KVM モジュールと KM0032/KM0532/KM0932 に接続する際にはカテゴリ 5e またはカテゴリ 6 ケーブルを使用しますが、イーサネットプロトコルには対応しておりませんので、これらを接続する際にイーサネットハブを使用することはできません。
デフォルトのスーパーアドミニストレーターのパスワードをリセットする必要がある。	p.239 「工場出荷時におけるデフォルト設定のリストア」をご参照ください。
ファームウェアのアップグレードを実行したものの、一部のコンピューターモジュールでアップグレードに失敗した。	p.180 「ファームウェアアップグレード」をご参照ください。
ファームウェアアップグレードを中断したら、一部のモジュールが使用できなくなった。	p.182 「ファームウェアアップグレードのリカバリー」をご参照ください。
ファームウェアバージョンをアップグレードすることができない。	選択したものが正しいファームウェアアップグレードパッケージであることを確認して、もう一度アップグレードを実行してください。KM0932 管理用ユーティリティを通じてファームウェアをアップグレードする場合、FW 拡張子のファームウェアアップグレードパッケージを使用してください。システム失敗によりシステムが使用できない場合は、EXE 拡張子のファームウェアアップグレードパッケージを使用してファームウェアを再インストールしてください(詳細は p.180 「ファームウェアアップグレード」参照)。
KM0032/KM0532/KM0932 にアクセスすることができない。	1. システムリセットを実行してください(p.26 「リセットスイッチ」参照)。 2. ファームウェアを再インストールしてください(p.180「ファームウェアアップグレード」参照)。
ログインすると、ブラウザで「ルート認証局が発行した電子証明書は信頼できません」というメッセージや認証エラーが返ってくる。	Microsoft の信頼された認証局のリストに認証名が登録されていない可能性があります、この証明書は信頼できるものです。詳細については p.216 「信頼された証明書」をご覧ください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決方法
キーボードから入力したとおりに表示されない文字がある。	ポートのキーボードレイアウトを、お使いのキーボードレイアウトに適した値に設定してください。 キーボードレイアウトの設定を変更する場合は、下記の手順で操作してください。 1. 問題のあるポートのポート管理画面を開いてください。 2. 「キーボードレイアウト」リストから、使用するキーボードのレイアウトを選択してください。 3. 「保存」ボタンをクリックしてください。 4. そのポートに接続されているコンピューターが Sun サーバーまたは iMac の場合、または、キーボードレイアウトの変更によっても問題が解決しない場合は、コンピューターを再起動してください。再起動すると、入力した文字が正しく表示されるようになります。
Apple (または Sun) のキーボードの特殊キーを使って Mac (または Sun) のコンピューターを操作することができない。	お使いのキーボードに合うようにそのポートのキーボードの設定を変更してください。 キーボードの設定を変更する場合は、以下の手順で操作してください。 1. 問題のあるポートの「ポート管理」画面を開いてください。 2. 「キーボード」リストから、使用するキーボードを選択してください。 3. 「保存」ボタンをクリックしてください。 4. ポートに接続されているコンピューターを再起動してください。再起動すると、お使いのキーボードにある特殊キーを使ってコンピューターを操作できるようになります。

Sun

問題	解決方法
D-sub15ピンのコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。(例:Sun Blade 1000 Server)	ディスプレイの解像度は 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 テキストモードで、 - OK モード(下記参照)を起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow で、 - コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> - ログアウトします。 - もう一度ログインします。
13W3のコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。(例:Sun Ultra Server)*	ディスプレイの解像度は 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 テキストモードで、 - OK モード(下記参照)を起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all</pre> XWindow で、 - コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>ffbconfig -res 1024x768x60</pre> - ログアウトします。 - もう一度ログインします。
Sun Solarisサーバーの操作にPCキーボードを使用しているが、[Stop-A]キーを使ってOKプロンプトを起動したい。	下記の操作を行ってください。 [Ctrl]キーを1回押してください。 [T]キーを押したままにしてください。 [A]キーを押してください。 注意: OK プロンプトを起動する前に、注意事項がないかどうか、お使いのサーバーのドキュメントを確認してください。

- * Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。上記の手順で対応しても解決しない場合は Sun VGA カードのマニュアルを一度ご覧ください。

対応 KVM スイッチ

下表は KM0032/KM0532/KM0932 と互換性のある KVM スイッチ、およびそれらを使用した際の拡張方法をまとめたものです。(下記の KVM スイッチは別途購入となります。詳細は販売店までお問い合わせください。)

拡張方法	ブランド	型番	名称
カスケード接続	ALTUSEN	KM0532	5 ユーザー 32 ポート マトリックス KVM スイッチ
カスケード接続	ALTUSEN	KM0932	9 ユーザー 32 ポート マトリックス KVM スイッチ
デジチェーン接続	ALTUSEN	KM0032	ポート拡張ユニット
カスケード接続	ALTUSEN	KH1508	マルチプラットフォーム対応 8 ポート カテゴリ 5 タイプ KVM スイッチ
カスケード接続	ALTUSEN	KH1516	マルチプラットフォーム対応 16 ポート カテゴリ 5 タイプ KVM スイッチ
カスケード接続	ALTUSEN	KH1508A	8 ポート カテゴリ 5 タイプ KVM スイッチ
カスケード接続	ALTUSEN	KH1516A	16 ポート カテゴリ 5 タイプ KVM スイッチ
カスケード接続	ALTUSEN	KN2116A	リモート 2 ユーザー/16 ポート KVM オーバーザネット
カスケード接続	ALTUSEN	KN2124v	24 ポート KVM オーバーザネット
カスケード接続	ALTUSEN	KN2132	リモート 2 ユーザー/32 ポート KVM オーバーザネット
カスケード接続	ALTUSEN	KN2140v	40 ポート KVM オーバーザネット
カスケード接続	ALTUSEN	KN4116	リモート 4 ユーザー/16 ポート KVM オーバーザネット
カスケード接続	ALTUSEN	KN4124v	24 ポート KVM オーバーザネット
カスケード接続	ALTUSEN	KN4132	リモート 4 ユーザー/32 ポート KVM オーバーザネット
カスケード接続	ALTUSEN	KN4140v	40 ポート KVM オーバーザネット

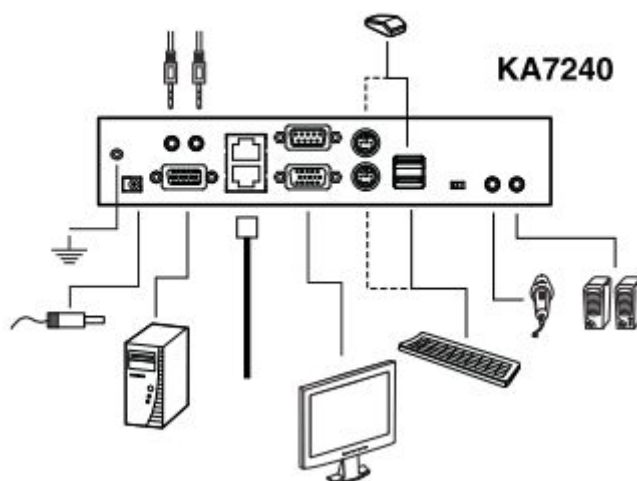
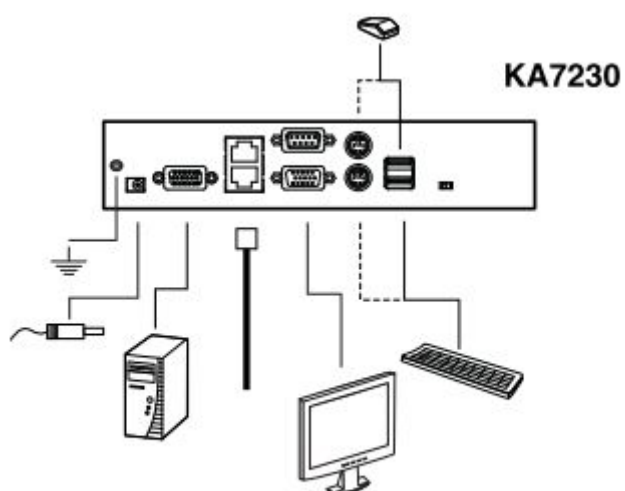
注意: 対応 KVM スイッチに関する最新の情報については、弊社 Web サイトでご確認ください。

KVM スイッチを増設する場合は、下記の点にご注意ください。なお、ここで言及されている距離は、デバイスの接続に使用されているすべてのケーブルの長さを累計した距離を意味します。

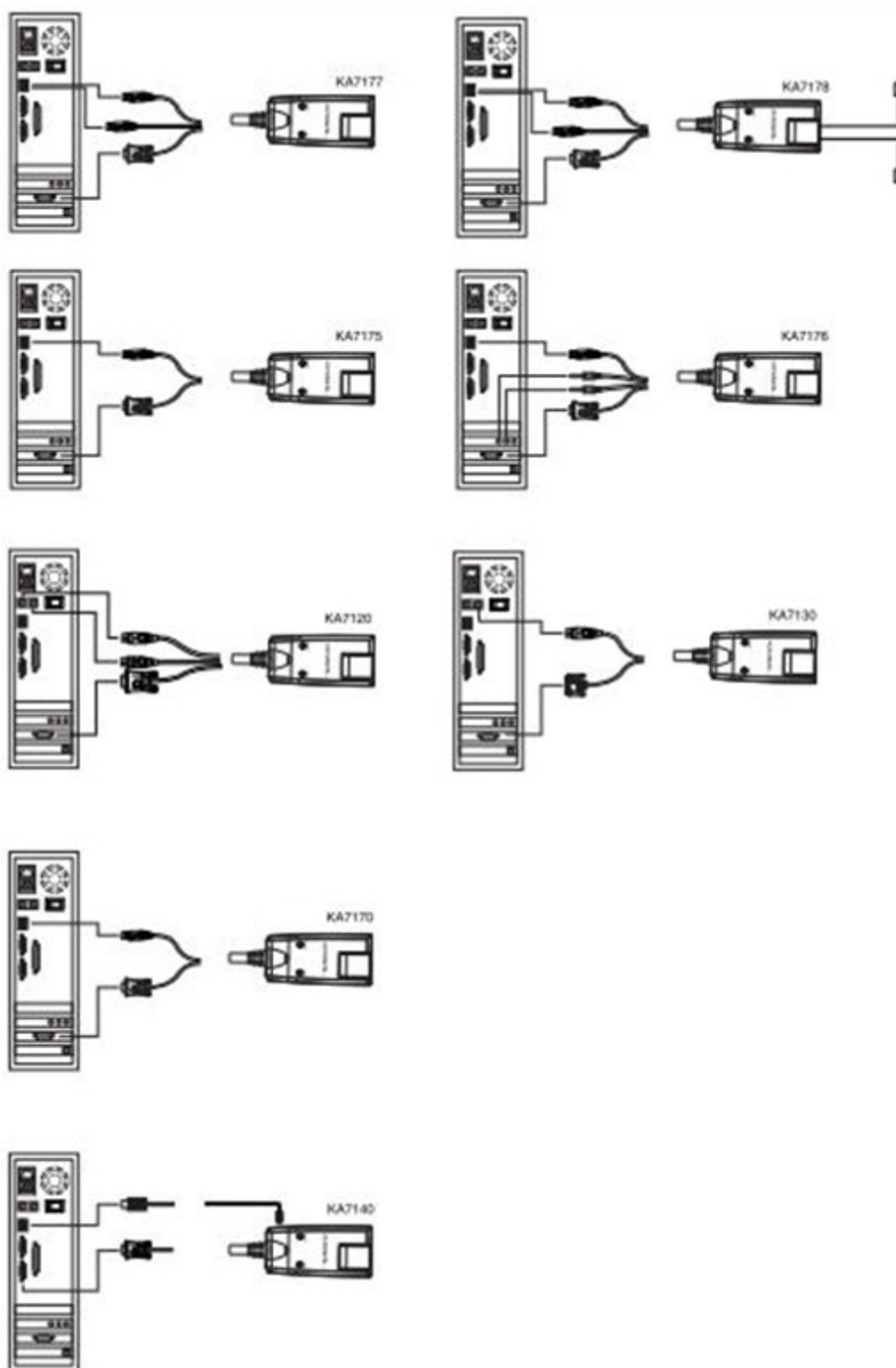
- ◆ コンソールモジュールから最下位にある KVM スイッチ (またはカスケード接続時のマトリックス KVM スイッチからコンピューターモジュール) までの距離が 300m を超えないようにセットアップしてください。
- ◆ デイジーチェーン接続の機器構成における、隣接する 2 台の KVM スイッチの間の距離が 10m を超えないようにセットアップしてください。
- ◆ デイジーチェーン接続の機器構成でお使いになる場合は、1 台目のステーションから末端のステーションまでの距離が 50m を超えないようにセットアップしてください。

その他の接続図

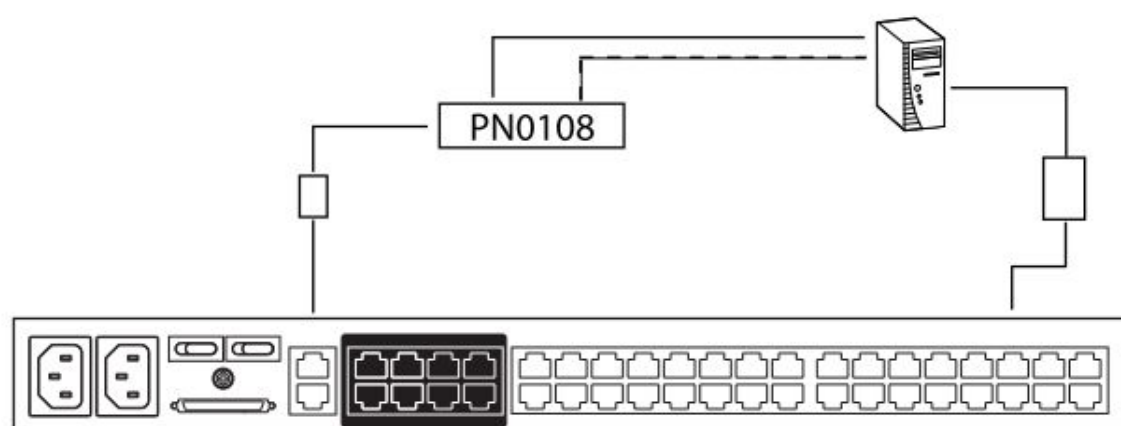
コンソールモジュール



コンピューターモジュール



電源管理デバイスのセットアップ



KM0532/KM0932 製品仕様

機能		KM0532	KM0932
コンピューター接続数	ダイレクト接続時	32	
	デイジーチェーン/ カスケード接続時	8,000 台	
コンソール接続数		5	9
コンピューター側	キーボード	PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル	
対応インターフェース	マウス		
コンソール側	キーボード	PS/2,USB	
対応インターフェース	マウス		
ポート選択方法		GUI、ホットキー	
コンピューター側 コネクター	キーボード	RJ-45×32	
	マウス		
	モニター		
コンソール側コネクター	キーボード	RJ-45×5 (フロント側:1、リア 側:4)	RJ-45×9 (フロント側:1、リア 側:8)
	マウス		
	モニター		
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	電源	ロッカースイッチ×2	
	ファームウェア アップグレード	スライドスイッチ×1	
デイジーチェーンポート	OUT	VHDCI68 ピン メス×1	
LAN ポート		RJ-45×1	
PON ポート		RJ-45×1	
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×2	
LED	コンソールポート (オンライン)	グリーン×5	グリーン×9
	KVM ポート (オンライン/選択)	デュアルカラー(グリーン/レッド)×32	
	電源	ブルー×1	

(表は次のページに続きます)

機能		KM0532	KM0932
キーボード・マウス エミュレーション		PS/2、USB(Windows、Sun、Mac)、シリアル	
スキャンインターバル		1～240 秒(ユーザー設定)/5 秒(デフォルト)	
電源仕様		AC100V～240V 50Hz/60Hz	
消費電力		45W	50W
VGA 解像度		1,280×1,024@60Hz(最大 300m)	
動作環境	動作温度	0～50℃	
	保管温度	-20～60℃	
	湿度	0～80%RH、結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		6.1kg	
サイズ(W×D×H)		434×411×44 mm	
同梱品		電源ケーブル×2 ラックマウントキット×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1	
コンピューター側対応モジュール		《PS/2 用モジュール》 KA7120 《USB 用モジュール》 KA7170 KA7176(バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177(バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(デュアルバス&バーチャルメディア&オーディオ対応) 《シリアルモジュール》 KA7140	

(表は次のページに続きます)

機能	KM0532	KM0932
デ이지ーチェーン対応製品	KM0032	
デ이지ーチェーン用ケーブル	LIN5-68H1-H11G (35cm)	
カスケード対応製品	KM0932 KM0532 KH1508A KH1516A KN2116v/KN2132v/KN4116v/KN4132v KN2116A/KN2132/KN4116/KN4132	
カスケード用モジュール	KA7120 (KH1508A/KH1516A とのカスケード接続時に 使用)	
レガシーSUN システム専用モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)	KA7130	
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン +USB)	KA7170	
MAC 用モジュール	KA7170	
コンソール側対応モジュール	《PS/2、USB 両対応モジュール》 KA7230 KA7240(バーチャルメディア&オーディオ対応)	

KM0032 製品仕様

機能		KM0032
コンピューター接続数	ダイレクト接続時	32
	デイジーチェーン接続時	8,000 台
コンソール接続数		0
コンピューター側対応 インターフェース	キーボード	PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル
	マウス	
コンソール側対応 インターフェース	キーボード	PS/2,USB
	マウス	
ポート選択方法		デイジーチェーン接続による選択
コンピューター側 コネクタ	キーボード	RJ-45×32
	マウス	
	モニター	
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1
	電源	ロッカースイッチ×1
	ファームウェア アップグレード	スライドスイッチ×1
デイジーチェーン ポート	OUT	VHDCI68 ピン メス×2
ファームウェアアップグレードポート		RJ-45×1
PON ポート		RJ-45×1
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×2
LED	KVM ポート (オンライン/選択)	デュアルカラー(グリーン/レッド)×32
	電源	ブルー×1
キーボード・マウス エミュレーション		PS/2、USB(Windows、Sun、Mac)、シリアル
スキャンインターバル		1～240 秒(ユーザー設定)/5 秒(デフォルト)
電源仕様		AC100V～240V 50Hz/60Hz
消費電力		50W
VGA 解像度		1,280×1,024@60Hz(最大 300m)

(表は次のページに続きます)

機能		KM0032
動作環境	動作温度	0～50℃
	保管温度	-20～60℃
	湿度	0～80%RH、結露なきこと
ケース材料		メタル
重量		6.1kg
サイズ(W×D×H)		434×411×44 mm
同梱品		電源ケーブル×2 デイジーチェーンケーブル×1 ラックマウントキット×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1
コンピューター側対応モジュール		《PS/2 用モジュール》 KA7120 《USB 用モジュール》 KA7170 KA7176(バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177(バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(デュアルバス&バーチャルメディア&オーディオ対応) 《シリアルモジュール》 KA7140
デイジーチェーン対応製品		KM0032
デイジーチェーン用ケーブル		LIN5-68H1-H11G (35cm)
レガシーSUN システム専用モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)		KA7130
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)		KA7170

(表は次のページに続きます)

機能	KM0032
MAC 用モジュール	KA7170
コンソール側対応モジュール	《PS/2、USB 両対応モジュール》 KA7230 KA7240(バーチャルメディア&オーディオ対応)

工場出荷時におけるデフォルト設定

本製品の工場出荷時におけるデフォルト設定は下表のとおりです。

設定	デフォルト
アクセス可能なポート	◆ スーパーアドミニストレーター - 全ポートに対してフルアクセス ◆ その他のユーザー - 全ポート未設定
ビープ音	ON (有効)
日時	マイコンピュータに同期
サマータイム (夏時間調整)	有効
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.254
DHCP 有効	Yes (有効)
ホットキーコマンドモード	On (有効)
HTTP ポート	80
HTTPS ポート	443
インターフェース言語	英語
IP アドレス	192.168.0.60
ロックアウト期間	3 分
ログアウトタイムアウト	0 (無効)
最大ログイン失敗	5 回
Occupy タイムアウト	60 秒
ポートアクセス	None (スーパーアドミニストレーターとアドミニストレーターはフルアクセス権限有)
ポート ID 表示時間	ユーザー定義 (3 秒)
Port ID 表示モード	ポートナンバーとポートネーム
Port ID 表示位置	左上
ポート言語	英語(US)
ポート OS	Windows (PC 互換)
スキャン間隔	5 秒
スキャンモード	アクセス可能で電源が ON のコンピュータを対象
スクリーンブランカー	0 (無効)

(表は次のページに続きます)

設定	デフォルト
SMTP サーバーによるメール通知	No(無効)
サブネットマスク	255.255.255.0
ツールバーホットキー	[Scroll Lock][Scroll Lock]
View Mode	アクセス可能で電源が ON のコンピューターを対象

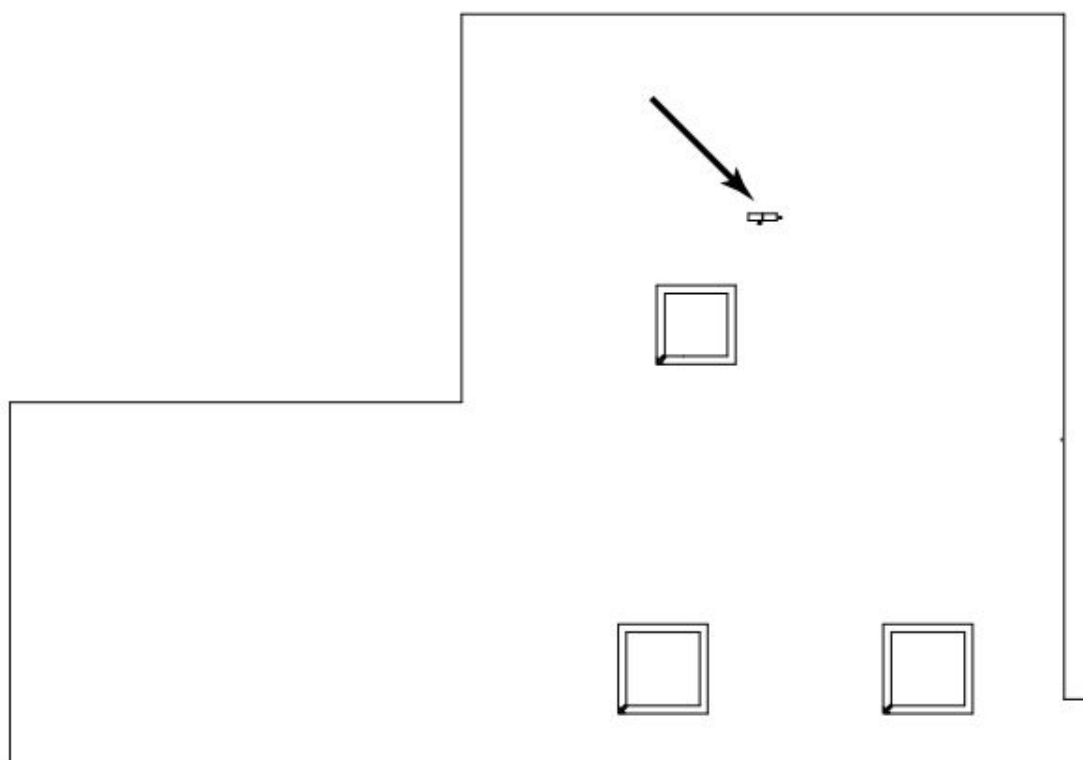
工場出荷時におけるデフォルト設定のリストア

工場出荷時におけるデフォルトのシステム設定やログイン設定をリストアすることができます。

注意: デフォルトのログイン設定をリストアすると、スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザー、グループの各アカウントはすべて削除されます。

工場出荷時におけるデフォルトのシステム設定(p.237 参照)やログイン設定をリストアする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 本体の電源を切って、ケースを外してください。
 - ◆ 工場出荷時におけるシステムのデフォルト設定をリストアする場合は、メインボードにある「J4」と書かれたジャンパーをジャンパーキャップでショートさせてください。
 - ◆ 工場出荷時におけるログインのデフォルト設定をリストアする場合は、メインボードにある「J3」と書かれたジャンパーをジャンパーキャップでショートさせてください。

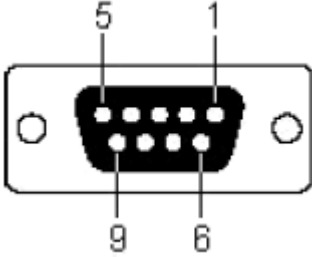


2. 製品本体に電源を入れてください。

3. 工場出荷時におけるデフォルト値がリストアされた、もしくは、デフォルトのユーザーネームとパスワードがリストアされたという内容のメッセージがコンソール画面に表示されたら、製品本体の電源を切ってください。
4. ジャンパーからジャンパーキャップを外してください。
5. 手順 1 で外したケースを元に戻し、製品本体に電源を入れてください。

KA7140 ピンアサイン

KA7140 のピンアサインの詳細は下表のとおりです。

ピン	ピンアサイン	
1	DCD	 DB9 ピン メス
2	RXD	
3	TXD	
4	DTR	
5	GND	
6	DSR	
7	RTS	
8	CTS	
9	N/A	

SPHD コネクタについて



本製品は KVM ポート、またはコンソールポートに対して SPHD コネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用の KVM ケーブルのみ製品に接続することが可能です。